ゼミ名	上原第一ゼミナール (Seminar)	学部	商学部≪マーケティングコース≫	募集学年	新 2 年生 10 名程度	担当教員	上原　義子

選考方法	面談、志望理由書
研究テーマ	マーケティングとリサーチ

ゼミナールの目標・概要・方法

＜概要＞
　マーケティングに関して理論的および実践的に学びながら、調査や研究に必要なスキル、プレゼンテーション能力、社会人になった時に求められる能力などの体得を目指します。

＜進め方＞
　ゼミナールの良いところは、学生参加型であり、学生が自主的に活動を行えることです。したがって、仲間との議論やフィールドワークなどを通じた学生主導型、参加型の授業になります。とはいえ、これはあくまで基本方針であり、適宜、その年のメンバーの様子に合わせて最も効果的なスタイルを取り入れていきます。

　当面の大きな目標は、秋に実施されるプレゼン大会に向けて、講義で習ったマーケティングの知識や先輩からのアドバイスをもとに発表の準備をしていくことです。具体的には、各自で関心のあるマーケティング事例などを持ち寄り、それに関して発表やディスカッションを行いながら大会準備を進めていきます。このプロセスを経ることで、マーケティングの基本的な知識をより一層強固なものとして身につけられると考えています。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎		○		○		

ゼミ教員担当科目	関係する科目
市場調査論 A/B 消費者行動論 A/B	マーケティング論 A/B 市場調査論 A/B、消費者行動論 A/B

テキスト

開講時に指示する。

参考書

開講時に指示する。

成績評価方法

通年で評価する

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
プレゼン大会に向けたグループワーク	大会終了後には、ゼミ内で新たなプレゼンを実施します

<table>
<tr><td>ゼミ名</td><td>上原第二ゼミナール
(Seminar)</td><td>学部</td><td>商学部≪マーケティングコース≫</td><td>募集学年</td><td>募集なし</td><td>担当教員</td><td>上原　義子</td></tr>
<tr><td colspan="2">選考方法</td><td colspan="6">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">研究テーマ</td><td colspan="6">マーケティングとリサーチ</td></tr>
<tr><td>ゼミナールの目標・概要・方法</td><td colspan="7">＜概要＞
　マーケティングに関して理論的および実践的に学びながら、調査や研究に必要なスキル、プレゼンテーション能力、
社会人になった時に求められる能力などの体得を目指します。

＜進め方＞
　ゼミナールの良いところは、学生参加型であり、学生が自主的に活動を行えることです。したがって、仲間との議論やフィールドワークなどを通じた学生主導型、参加型の授業になります。とはいえ、これはあくまで基本方針であり、適宜、その年のメンバーの様子に合わせて最も効果的なスタイルを取り入れていきます。

　マーケティングの基本的な知識を身につけるために、全員でマーケティングのテキストを読み、それに対して発表やディスカッションを行います。また、各自で関心のあるマーケティング事例などを持ち寄り、それに関して発表やディスカッションを行います。あわせて、消費者主体のマーケティング活動を行うために必要なスキルを身につけるため、リサーチ・スキルを身につけていきます。たとえば、自分自身で実際に商品の企画を行い、それに対する消費者の反応をリサーチします。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">到達目標</td><td colspan="7">【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要／○重要)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">(1)常に半歩先立つ進歩性</td><td colspan="3">(2)考えて行動する力</td><td colspan="3">(3)ともに行動する力</td></tr>
<tr><td>①問題を解決する力</td><td>②論理的に考える力</td><td>③複数の視点から考える力</td><td>①コミュニケーションする力</td><td>②他者を受け入れる力</td><td>③倫理観と社会的責任</td></tr>
<tr><td>◎</td><td></td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>ゼミ担当教員科目</td><td colspan="3">市場調査論 A/B
消費者行動論 A/B</td><td>関係する科目</td><td colspan="3">マーケティング論 A/B
市場調査論 A/B</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">開講時に指示する。</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">開講時に指示する。</td></tr>
<tr><td>成績評価方法</td><td colspan="7">通年で評価する</td></tr>
<tr><td>年間授業計画</td><td colspan="3">（春学期）

テキストの輪読とディスカッションなど。</td><td colspan="4">（秋学期）

ゼミの総括では、論文の執筆を行います。</td></tr>
</table>

ゼミ名	嘉瀬第一ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《マーケティングコース》	募集学年	新２年生　10名 新３年生　0名	担当教員	嘉瀬　英昭

選考方法	筆記試験
研究テーマ	運輸業(物流業・交通業)と観光業に関する研究

ゼミナールの目標・概要・方法

本ゼミナールは、主に運輸業について研究する。また、関連の深い観光業についても対象とする。
研究対象である運輸業とは、自動車、鉄道、航空機、船舶などを利用し、移動サービスを提供する事業者のことである。物を対象とする物流業と、人を対象とする交通業に分けられる。また、観光業は交通業と密接に関わりがあり、交通分野の研究と併せて行われることも多い。本ゼミでは主にこれからの分野に属する企業等について研究を進めていく。
２年次と３年次においては、年度初めに関心がある領域ごとにグループ分けを行い、学生が自ら研究テーマを決定する。さらに、それらの理解を深めるため基礎データや既存研究の収集と分析を行う。最終的には、ゼミ発表等で成果を発表する。また、学外の研究報告会へも可能な限り参加する。
ゼミ内では上級生が下級生を指導する役割を担う。

【授業の方法】
運輸業等に関する研究は、理論研究に加え現実の世界を知ることがより重要となる。したがって、可能な限り企業や施設等を訪問・見学することとする。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要／○重要)

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	○	○	○	◎	

ゼミ教員担当科目	物流論、流通論	関係する科目	サービスマーケティング論、観光マーケティング論 地域ビジネス論、物流論

テキスト

開講時に指示する

参考書

開講時に指示する

成績評価方法

ゼミ単位取得のためには、特別な理由のない限り欠席および遅刻をしないことが最低限必要となる。評価についてはゼミ活動全般に対しての積極性により行う。

年間授業計画

(春学期)	(秋学期)
・オリエンテーション ・研究テーマの決定とグループ分け ・既存の研究の収集と基礎知識の整理 ・学会の研究報告会へ参加	・グループ研究 ・ゼミ発表と準備 ・企業訪問等

ゼミ名	嘉瀬第二ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《マーケティングコース》	募集学年	募集なし	担当教員	嘉瀬　英昭

選考方法	―
研究テーマ	運輸業(物流業・交通業)と観光業に関する研究

ゼミナールの目標・概要・方法

本ゼミナールは、主に運輸業について研究する。また、関連の深い観光業についても対象とする。第一ゼミから継続して履修する４年が対象となる。

【授業の方法】
４年次は、個人研究と卒業論文の作成が中心となる。また、後輩への指導も行う。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要／○重要)

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	○		○	○	

ゼミ教員担当科目	関係する科目
物流論、流通論	サービスマーケティング論、物流論

テキスト

開講時に指示する

参考書

開講時に指示する

成績評価方法

単位取得のためには、卒業論文の提出が必要となる。評価についてはゼミ活動全般に対しての積極性により行う。

年間授業計画

(春学期)	(秋学期)
・オリエンテーション ・卒業論文のテーマ決定 ・下級生の指導	・卒業論文の調査 ・卒業論文の準備と作成

<table>
<tr><td>ゼミ名</td><td>齋藤典晃第一ゼミナール
（Seminar）</td><td>学部</td><td>商学部《マーケティングコース》</td><td>募集学年</td><td>新 2 年生 10 名程度</td><td>担当教員</td><td>齋藤　典晃</td></tr>
<tr><td colspan="2">選考方法</td><td colspan="6">エントリーシート　面接</td></tr>
<tr><td colspan="2">研究テーマ</td><td colspan="6">マーケティング戦略論</td></tr>
<tr><td>ゼミナールの目標・概要・方法</td><td colspan="7">【目標】
本ゼミナールは、マーケティングの理論に関する基礎的な知識を習得することを目的としています。
またマーケティングの基礎的な知識を身につけた上で、実践に役立つマーケティングの知識を習得することを目的とします。具体的には、世の中の事象をマーケティングの視点から考えることができるようになることを目標とします。

【概要】
マーケティングの基礎的な知識、実践的な知識を身につけるだけでなく、その知識を活かすためのスキルを身につけていきます。例えば、プレゼンテーションやディスカッションなどを通じて、マーケティングの知識をより有用に活用できるようにしていきます。

【方法】
講義形式ではなく、プレゼンテーションやディスカッションなど、学生の自主的、積極的な参加を求めます（アクティブ・ラーニング）。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">到達目標</td><td colspan="7">【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">(1)常に半歩先立つ進歩性</td><td colspan="3">(2)考えて行動する力</td><td colspan="3">(3)ともに行動する力</td></tr>
<tr><td>①問題を解決する力</td><td>②論理的に考える力</td><td>③複数の視点から考える力</td><td>①コミュニケーションする力</td><td>②他者を受け入れる力</td><td>③倫理観と社会的責任</td></tr>
<tr><td>◎</td><td>○</td><td>◎</td><td>○</td><td>◎</td><td>○</td><td>◎</td></tr>
<tr><td>ゼミ担当教員科目</td><td colspan="3">マーケティング論、広告論</td><td>関係する科目</td><td colspan="3">マーケティング論、広告論、その他関連科目</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">開講時に指示する。</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">必要に応じて指示する。</td></tr>
<tr><td>成績評価方法</td><td colspan="7">受講態度
グループ活動やその他の活動への積極性</td></tr>
<tr><td>年間授業計画</td><td colspan="3">（春学期）
・マーケティングの基礎知識の習得
・プレゼンテーション</td><td colspan="4">（秋学期）
・マーケティングの基礎知識の習得
・プレゼンテーション
・研究テーマの選定</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>ゼミ名</td><td>齋藤典晃第二ゼミナール
(Seminar)</td><td>学部</td><td>商学部《マーケティングコース》</td><td>募集学年</td><td>新 3 年生 5 名程度</td><td>担当教員</td><td>齋藤　典晃</td></tr>
<tr><td colspan="2">選考方法</td><td colspan="6">エントリーシート　面接</td></tr>
<tr><td colspan="2">研究テーマ</td><td colspan="6">マーケティング戦略論</td></tr>
<tr><td>ゼミナールの目標・概要・方法</td><td colspan="7">【目標】
本ゼミナールは、マーケティングの理論に関する基礎的な知識を習得することを目的としています。
またマーケティングの基礎的な知識を身につけた上で、実践に役立つマーケティングの知識を習得することを目的とします。具体的には、世の中の事象をマーケティングの視点から考えることができるようになることを目標とします。

【概要】
マーケティングの基礎的な知識、実践的な知識を身につけるだけでなく、その知識を活かすためのスキルを身につけていきます。例えば、プレゼンテーションやディスカッションなどを通じて、マーケティングの知識をより有用に活用できるようにしていきます。また卒業論文作成に向けたテーマの選定や、マーケティングの研究の方法についても習得していきます。

【方法】
講義形式ではなく、プレゼンテーションやディスカッションなど、学生の自主的、積極的な参加を求めます（アクティブ・ラーニング）。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">到達目標</td><td colspan="7">【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">(1)常に半歩先立つ進歩性</td><td colspan="3">(2)考えて行動する力</td><td colspan="3">(3)ともに行動する力</td></tr>
<tr><td>①問題を解決する力</td><td>②論理的に考える力</td><td>③複数の視点から考える力</td><td>①コミュニケーションする力</td><td>②他者を受け入れる力</td><td>③倫理観と社会的責任</td></tr>
<tr><td>◎</td><td>○</td><td>◎</td><td>○</td><td>◎</td><td>○</td><td>◎</td></tr>
<tr><td>ゼミ担当教員科目</td><td colspan="3">マーケティング論、広告論</td><td>関係する科目</td><td colspan="3">マーケティング論、広告論、その他関連科目</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">開講時に指示する。</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">必要に応じて指示する。</td></tr>
<tr><td>成績評価方法</td><td colspan="7">受講態度
グループ活動やその他の活動への積極性</td></tr>
<tr><td>年間授業計画</td><td colspan="3">（春学期）
・マーケティングの基礎知識の習得
・プレゼンテーション
・研究テーマの選定</td><td colspan="4">（秋学期）
・マーケティングの基礎知識の習得
・プレゼンテーション
・研究テーマの選定
・研究方法</td></tr>
</table>

ゼミ名	庄司第一ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《マーケティングコース》	募集学年	新2年生　15名 新3年生　若干名	担当教員	庄司　真人

選考方法	エントリーシート　面接による総合評価
研究テーマ	マーケティング

ゼミナールの目標・概要・方法

庄司第一ゼミはマーケティング論に関する基礎知識やマーケティングの考え方を身につけることを目標とする。庄司第一ゼミは2年生および3年生から構成される。

2 年次には①基礎的なテキストの輪読、②マーケティングの調査技法を身につけることが中心となる。3 年次にはグループに 3 つ程度に分け、グループ別にテーマを設定し、研究を行う。テーマは各グループで設定することになる。また、グループ活動を進める上で教員や他のゼミ員からのアドバイスを受けて、進めてもらうことになる。

＜これまでのゼミ生の研究テーマ＞

参考までに過年度のゼミ発表のテーマは以下のとおりである。

(平成 29 年度)「学割」「健康登山」「ブックシェア「
(平成 28 年度)「友だちの日」「健康経営と自動販売機」「動物園
(平成 27 年度)「カジノ」「健康スイーツ」「複合施設」
(平成 26 年度)「オリンピックと地方活性化」「コンプレックス」
(平成 25 年度)「ご当地キャラを使って募金活動」「旅行のきっかけ作り」「ライフコースに合わせた新しい趣味」
(平成 24 年度)「ひとまち（一人向けマーケティング)」「QOCL（大学生活充実)「自動販売機」
(平成 23 年度)「ランキング・マーケティング」「店頭プロモーション」「共同購入クーポン」
(平成 22 年度)「フリーペーパー」「百貨店」「AR 広告」
(平成 21 年度)「コストコ」「なみすけ」
(平成 20 年度)「エコバッグ」「ゲーム広告」

＜活動内容とアドバイザー制度＞

本ゼミでは、「社会に有用な人材育成」という事を目標としているため、グループワークや調査、合宿を行う。また、本学のアドバイザー制度の趣旨に基づき、就職活動に対する相談も 3 年時より行う。

＜社会とのつながり＞

本ゼミでは、外部講師を呼び、マーケティングの現状について解説を行ってもらうこともある。また、ゼミ活動を通じて積極的にインタビュー調査を実施してもらうことになる。

【授業の方法】
ケース教材を用いたディスカッション、インタビュー・アンケート調査等のアクティブラーニング形式で行われる。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要／○重要)

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	○	◎	◎	◎

ゼミ担当教員科目	関係する科目
マーケティング論 A/B、流通経営論 A/B	マーケティング論の他、マーケティングに関連する科目

テキスト

開講時に指示する。
新津重幸・庄司真人〔編〕『マーケティング論』(改訂版) 白桃書房、原田保他『食文化のスタイルデザイン』大学教育出版、ラッシュ・バーゴ著井上崇通監訳『サービス・ドミナント・ロジックの発想と応用』同文舘出版などを利用する。

参考書

徳永豊他編『詳解マーケティング辞典』同文舘出版、バロン著『リレーションシップ・マーケティング』同友館、井上崇通・村松潤一編『ベーシック流通論』同文舘出版、経営学検定協議会〔編〕『マーケティング』中央経済社など。

成績評価方法

① 受講態度
ゼミへの出席はもちろんのこと、サブゼミや合宿（春・夏)、各種懇親会への参加が求められる。無断欠席は厳禁である。
② グループ活動への積極的関与
自らが積極的に提案したり、調査したりする姿勢を特に重視する。

年間授業計画

(春学期)	(秋学期)
＜2 年次＞ ・マーケティングの基礎研究（輪読） ・フィールド調査 ＜3 年次＞ ・ゼミ発表会、インナー大会に向けた準備	＜2 年次＞ ・マーケティングの基礎研究（輪読） ・各種調査の実施 ・3 年次のゼミ発表会に向けたグループ活動 ＜3 年次＞ ・インナー大会およびゼミ発表会への参加・発表

ゼミ名	庄司第二ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《マーケティングコース》	募集学年	募集なし	担当教員	庄司　真人

選考方法	―
研究テーマ	マーケティング

ゼミナールの目標・概要・方法

庄司第二ゼミは、現代企業のマーケティング戦略の構造を実証的に明らかにしていくことを目的とする。
まず、マーケティング戦略の構造に対して、仮説を設定することから始まる。仮説は各種文献および観察などによって得られる。また、場合によっては企業に直接インタビューすることで、さまざまな問題点が浮かび上がってくるであろう。設定された仮説をもとに、実証的研究を行う。そして、そこで得られた成果を卒業論文によって発表してもらうことになる。
このゼミでは、マーケティングの動向を理解するために外部講師の方に話をしてもらうことを予定している。
なお、アドバイザー制度の一貫として、進路等を踏まえた個別面談を行う。

【授業の方法】
卒業論文作成過程において、インタビュー・アンケート調査等を行うことになる。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要／○重要)

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	◎	◎	○	◎

ゼミ担当教員科目	関係する科目
マーケティング論 A/B、流通経営論 A/B	マーケティング論の他、マーケティングに関連する科目

テキスト

開講時に指示する。

参考書

新津重幸・庄司真人〔編〕『マーケティング論』白桃書房、原田保『世界遺産の地域価値創造戦略』芙蓉書房、徳永豊他編『詳解マーケティング辞典』同文舘出版、R.ラッシュ、S.バーゴ著『サービス・ドミナント・ロジックの発想と応用』同文舘出版、バロン著『リレーションシップ・マーケティング』同友館、井上崇通・村松潤一編『ベーシック流通論』同文舘出版、経営学検定協議会〔編〕『マーケティング』中央経済社、原田保他編『食文化のスタイルデザイン』大学教育出版など。

成績評価方法

① 受講態度
ゼミへの出席はもちろんのこと、サブゼミや合宿（春・夏)、各種懇親会への参加が求められる。無断欠席は厳禁である。
② グループ活動への積極的関与
自らが積極的に提案したり、調査したりする姿勢を特に重視する。

年間授業計画

(春学期)	(秋学期)
4月から6月 テキスト輪読・面談 7月から9月 卒論テーマ設定・文献調査	10月から11月 作成した論文の読み合わせ及び検討 ゼミ発表会に向けた第一ゼミへのアドバイス 11月から1月 卒論中間発表 卒論提出

ゼミ名	永井第一ゼミナール（Seminar）	学部	商学部≪マーケティングコース≫	募集学年	新 2 年生 最大 25 名 新 3 年生 若干名	担当教員	永井 竜之介

選考方法	レポート課題、面接
研究テーマ	マーケティング情報論（Digital Marketing）

ゼミナールの目標・概要・方法

本ゼミでは、大企業、ベンチャー企業、中小企業という幅広いプレーヤーによるマーケティング戦略について、マーケティング情報論（Digital Marketing）の視点から分析を行っていきます。デジタル・マーケティングと聞くとネットサービス企業が思い浮かぶかもしれませんが、現在、あらゆる企業活動、マーケティング戦略にはデジタル・マーケティングが密接に関わっています。

環境と消費者の変化が加速していく中で、「優れたモノ（サービス）を作る、売る、広める」といったマーケティング戦略もまた、急速に変化を続けています。本ゼミは、現在進行形で変わっていくマーケティングの最前線について、問題意識を持ち、知り、考えていく場です。

また、本ゼミを通じて「自分の人生のマーケティング」についての知見と考え方を養っていってもらいます。現在の自分が知っている世界に留まらずに、これまで知らなかった企業、マーケティング、世界、生き方について学び、人生の選択肢や価値観を広げていきましょう。そのために、通常のゼミ活動に加えて、外部講師によるゲスト講演や、企業訪問、施設視察等を予定しています。2・3 年生は大企業とベンチャー企業を対象とした事例研究、4 年生は中小企業を対象としたフィールドワークが研究活動の中心となる予定です。

[授業の方法]
個人で作成したレポートについて、プレゼンとディスカッション、
またグループワークに基づく研究発表とディスカッション、
さらには外部ゲスト講演や企業訪問といったアクティブラーニングを実施する。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	◎	◎	◎	○

ゼミ担当教員科目		関係する科目	
	マーケティング情報論 A/B マーケティング論 A/B		左記およびマーケティング関連科目

テキスト

特になし

参考書

必要に応じて紹介していきます。

成績評価方法

ゼミ活動における出席状況、参加姿勢、グループワークでの働き等を総合的に評価します。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
■ 個人での課題レポートへの取り組み ■ 課題レポートのゼミ発表 ■ マーケティング・トレンドの共有 ■ グループ決めと研究テーマ選び	■ グループワークの経過報告 ■ ディスカッション ■ 各研究テーマの最終発表

ゼミ名	永井第二ゼミナール（Seminar）	学部	商学部≪マーケティングコース≫	募集学年	募集なし	担当教員	永井 竜之介

選考方法	―
研究テーマ	マーケティング情報論（Digital Marketing）

ゼミナールの目標・概要・方法

本ゼミでは、大企業、ベンチャー企業、中小企業という幅広いプレーヤーによるマーケティング戦略について、マーケティング情報論（Digital Marketing）の視点から分析を行っていきます。デジタル・マーケティングと聞くとネットサービス企業が思い浮かぶかもしれませんが、現在、あらゆる企業活動、マーケティング戦略にはデジタル・マーケティングが密接に関わっています。

環境と消費者の変化が加速していく中で、「優れたモノ（サービス）を作る、売る、広める」といったマーケティング戦略もまた、急速に変化を続けています。本ゼミは、現在進行形で変わっていくマーケティングの最前線について、問題意識を持ち、知り、考えていく場です。

また、本ゼミを通じて「自分の人生のマーケティング」についての知見と考え方を養っていってもらいます。現在の自分が知っている世界に留まらずに、これまで知らなかった企業、マーケティング、世界、生き方について学び、人生の選択肢や価値観を広げていきましょう。そのために、通常のゼミ活動に加えて、外部講師によるゲスト講演や、企業訪問、施設視察等を予定しています。2・3 年生は大企業とベンチャー企業を対象とした事例研究、4 年生は中小企業を対象としたフィールドワークが研究活動の中心となる予定です。

[授業の方法]
個人で作成したレポートについて、プレゼンとディスカッション、
またグループワークに基づく研究発表とディスカッション、
さらには外部ゲスト講演や企業訪問といったアクティブラーニングを実施する。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	◎	◎	◎	○

ゼミ担当教員科目		関係する科目	
	マーケティング情報論 A/B マーケティング論 A/B		左記およびマーケティング関連科目

テキスト

特になし

参考書

必要に応じて紹介していきます。

成績評価方法

ゼミ活動における出席状況、参加姿勢、グループワークでの働き等を総合的に評価します。

年間授業計画

（春学期）

- ■ 個人での課題レポートへの取り組み
- ■ 課題レポートのゼミ発表
- ■ マーケティング・トレンドの共有
- ■ グループ決めと研究テーマ選び

（秋学期）

- ■ グループワークの経過報告
- ■ ディスカッション
- ■ 各研究テーマの最終発表

ゼミ名	恩藏第一ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《金融コース》	募集学年	新2年生　10名 新3年生　0名	担当教員	恩藏　三穂

選考方法	面接
研究テーマ	リスクと保険

ゼミナールの目標・概要・方法

私たちの身のまわりには、地震、火災、病気、ケガなど、たくさんのリスクがあります。生活していく上で、これらのリスクをうまく対処していく重要な手段として「保険」があります。学生の頃は「保険は関係ない」と思っていても、例えば一人暮らしでマンションを借りると、火災リスク等をカバーしてくれる「火災保険」や「借家人賠償責任保険」に加入する必要があります。実際、日本では生命保険の世帯加入率は約 90%もあり、多くの人々が保険に加入しています。自動車保険（自賠責保険）についてみると、車の所有者は全員加入しなくてはなりません。いまや保険は私達の生活に必要不可欠なものといえるでしょう。

さて金融コースには、金融業界を目指す学生を対象とした「ファイナンシャルマスター・プログラム」が設置されています。このプログラムの重要な一つとして、「ファイナンシャル・プランナー（FP)」があげられます。生活に密着したお金に関する分野を扱う「ファイナンシャル・プランナー（FP)」の資格は、保険はもちろん、銀行や証券などの金融業界、住宅メーカーなどの不動産業界において大いに役立っています。

本ゼミナールでは、リスクと保険の本質を正しく理解してもらうとともに、身近なリスクに焦点をあて、リスクマネジメントや保険に関する実際のケースを取り上げて議論していきたいと思います。具体的には、グループに分かれて、興味あるテーマを選定してもらい、報告の進捗状況によって、ゼミ内でプレゼンテーションしてもらいます。さらにゼミで議論することによって、研究内容を深めてもらい、最終的には、秋学期の学生発表会でプレゼンテーションしてもらいます。
なお、学生から要望があれば、ファイナンシャル・プランナーの資格取得のための学習を行う場合があります。

[授業の方法]
本年度も全労済からの委託研究を受け、保険の類似制度である「共済」について研究中です。本研究に関し、他大学（明治大学および日本大学）との研究交流があります。2017 年度は、全労済から「奨励賞」が授与されました。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	○		◎		○

ゼミ担当教員科目	保険論、リスクマネジメント論、	関係する科目	保険論、リスクマネジメント論、 ファイナンシャル・プランニング論

テキスト

必要に応じて指示します。

参考書

必要に応じて指示します。

成績評価方法

ゼミへの貢献度（出席状況や活動内容など）によって評価します。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
ゼミ生自身で研究テーマを決めて、グループ発表をしてもらいます。この作業は、秋の学生発表会におけるプレゼンテーション及び論文の作成を最終目標としています。	ゼミ生自身で研究テーマを決めて、グループ発表をしてもらいます。この作業は、秋の学生発表会におけるプレゼンテーション及び論文の作成を最終目標としています。

ゼミ名	恩蔵第二ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《金融コース》	募集学年	募集なし	担当教員	恩蔵　三穂

選考方法	―
研究テーマ	リスクと保険

ゼミナールの目標・概要・方法

恩蔵第一ゼミナールでの研究をもとに、各自、自分たちの研究テーマを設定し、卒業論文を完成することを目標としています。

まず、春学期に研究計画書を提出してもらい、本ゼミナールでプレゼンテーションしてもらいます。各プレゼンテーションにつき、ゼミ生同士で議論するなどして研究内容を深めてもらいます。ゼミ生の進捗状況に応じて、何度かこの過程を繰り返すことによって、卒業論文をまとめることになります。

[授業の方法]
アクティブ・ラーニングの一環として、2017 年度は全労済からの委託研究を受け、保険の類似制度である共済のマーケティングについて研究中です。本研究に関し、他大学との研究交流（明治大学および日本大学）があります。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎				○

ゼミ教員担当科目	関係する科目
保険論、リスクマネジメント論	保険論、リスクマネジメント論、 ファイナンシャル・プランニング論

テキスト

必要に応じて指示します。

参考書

必要に応じて指示します。

成績評価方法

ゼミへの貢献度（出席状況や活動内容など）によって評価します。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
ゼミ生自身で研究テーマを決めて、発表をしてもらいます。この作業は、卒業論文の作成を最終目標としています。	ゼミ生自身で研究テーマを決めて、発表をしてもらいます。この作業は、卒業論文の作成を最終目標としています。

ゼミ名	楠美第一ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《金融コース》	募集学年	新２年生　15 名 新３年生　若干 名	担当教員	楠美　将彦

選考方法	面接。事前に自己紹介用紙を提出してもらう。
研究テーマ	ファイナンス論

ゼミナールの目標・概要・方法

【ゼミナールの目標】
このゼミでは、金融の中でもファイナンスに関わる事象を学び、研究していく。単なる知識の蓄積にとどまらず、なぜそのような行動になるのか、なぜこのような変化が起きたのかなどの検討を行っていく。

【ゼミナールの概要】
授業内容は、春学期はファイナンスに関わる基本的な知識の蓄積を目的とする。具体的なテーマやテキストは第１回目にゼミ生同士で相談して決めてもらう。秋学期はゼミ発表に向け何らかのテーマを研究していく。ゼミ発表後は１本のレポートを書くことを目的として、テーマ選択、内容検討を行っていく。

上記の内容に平行して、1 年間を通じて株式投資の検討も行っていく。単に、株式選択をするのではなく、なぜその銘柄を選択したのかを相互に検討し、企業や株式に対する理解を深めていく。

主な年間行事は、ゼミナール発表会への参加、夏期ゼミ合宿である。

さらに、楠美第二ゼミナールへの参加も義務とする。

【授業の方法】
授業はゼミ員による報告形式ですすめていく。担当者はパワーポイントレジュメを作成し、報告を進めていく。報告者以外のゼミ員は積極的にコメントすることを希望する。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	○	◎	◎	

ゼミ担当教員科目		関係する科目	
	金融総論、金融論、金融工学		経済学、ミクロ経済学、銀行論、ファイナンシャルプランニング、論、証券論、金融論などの金融関連科目

テキスト

第１回目の授業で決定する。
昨年度は、金融論に関するテキストの輪読を行った。

参考書

授業内で適宜指示する。

成績評価方法

基本的に出席は義務とする。
授業やチーム作業への参加姿勢などから総合的に評価を行う。
授業の理解度以上に、やる気の有無を重要視する。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
4 月に決定した教科書をもとに報告を順次行ってもらう。秋にあるゼミ発表のテーマを見据えて、基本的な知識の習得、研究方法の習得などを行っていく。	11 月まではゼミ発表会に向けての研究を進めてもらう。それ以後は各人が自由にテーマを１つ選び、順次報告していってもらい、1 月末にレポートを提出してもらう。

ゼミ名	楠美第二ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《金融コース》	募集学年	募集なし	担当教員	楠美　将彦

選考方法	―
研究テーマ	ファイナンス論

ゼミナールの目標・概要・方法

【ゼミナールの目標】
卒業論文を作成し、完成することを目標とする。

【ゼミナールの概要】
楠美第二ゼミナールでは、3年生までに培った金融や経済に関する知識を基に、卒論完成に向けての研究を進めてもらう。テーマは金融や経済に関するものであればどのようなものでもかまわないが、単なる情報の集積ではなく、何らかの疑問点に対する考察を行うことを重視する。

卒論の進行に合わせて報告を行ってもらう。

【授業の方法】
各自のテーマに沿って、論文もしくはレジュメを作成し、報告する。ゼミでは相互に質疑応答を行う。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要／○重要)

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎			

ゼミ担当教員科目		関係する科目	
	金融論、金融総論、金融工学		経済学、ミクロ経済学、銀行論、ファイナンシャルプランニング、論、証券論、金融論などの金融関連科目

テキスト

特に指定しない。

参考書

各人の研究テーマにあわせて適宜指示する。

成績評価方法

基本的に、卒論の執筆は義務とする。ただし、就職活動は考慮する。
授業や卒論内容などから総合的に評価を行う。

年間授業計画

(春学期)	(秋学期)
過去の学習・研究内容・進級レポートをもとに、卒論のテーマを決定する。さらにテーマに関する基本的文献の調査・理解に努めてもらう。学期終了までに大まかな卒論の構成が完成することを目標とする。	卒論研究を逐次報告してもらう。 卒論では、基礎研究の検討が十分か、独自の視点があるか、論理的な展開ができているかといった点を重視する。卒論の提出を最終目標とする。

ゼミ名	柴田第一ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《金融コース》	募集学年	新２年生　10 名 新３年生　0 名	担当教員	柴田　舞

選考方法	面接
研究テーマ	証券市場分析

ゼミナールの目標・概要・方法

本ゼミでは、証券市場の仕組みや分析方法について勉強します。特に株式市場について勉強します。

テレビのニュースなどでは毎日、株価が伝えられています。経済に関わる人たちは株価に大きな関心を抱き、日々その値動きを注目しています。株価や株価指数は重要な数値です。では、これらはどのように決まっているのでしょうか。それを知るために、株式の取引方法や、株価や株価指数の決まり方、東京証券取引所のシステム等について、本ゼミで勉強していきます。

春学期には株式市場に関する知識を増やすために、株ゲームを実施します。これは日本証券業協会が主催しているゲームで、仮想空間で１チームあたり 1000 万円を運用します。ゲーム内の株価は現実の株価と同じです。このゲームで株を売買することをきっかけとして、現実の経済や金融への興味・気づきを得ます。

気づいた点についてゼミ参加者で担当箇所を決めて調べ、随時、発表します。他の参加者は質問やコメントをしてゼミに積極的に参加してください。お互いのコミュニケーションが理解を深めます。

秋学期には、ゼミナール発表会へ向けて研究を深めます。発表では各自が積極的に役割を担ってください。

発表会後は個人でテーマを決めて、レポートをまとめます。

ゼミの目標は、株式市場に関する知識を得て、自分なりの分析ができることです。また、関連する金融や経済の理解も、目標に掲げます。

【授業の方法】
銘柄分析や、経済状況の確認などを、グループで話し合う。株ゲームで実践に近い経験を積む。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	○	◎	○	○

ゼミ担当教員科目	証券論、経済学（ミクロ基礎）、経済学（マクロ基礎）	関係する科目	証券論、経済学（ミクロ基礎）、経済学（マクロ基礎）、金融総論。

テキスト

適宜、指示します。

参考書

適宜、指示します。

成績評価方法

出席状況やゼミへの貢献度（討議への参加程度、発表など）を総合的に評価します。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
株ゲームでの売買。 個別テーマ調べ。	個人またはグループで研究を進めて、成果を発表します。 秋学期終了時には個人でレポートをまとめます。 秋のゼミナール発表会における発表を目標として準備を進めます。

ゼミ名	柴田第二ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《金融コース》	募集学年	募集なし	担当教員	柴田　舞

選考方法	―
研究テーマ	証券市場分析

ゼミナールの目標・概要・方法

本ゼミでは、3 年生までに勉強した事柄を基にして、さらに研究を進め、最終的には卒業論文を執筆します。研究内容は 3 年生までにゼミで取り組んだ内容を発展させます。
参加学生は適宜、ゼミ内で研究進捗状況を発表します。

【授業の方法】
銘柄分析や、経済状況の確認などを、グループで話し合う。株ゲームで実践に近い経験を積む

。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要／○重要)

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	○	◎	○	○

ゼミ担当教員科目	関係する科目
証券論、経済学（ミクロ基礎)、経済学（マクロ基礎)	証券論、経済学（ミクロ基礎)、経済学（マクロ基礎)、金融総論

テキスト

適宜、指示します。

参考書

適宜、指示します。

成績評価方法

出席状況やゼミへの貢献度（討議への参加程度、発表など）を総合的に評価します。

年間授業計画

(春学期)	(秋学期)
3 年生までの研究テーマの復習と、その研究の発展可能性を確認する。論文執筆に必要な資料を集める。	論文執筆。適宜、発表する。発表に対してコメントをもらい、書き直す。この作業を繰り返し、論文を完成させる。

ゼミ名	高田ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《金融コース》	募集学年	新3年生　3名	担当教員	高田　大安

選考方法	面接
研究テーマ	日本経済と企業活動を学ぶ

ゼミナールの目標・概要・方法

・このゼミでは、日本経済に関する各種の出来事や変化を、日本経済新聞の記事から読み解いていきます。

・学習方法は極めてシンプルで、日本経済や日本企業に関する注目すべき新聞記事をピックアップしていきます。そして、それをゼミ生みんなで輪読し、意見交換します。

記事等の取り上げ方は、次のとおりとします。

- 日本経済の大きな変化を指し示すと思われる記事を集め、輪読します。
- 注目すべき企業の決算やプロジェクトに関する記事を解読します。
- 個々のゼミ生が関心を持つ個別企業や業種の記事にもスポットライトを当てます。

・こうした取組みを通じて、ゼミ生が4年生になって就職活動を行ううえで不可欠な「企業や業種に関する基礎知識」を身に着けることを第一目標とします。

・第二目標は、ゼミ生が関心のある特定企業のホームページを閲覧してIR資料にたどり着き、それを読み込めるようになるよう成長を促します。さらに、余裕のあるゼミ生には、同じ業種の２つの企業を比較研究することにもトライしてもらいます。

・第三目標は、ゼミ生がゼミ発表会のテーマを自発的に選び、積極的に資料を作成し、迫力のある発表をすることです。

【授業の方法】
・個別企業の把握力向上のため、自分が選択した同業種の2社について情報を集め、比較分析してプレゼンすることを義務付けている。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要／○重要)

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	○	○	○	○	○

ゼミ担当教員科目	関係する科目
銀行論、金融総論	銀行論、証券論、保険論 マクロ経済学、金融論

テキスト

適宜、資料を配布します 。

参考書

必要に応じて指示します。

成績評価方法

出席状況、ゼミの発表等による。

年間授業計画

(春学期)
・日本経済や日本企業に関する注目記事を輪読します。

・ゼミ生が「日本には色々な企業や業種があること」を実感し、社会に対する関心が広がるよう指導します。

・ゼミ生が自ら関心を持った企業の記事について、プレゼンを行います。

・各種の質問にも回答できるよう訓練していきます。

(秋学期)
・春学期の作業を基礎に、現状の日本経済が抱えている問題点や課題等について、意見交換します。

・こうした学習過程の中で興味がわいたテーマを秋のゼミ発表会で発表するほか、各自の卒論のテーマとします。

・プレゼンやディスカッションが就職活動に向けた対応力強化に結び付くよう工夫してゼミを展開していきます。

ゼミ名	石井第一ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《会計コース》	募集学年	新２年生 ８名 新３年生　０名	担当教員	石井　康彦

選考方法	面接
研究テーマ	企業の財務報告

ゼミナールの目標・概要・方法

多くの利害関係者にとって，企業活動の全てを直接目で見たり，体験したりすることは非常に困難である。そこで企業の報告をもとにその企業活動を評価し，今後の関わり方についての意思決定を行う。したがって，利害関係者にとって，企業の活動報告は必要不可欠な存在であるといってよい。

企業が行う報告のなかでも，有価証券報告書をはじめとする財務報告は重要性の高いもののひとつと一般に考えられている。このゼミでは，企業の財務報告書を材料として，どのように企業活動の分析・評価を行うのか，ということをテーマとする。

【授業の方法】

財務報告をもとに企業活動を評価するためには，まず，報告される財務情報はどのように生産されるかを理解する必要がある。なぜなら，どのように作られたかがわからなければ，提供された財務情報の特徴もわからず，これをどう加工しても，そこから企業活動を想像することは不可能だからである。財務情報の生産のしくみとは，具体的には簿記システムと会計ルールである。つぎに，財務情報の特徴についての基本的な理解をもとに，財務情報の分析方法について理解する。２つのステップの成果をもとに，実際の財務報告書をもちいた企業評価を試みる。

⑧到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
	◎	◎	○	○	○	

ゼミ担当教員科目	経営分析、税理士・財務諸表論	関係する科目	財務会計論、経営分析などの会計関連科目 企業金融論などの金融関連科目

テキスト

開講時に指示する。

参考書

開講時に指示する。

成績評価方法

ゼミへの貢献度をもとに評価する。無断欠席をはじめ，チームワークを乱すような行為に対しては厳しく対処する。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
経営分析に関する文献の輪読。	実際の有価証券報告書等をもとにした財務分析を行い、ゼミ発表会で発表する。

ゼミ名	石井第二ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《会計コース》	募集学年	募集なし	担当教員	石井　康彦

選考方法	―
研究テーマ	企業の財務報告

ゼミナールの目標・概要・方法

第１ゼミナールでの学習を前提として、有価証券報告書を主たる情報源とした企業評価を行う。第２ゼミでは、単なる財務分析にとどまることなく、有価証券報告書以外の企業情報や業界に係わる情報をもとに、総合的な評価を試みたい。

【授業の方法】
秋学期がスタートするまでには、各自で対象企業を１社選定したうえで企業評価を行い、卒業論文作成の準備を行う。

⑧到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
	◎	◎	○	○	○	

ゼミ担当教員科目	経営分析、税理士・財務諸表論	関係する科目	財務会計論、経営分析などの会計関連科目 企業金融論などの金融関連科目

テキスト

開講時に指示する。

参考書

開講時に指示する。

成績評価方法

卒業論文の内容で評価する。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
上場会社の有価証券報告書を用いた財務分析（事例研究） 回帰分析等の統計処理の方法の学習、非財務情報の入手と分析方法の学習	卒業論文の執筆

ゼミ名	伊藤第一ゼミナール (Seminar)	学部	商学部≪会計コース≫	募集学年	新２年生　10 名 新３年生　若干名	担当教員	伊藤　義之

選考方法	面接
研究テーマ	基礎的税務会計－租税法研究

ゼミナールの目標・概要・方法

［目標］
近年、我が国企業のグローバル化を背景に、会計面では国際会計基準(ＩＦＲＳ)の採用など国際的調和が図られつつあり、また、企業会計と密接な関係にある法人税法においても財源調達や課税の公平性確保のほか国際競争力をも考慮した税制の再構築(法人実効税率の更なる引下げなど)が求められるとともに、世界的な大企業の税務戦略に起因する「税源浸食と利益移転(ＢＥＰＳ)」問題やタックスヘイブン(租税回避地)の利用実態に係る「パナマ文書」問題などの顕在化への対処として全世界的な取り組みがＯＥＣＤを中心に展開されるなど、会計や法人税(法)を取り巻く環境は大きく変化しています。こうした中、会計と法人税法を繋ぐ税務会計を学習する重要性が益々高まっています。そこで、財務・会計知識を習得しつつ会計情報を活用し企業活動に貢献できる企業人・スペシャリストを目指すべく、これまでに学習してきた簿記・会計の知識を基に、企業会計の一形態としての税務会計及び租税法の基礎的な研究を行います。

［概要］
法人税法が企業会計とどのように密接に関わっているかを主に学ぶこととしますが、実のある学習を行うためにも簿記・会計の知識に加え、民法や会社法などの法律に関する基礎的な知識も不可欠となります。これらの不断の学習を通じて税の意義・仕組み・役割を理解し、税法(法人税法)の各規定が企業会計の実務に極めて大きな影響－例えば、企業の意思決定や企業行動をも左右する－を及ぼしていることを認識します。

［授業の方法］
租税法(主に法人税法)について基本的な概要を学んだ後、各人又は各グループが選定したテーマについて順次報告・発表し、その報告等に基づいて、全員参加で議論・討論を行い、その成果をゼミ発表に生かします。また、授業の中では、日本経済新聞などに掲載された税務会計や法人税(法)に関する記事をタイムリーに取り上げ、記事解説や意見交換も併せて行いますので、当該記事の内容を深く掘り下げる研究・発表テーマの選定にも資するようにします。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要／○重要)

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	○	○	◎	○	○

ゼミ担当教員科目	税理士・税法(基礎) 税務会計論 A/B	関係する科目	簿記・会計に関する科目及び民法や商法、会社法などの私法(隣接科学)に関する科目

テキスト

開講時以降に適宜指示します。

参考書

開講時以降に適宜指示します。

成績評価方法

出席やゼミへの貢献度(質疑・応答・意見など討論への参画状況や研究成果発表など)を総合的に評価します。
なお、無断欠席は厳禁とします。

年間授業計画

(春学期)	(秋学期)
税法概要及び法人税法の内容を学んだ後、ゼミ発表会のテーマ選定を行い、各人又は各グループが収集したテーマ関連参考資料等の概要を順次報告し、ゼミ発表に向けた骨格づくりを進め、その上で各グループ等の分担を決めます。 その他、毎時限、輪番で新聞記事内容を発表し、記事解説や意見交換等を行います。	各人又は各グループがゼミ発表テーマにおいて分担している事項を継続して報告し合い、ゼミ発表に臨みます。 ゼミ発表後は、皆の関心の高い分野の税法を学びます。 その他、毎時限、輪番で新聞記事内容を発表し、記事解説や意見交換等を行います。

ゼミ名	伊藤第二ゼミナール (Seminar)	学部	商学部≪会計コース≫	募集学年	0 名	担当教員	伊藤　義之

選考方法	募集なし
研究テーマ	応用的税務会計－租税法研究

ゼミナールの目標・概要・方法

［目標］
第二ゼミナールでは、これまでに学習してきた第一ゼミでの基礎的な税務会計－租税法研究を踏まえて、租税法の応用的な研究を行います。従って、第一ゼミから継続して履修した 4 年生が対象となります。

［概要］
法人税法が企業会計とどのように密接に関わっているかを具体的な事例としての裁判例や審判所裁決事例などを検証して主に学ぶこととしますが、実のある学習を行うためにも簿記・会計の知識に加え、民法や会社法などの法律に関する専門的な知識も不可欠となります。
また、各人の関心に応じて、法人税法以外の税法の分野(例えば、所得税法、相続税法や消費税法など)についても弾力的に学びます。

［授業の方法］
4 年生は、個人の研究と卒業論文の作成が中心となりますが、論文の作成に当たっては、日頃から丹念に収集した参考文献を精読し、自身の思考を練り上げ、指導教員とのディスカッションを通じ、論理的で精緻な卒業論文の完成を目指します。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要／○重要)

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	○	○	◎

ゼミ担当教員科目	関係する科目
税理士・税法(基礎) 税務会計論 A/B	簿記・会計に関する科目及び民法や商法、会社法などの私法(隣接科学)に関する科目

テキスト

開講時以降に各人のテーマに即して適宜指示します。

参考書

開講時以降に各人のテーマに即して適宜指示します。

成績評価方法

卒業論文の提出が評価の大前提となりますが、ゼミにおける態度や論文の内容などを総合的に評価します。
なお、無断欠席は厳禁とします。

年間授業計画

(春学期)	(秋学期)
オリエンテーション 論文作成の作法の学修 卒業論文のテーマ選定 参考文献の収集と精読、指導教員との継続的なディスカッション	卒業論文の作成

ゼミ名	川﨑第一ゼミナール （Seminar）	学部	商学部≪会計コース≫	募集学年	新２年生　０名 新３年生　０名	担当教員	川﨑　芙有

選考方法	―　※来年度は教員が在外研究で不在のため、今年度は新規募集を行いません。
研究テーマ	財務会計の研究

ゼミナールの目標・概要・方法

［目標］
　財務会計は、企業の日々の経済活動を認識、測定し、これをまとめた財務諸表というものを用いて、企業の状況（財政状態や経営成績）を様々な利害関係者に伝達するという行為です。
　このゼミでは、財務会計の基礎的な知識、論理的な思考、プレゼンテーションの力、コミュニケーションの力を身に付けることを目標とします。

［概要］
　春学期には、財務会計の文献を輪読し、ディスカッションを行います。学生には、扱う論点と関係する事例も発表してもらい、理論と実務を結びつけることにより、財務会計についての理解を深めてもらいます。
　秋学期には、いくつかのグループに分かれて、グループごとに、学生自らの興味に基づき設定したテーマについて研究し、その成果を論文にまとめ、ゼミ発表会にて報告します。また、簿記検定合格に向けて、対策を行います。
　なお、サブゼミについては、学生と相談のうえ決めます。

［方法］
　文献の輪読では、学生全員が、司会、報告者、質問者のいずれかの役割を担います。
　学生が主体となり、自由闊達に議論してもらいます。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	○	◎	◎	○

ゼミ担当教員科目	会計学総論 A/B 簿記Ⅰ/Ⅱ 税理士・簿記論（基礎/応用）	関係する科目	簿記、会計学総論、財務会計論などの会計科目 金融総論などの金融科目

テキスト

初回のゼミで指示します。

参考書

適宜、紹介します。

成績評価方法

ゼミへの貢献度（出席や発表など）により評価します。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
財務会計についての文献の輪読。 ゼミ発表会の準備。	ゼミ発表会の準備。 財務会計についての文献の輪読。 簿記検定合格のための学習。

ゼミ名	川﨑第二ゼミナール （Seminar）	学部	商学部≪会計コース≫	募集学年	新４年生　０名	担当教員	川﨑　芙有

選考方法	―
研究テーマ	財務会計の研究

ゼミナールの目標・概要・方法

［目標］
　財務会計は、企業の日々の経済活動を認識、測定し、これをまとめた財務諸表というものを用いて、企業の状況（財政状態や経営成績）を様々な利害関係者に伝達するという行為です。
　このゼミでは、これまでのゼミ活動で身に付けた財務会計の知識や論理的な思考を基礎に、卒業論文を完成させることを目標とします。

［概要］
　各自、卒業論文を作成し発表します。

［方法］
　卒業論文の発表の際には、学生全員が、司会、報告者、質問者のいずれかの役割を担います。
　学生が主体となって自由闊達に議論してもらいます。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	○	○	○

ゼミ担当教員科目	関係する科目
会計学総論 A/B 簿記Ⅰ/Ⅱ 税理士・簿記論（基礎/応用）	簿記、会計学総論、財務会計論などの会計科目 金融総論などの金融科目

テキスト

初回のゼミで指示します。

参考書

適宜、紹介します。

成績評価方法

ゼミへの貢献度（出席、発表、卒業論文の内容など）により評価します。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
卒業論文の作成、発表。	卒業論文の作成、発表。

ゼミ名	住倉第一ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《会計コース》	募集学年	新２年生 10 名 新３年生若干名	担当教員	住倉　毅宏

選考方法	面接
研究テーマ	税法の基礎的研究

ゼミナールの目標・概要・方法

研究の内容

我が国の財政を支え、広く国民に負担を求めています。その税負担は公平である必要があります。しかし、公平な税制といっても、国民のそれぞれの所得の稼得方法は様々ですし、所得の多寡もかなりの差異があります。また、公平に対する考え方も人それぞれでしょう。そのよう中で、どのような制度とするのがより公平な制度と考えられるかについて、現行の制度を学びながら、皆さんと考えていきたいと思います。

学習方法

所得税法などの概要を学び、その後に、各人あるいは各グループが選定したテーマについて、それぞれ報告を行い、その報告をもとに全員で議論をしていきます。それらの成果をもとにゼミ発表会に参加することとしています。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	○	○		

ゼミ教員担当科目	税法、税理士・税法（応用）	関係する科目	簿記会計の関する科目および法律学に関する科目

テキスト

各自のテーマにより異なるので、演習の中で適宜指示します。

参考書

金子宏著「租税法（第２３版）」（弘文堂）
中里実他著「租税判例百選（第６版）」（有斐閣）

成績評価方法

各自の卒業論文作成へ向けての努力の積み重ね、また、ゼミ部内での積極的貢献度、そして、卒業論文の完成度等を総合的に勘案して評価します。ゼミナール活動を無断欠席した場合には単位を与えません。

年間授業計画

（春学期）

下記１～３の順で演習を進めていきます。

1　税法全般の基礎的事項の習得
2　ゼミ発表会に向けた資料の収集と報告
3　ゼミ発表会での報告の方向性の決定

（秋学期）

下記１～３の順で演習を進めていきます。

1　ゼミ発表会に向けての報告の作成
2　ゼミ発表会
3　各人の興味のある分野の研究・発表

ゼミ名	住倉第二ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《会計コース》	募集学年	募集なし	担当教員	住倉　毅宏

選考方法	―
研究テーマ	税法の専門的研究―卒業論文の作成に向けて―

ゼミナールの目標・概要・方法

研究の内容

　第二ゼミナールは４年生のみを対象とします。第二ゼミは第一ゼミでの税法の基礎的研究を踏まえて、判例等の研究を中心に、税法全般に関する専門的研究を行い、そして、卒業論文の作成に向けて、各税法の個別的研究に進みます。
　具体的には、各ゼミ生は、これまでの税法の学習の中で特に関心の持てたテーマを卒業論文のテーマとして決定します。

学習方法

　卒業論文作成にあたり、重要なことは、論文の構成です。いかに論理的であり、わかりやすい構成にするか、各ゼミ生と十分に検討を重ねていきます。
　税法の研究の中で特に重要なことは、判例の研究です。多くの判例の中からその論文に必要な判例を選び十分にその内容を研究していきます。
　そして、最終的には各ゼミ生自身が大学生活の集大成として、十分に納得のいく卒業論文が作成できたという自信と満足感を持ってもらえることを目指します。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	○	○		

ゼミ教員担当科目	税法、税理士・税法（応用）	関係する科目	簿記会計の関する科目および法律学に関する科目

テキスト

　各自のテーマにより異なるので、演習の中で適宜指示します。

参考書

　金子宏著「租税法（第２３版）」（弘文堂）
　中里実他著「租税判例百選（第６版）」（有斐閣）

成績評価方法

　各自の卒業論文作成へ向けての努力の積み重ね、また、ゼミ部内での積極的貢献度、そして、卒業論文の完成度等を総合的に勘案して評価します。ゼミナール活動を無断欠席した場合には単位を与えません。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
下記１～３の順で演習を進めていきます。 1　税法全般の専門的研究（判例等の研究） 2　卒業論文テーマの指導、決定 3　論文構成の指導、検討	下記１～３の順で演習を進めていきます。 1　卒業論文初稿作成の指導 2　卒業論文内容の個別項目指導 3　卒業論文の完成、発表会の実施

ゼミ名	成田第一ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《会計コース》	募集学年	新２年生 10～15 名	担当教員	成田　博

選考方法	面接
研究テーマ	管理会計・会計情報システム

ゼミナールの目標・概要・方法

【ゼミナールの目標】
企業会計の中でも，会計情報を経営管理に役立てることを目的とする管理会計領域について，特に情報システムの視点から研究し，それを理解・実践できるようになることを目標とする。

【ゼミナールの概要】
ゼミナールのテーマ、目標との関係から、会計のほかに経営管理，コンピュータなど企業活動に関連する幅広い領域を学ぶことが必要となる。当然，簿記や原価計算などの知識を前提とするものであるため，初年度においてはそれらの習得を含む会計学の基礎を中心に学ぶ。２年次でもゼミ発表会に参加するが、とくに３年次には管理会計の各論を対象として学び，その研究成果をゼミ発表会で報告する。４年次では関心のあるテーマを選択，研究し，卒業論文を作成する。
税理士資格取得希望の学生にとっても，税理士試験に直接的に関連するテーマではないが，企業のコンサルティング業務も担う税理士にとっては必要不可欠な学習分野である。
各人または各グループに対して事前にテーマを割り当て，その発表にもとづいて全員で議論するという形式で進めるが，発表担当者だけでなく，全員が各回のテーマについて事前に学んでおくことが要求される。サブゼミや合宿を実施するなど，学生諸君が積極的に楽しんで学ぶことのできるゼミナールとしたい。
各自の将来の目標設定，その目標達成へ向けての計画立案，具体的な活動など，学生諸君の大学生活がより充実したものとなるように，学問分野だけでなく，他の分野も含めた良きアドバイザーとしてサポートしていきたいと考えている。

【授業の方法】
グループワークによる調査・研究を進め、報告、意見交換、討論を学生中心に進め、適宜、助言・指導する方法による。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要／○重要)

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	○	◎	○	○

ゼミ担当教員科目	コンピュータ会計，原価計算論 会計情報システム論	関係する科目	コンピュータ会計，原価計算論 管理会計論，会計情報システム論

テキスト

演習の中で適宜指示する。

参考書

必要に応じて紹介する。

成績評価方法

このゼミナールは，学問的知識を深めることだけではなく，分析力，創造力，表現力などを培い，あわせてゼミナールの活動を通して自主性，社会性，協調性など，豊かな人間性を培うことも目的として考えている。何より欠席しないことが最低条件であり，学生諸君それぞれの，サブゼミ，合宿（春休み、夏休み期間中に実施），コンパなどゼミナールに関連するすべての活動に対する参加の程度およびその姿勢を評価の対象とする。したがって，アルバイト優先の学生さんはご遠慮ください。

年間授業計画

（春学期）
履修は新年度４月からではあるが，実質的活動は２月もしくは３月実施予定のゼミ合宿からスタートする。４月からの正規の授業では簿記・原価計算を含む会計学の基礎的文献を学び，それ以外にサブゼミも実施する。

（秋学期）
学園祭にゼミとして模擬店を出店し，事業立案，材料・資材調達，調理担当，販売担当，経理担当など各自役割を分担して，実際の企業活動と会計との関係を体験学習する。
高千穂祭終了後は，模擬店出店の体験も含む学習・研究の成果をゼミ発表会で報告するための活動と，より専門的内容を対象として研究する。

ゼミ名	成田第二ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《会計コース》	募集学年	原則として募集なし	担当教員	成田　博

選考方法	―
研究テーマ	管理会計・会計情報システム

ゼミナールの目標・概要・方法

【ゼミナールの目標】
企業会計の中でも，会計情報を経営管理に役立てることを目的とする管理会計領域について，特に情報システムの視点から研究し，高度な知識を獲得し、それを実社会において実践できる能力を身に付けることを目標とする。

【ゼミナールの概要】
２年次で修得した会計および情報技術に関する知識を前提として，管理会計領域の各論を研究する。前期の前半で管理会計の総論を学び，その後各論について研究する。本学のゼミ発表会に参加するため，ゼミナール全体の研究と平行してその準備も進めることとなる。時間的にあまり余裕が無いため，各自の相当の努力が必要とされる。また、可能であれば、日本学生経済ゼミナール連合主催の討論会への参加も考えている。４年次では，３年次の研究したテーマの中から関心のあるテーマを選択，研究し，卒業論文を作成する。
各人または各グループに対して事前にテーマを割り当て，その発表にもとづいて全員で議論するという形式で進めるが，発表担当者だけでなく，全員が各回のテーマについて事前に学んでおくことが要求される。また，本学のゼミ発表会の参加準備のため，テーマを分担してそれぞれのテーマについて研究，報告する。サブゼミや合宿の実施が必要不可欠となることが予想されるが，学生諸君が積極的に参画する実りあるゼミナールとしたい。
各自の将来の目標設定，その目標達成へ向けての計画立案，具体的な活動など，学生諸君の大学生活がより充実したものとなるように，学問分野だけでなく，他の分野も含めた良きアドバイザーとしてサポートしていきたいと考えている。

【授業の方法】
グループワークによる調査・研究を進め、報告、意見交換、討論を学生中心に進め、適宜、助言・指導する方法による。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	○	◎	○	○

ゼミ教員担当科目	コンピュータ会計，原価計算論 会計情報システム論	関係する科目	コンピュータ会計，原価計算論 管理会計論，会計情報システム論

テキスト

演習の中で適宜指示する。

参考書

必要に応じて紹介する。

成績評価方法

このゼミナールは，学問的知識を深めることだけではなく，分析力，創造力，表現力などを培い，あわせてゼミナールの活動を通して自主性，社会性，協調性など，豊かな人間性を培うことも目的として考えている。欠席しないことが最低条件であり，学生諸君それぞれの，サブゼミ，合宿，コンパなどゼミナールに関連するすべての活動に対する参加の程度およびその姿勢を評価の対象とする。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
３年生は，ゼミ発表会におけるテーマを検討し，そのテーマを中心として管理会計の各論について研究を進めていく。４年生は，３年生への指導・助言をおこなうとともに，各自の卒業論文完成へ向けての研究を進める。正規の授業時間は，主として３年生向けに実施し，４年生には授業時間以外での個別指導で対応していく予定である。	３年生は，ゼミ発表会あるいは日本学生経済ゼミナール連合主催の討論会のための論文作成，討論会準備資料の作成およびそれに関連する活動が中心となり，最終段階で卒業論文のテーマを選定する。４年生は，数回の中間報告を実施したうえで卒業論文を完成させる。

ゼミ名	西山第一ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《会計コース》	募集学年	新2年生　20名	担当教員	西山　徹二

選考方法	エントリーシートおよび面接試験
研究テーマ	財務会計論の基礎

ゼミナールの目標・概要・方法

〈研究の内容〉
財務会計論とは、企業が外部の利害関係者に対して会計情報を提供するために作成する財務諸表について研究する学問領域です。この財務会計論を理解するためには、簿記・会計に関する知識だけではなく、経済や企業に関するさまざまな知識が必要となります。そこで西山第一ゼミナールでは、財務会計の基礎を理解するために、まず会計や関連する分野に関するさまざまな知識を得ることを目的とします。また、秋に開催されるゼミナール発表会で財務会計論に関する発表を行うため、具体的な事例を研究します。

〈学習方法〉
西山第一ゼミナールでの学習は、自分で「調べる」・「考える」・「発表する」ことが中心になります。通常の授業の様に担当教員がすべて教えるのではなく、個人やグループで調べること、考えることを重視します。グループでの作業が多くなりますので、協調性が求められます。また、正規のゼミの時間外に簿記の学習を行い、全員が日商簿記検定2級以上に合格することを目指します。

〈授業の方法〉
ゼミナール活動では、テーマを設定し、それについて調査・検討し、プレゼンテーションを行うことが中心となります。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	○		○		

ゼミ担当教員科目	関係する科目
会計学総論・財務会計論	簿記Ⅰ/Ⅱ　高等簿記Ⅰ/Ⅱ　会計学総論　財務会計論 国際会計論　会計史 税理士簿記論基礎/応用　税理士財務諸表論基礎/応用

テキスト

開講時に指示します。

参考書

開講時に指示します。

成績評価方法

すべてのゼミナール活動（合宿・コンパ等も含む）への参加態度で評価します。
ゼミナール活動を無断欠席した場合には単位を与えません。

年間授業計画

（春学期）

3月　春合宿（ディベート）
4～6月　班別活動
7月　ゼミ発表準備
9月　夏合宿（ゼミ発表準備）

（秋学期）

10～11月　班別活動
12～1月　簿記特訓

ゼミ名	西山第二ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《会計コース》	募集学年	募集なし	担当教員	西山　徹二

選考方法	―
研究テーマ	財務会計論

ゼミナールの目標・概要・方法

本ゼミナールでは、財務会計論をより実践的に研究して行くことを目標としています。そのため、3 年次では、財務会計の制度を中心に学習し、その成果を発表するために本学のゼミ発表会に参加する予定です。4 年次は、各自テーマを設定して卒業論文の作成を行うため、ゼミナールでは論文指導を中心に行う予定です。

〈授業の方法〉
ゼミナール活動では、テーマを設定し、それについて調査・検討し、プレゼンテーションを行うことが中心なります。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要／○重要)

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	○		○		

ゼミ担当教員科目	関係する科目
会計学総論税理士・財務会計論	簿記Ⅰ/Ⅱ　高等簿記Ⅰ/Ⅱ　会計学総論　財務会計論 国際会計論　会計史 税理士簿記論基礎/応用　税理士財務諸表論基礎/応用

テキスト

開講時に指示します。

参考書

開講時に指示します。

成績評価方法

すべてのゼミナール活動（合宿・コンパ等も含む）への参加態度で評価します。
ゼミナール活動を無断欠席した場合には単位を与えません。

年間授業計画

(春学期)	(秋学期)
①研究の題材となる事例を決定し、調査・研究を行います。 ②3 年生は、ゼミ発表会に向けて準備を行います。 ③4 年生は、卒業論文を作成します。	①3 年生は、ゼミ発表会に向けて準備を行います。 ③　4 年生は、卒業論文を作成します。

ゼミ名	桝谷第一ゼミナール （Seminar）	学部	商学部《会計コース》	募集学年	新２年生　８名程度 新３年生　０名	担当教員	桝谷奎太

選考方法	エントリーシートと面接
研究テーマ	管理会計と企業経営

ゼミナールの目標・概要・方法

管理会計と聞くと、よく分からない、堅そう、暗そうと感じる人は少なくないかと思います。しかしながら、企業において管理会計は欠かせないものであり、その重要性は高く認識されています。管理会計は、会計情報を利用した経営管理を意味します。管理会計は､経営のための会計や経営管理会計とも呼ばれ､社長などの経営の舵取り役を担う人のなかには､「経営は管理会計そのもの」という人もいます。実際、管理会計は古くから、トヨタや花王などの有力企業の強さ構築に貢献してきました。最近では、管理会計の１つの手法である「アメーバ経営」が、経営破綻した JAL の再生に貢献したことから、社会的な注目を集めています。ゼミでは、管理会計に関連した研究活動を通じ、企業経営における管理会計の役割やその重要性について学んでいきます。特に、企業における管理会計の具体的な取り組みを素材とし、研究活動を進めていきます。

【目標】
ゼミでは、管理会計に関連する研究テーマや事例分析を通じて、「深く考える力」「様々な視点で分析する力」「情報を発信する力」を養うことを目標とします。この意味で、ゼミでは管理会計に関する文献や事例を用いますが、その主眼は、教科書的な専門的知識の獲得に加え、社会で欠かせない汎用的な能力の獲得にあります。

【方法】
ゼミ生による報告形式で進めます。ゼミ生には、自身で作成したパワーポイント資料によりプレゼンテーションを行ってもらいます。その後、報告の内容とプレゼンテーションの行い方についてフィードバックを行います。こうした活動を繰り返し行うことで、「目標」で掲げた３つの能力を養っていきます。なお、報告者以外のゼミ生にも積極的なコメントを求めます。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	◎	○	○

ゼミ担当教員科目	簿記Ⅰ/Ⅱ、管理会計論 A/B、工業簿記Ⅰ/Ⅱ	関係する科目	管理会計論、経営学、心理学、社会学など
テキスト	なし		
参考書	適宜紹介します。		
成績評価方法	出席状況やゼミへの貢献度（課題の取り組み、発言など）を総合的に考慮し評価します。 無断での遅刻や欠席は認めません。つまり、定刻での出席が必須です。アルバイトや資格試験の勉強などはすばらしいことですが、ゼミの優先順位を高くし、両立を目指してください。		

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
個人での課題の取り組み グループでの研究テーマの決定・グループ分け 研究の進捗発表（プレゼンテーション）、ディスカッション	研究の進捗発表（プレゼンテーション）、ディスカッション 最終発表

ゼミ名	桝谷第二ゼミナール （Seminar）	学部	商学部《会計コース》	募集学年	新２年生　０名 新３年生　４名程度	担当教員	桝谷奎太

選考方法	エントリーシートと面接
研究テーマ	管理会計と企業経営

ゼミナールの目標・概要・方法

管理会計と聞くと、よく分からない、堅そう、暗そうと感じる人は少なくないかと思います。しかしながら、企業において管理会計は欠かせないものであり、その重要性は高く認識されています。管理会計は、会計情報を利用した経営管理を意味します。管理会計は､経営のための会計や経営管理会計とも呼ばれ､社長などの経営の舵取り役を担う人のなかには､「経営は管理会計そのもの」という人もいます。実際、管理会計は古くから、トヨタや花王などの有力企業の強さ構築に貢献してきました。最近では、管理会計の１つの手法である「アメーバ経営」が、経営破綻した JAL の再生に貢献したことから、社会的な注目を集めています。ゼミでは、管理会計に関連した研究活動を通じ、企業経営における管理会計の役割やその重要性について学んでいきます。特に、企業における管理会計の具体的な取り組みを素材とし、研究活動を進めていきます。

【目標】
ゼミでは、管理会計に関連する研究テーマや事例分析を通じて、「深く考える力」「様々な視点で分析する力」「情報を発信する力」を養うことを目標とします。この意味で、ゼミでは管理会計に関する文献や事例を用いますが、その主眼は、教科書的な専門的知識の獲得に加え、社会で欠かせない汎用的な能力の獲得にあります。

【方法】
ゼミ生による報告形式で進めます。ゼミ生には、自身で作成したパワーポイント資料によりプレゼンテーションを行ってもらいます。その後、報告の内容とプレゼンテーションの行い方についてフィードバックを行います。こうした活動を繰り返し行うことで、「目標」で掲げた３つの能力を養っていきます。なお、報告者以外のゼミ生にも積極的なコメントを求めます。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	◎	○	○

ゼミ担当教員科目	関係する科目
簿記Ⅰ/Ⅱ、管理会計論 A/B、工業簿記Ⅰ/Ⅱ	管理会計論、経営学、心理学、社会学など

テキスト

なし

参考書

適宜紹介します。

成績評価方法

出席状況やゼミへの貢献度（課題の取り組み、発言など）を総合的に考慮し評価します。
無断での遅刻や欠席は認めません。つまり、定刻での出席が必須です。アルバイトや資格試験の勉強などはすばらしいことですが、ゼミの優先順位を高くし、両立を目指してください。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
個人での課題の取り組み グループでの研究テーマの決定・グループ分け 研究の進捗発表（プレゼンテーション）、ディスカッション	研究の進捗発表（プレゼンテーション）、ディスカッション 最終発表

ゼミ名	佐藤ゼミナール (Sato's seminar)	学部	商学部	募集学年	新2年生　0名 新3年生　若干名	担当教員	佐藤孝一

選考方法	個別面接
研究テーマ	海外ボランティア及びインターンシップ研究

ゼミナールの目標と概要

ゼミナールの目標と概要：
米国の大学生の常識は、学生時代にインターンシップ（企業研修）とサービスラーニング（ボランティア活動）を体験することである。大学の合否には、地域や社会の為に何を体験奉仕してきたのかは重要な要因である。
単に、学校の成績のみを評価はしない。実社会を見て、体験することが、入学後の学生生活や勉学にも深い影響を与えている。大学での学問は、社会に役立つような実学でなくてはいけない。
大学の教育は「知行合一」でなくてはいけない。知識を習得し、それを実践して行く実学教育である。
日本の一部の人達は、東南アジアの国々に行って、学校を作っている。この運動は色々な組織や団体を通して継続されている。
ボランティア活動の目的は、参加者一人一人が違う。しがし、想いはおなじである。
そこに困っている人がいる、それで十分な理由になる。
一人の力は弱く、限度があるが、その一人一人の力が合わされば大きな力になる。
国内外に問わず、ボランティア活動を求めているなら、行動してみよう。
そこには、机上では決して学べない、汗と涙を通して学べるものが必ずある。
東日本の被災から4年経過した。でもいまだ支援の力を必要としている人が沢山います。
いまだ、仮設住宅に住むことを余儀なくされている被災者の方が多くいます。
いつ与える方から、受ける方になるか誰も分かりません。
ゼミでは、老人ホームでの池の掃除、公園の掃除や農業体験をしています。
昨年は楢葉町の被災者の仮設を訪問し、皆さんと時間を共有してきました。
授業で学び、そして社会で学ぶ。

授業では、前期は本を読んだり、ゼミの先輩に話を聞いたり、外部のボランティア活動に参加して方に来て話をしてもらいます。夏休みはゼミ合宿で、ボランティア活動を体験します。
後期は、ゼミ発表に向けての活動になります。

[授業の方法]
知行一如を趣旨としてゼミで学習したことを実際のボランティア活動 （杉並区内で1度 地域で1度）を必須としています。
各自のボランティア活動の体験を踏まえてプレゼントをして、自主的な学びを発表し検討・議論しています。

⑧到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎				○	◎	○

ゼミ担当教員科目	TOEIC英語、英語Ⅰ、英語Ⅱ	関係する科目	ボランティア論

テキスト

授業で指示します。

参考書

特にない。

成績評価方法

出席・課題提出・ゼミ活動・合宿参加などを考慮して総合評価。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
1. 新歓の懇親会 2. ボランティアやインターン活動への資料収集 3. 夏休暇中のボランティア活動	1．ゼミ発表の準備 2．卒論指導 3．冬合宿での卒論発表

ゼミ名	寺内ゼミナール (Seminar)	学部	商学部	募集学年	新２年生　５名 新３年生　０名	担当教員	寺内　一

選考方法	面接
研究テーマ	ビジネス英語の習得とその実践

ゼミナールの目標・概要・方法

【目標】ビジネスのグローバル化に伴い、アメリカやイギリスといった英語圏の出身者だけではなく、日本人はもちろん、中国、韓国などの英語を母語としない人が英語を使用するようになってきています。特に、アジア圏ではこの英語を使用してビジネスをする人のほうが多くなってきているという報告もあります。本ゼミナールでは、グローバル化した時代に対応できるビジネス英語に関する研究を行っていきながら、ビジネス英語そのものの習得も目指していきます。そして、そのグローバル化したビジネス英語を実際に使用してみる場を数多く体験していくことになります。

【概要】グローバル化した世界において、英語は非常に重要なものです。しかし、その英語は、実は各国の法の中で、あるいは、国同士のやりとりのための道具として使用されています。ビジネス英語そのものを理解することはもちろんですが、グローバル社会の中でビジネス英語を実際に使用してみることにより、その実践的な使用方法を確認していくことになります。

【学習方法】ビジネス英語の教科書はもちろん、参考書、インターネット等さまざまな情報機器を使用しながら各自で学習を行います。学習した内容は定期的に TOEIC などの外部試験を受験して、その英語学習の到達状況を把握していきます。また、授業中には、法文化やビジネス英語に関連する課題の探求を進め、ゼミ内でのプレゼンテーションやレポートの提出をしてみらいます。、連絡は原則としてメールを利用します。発表者が一方的に話すだけでなく、発表者に対する質問や意見交換を含めて、お互いの議論を積極的に発信していきます。さらに、教室内の学習だけではなく、国内外のボランティアへの積極的な参加を奨励するとともに、夏と春のゼミ合宿など学外の活動も行なっていきます。

【アドバイザー制度】将来の進路を含めてさまざまな問題に対し、アドバイザーとしてゼミ生に対応していきます。グローバルビジネスにおいて英語の役割はいったい何なのでしょうか。その役割を理解したうえで、ビジネス英語がどのように使われいるのかを実体験する際にも、アドバイザーとしてひとり一人の学習過程を確認しながら適宜指導していきます。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要／○重要)

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	○	◎	○	◎

ゼミ教員担当科目	法文化論Ａ・Ｂ 英語Ⅰ・Ⅱ	関係する科目	英語Ⅰ・Ⅱ　ビジネス英語 民法（法律行為）・民法（債権）・民法（契約）・民法（物件変動と担保） 企業法（企業形態法）・企業法（株式会社法）・企業法（知的財産法）・企業法（有価証券法） 法文化論Ａ・Ｂ 外国史（古代・中世）・外国史（近代・現代）

テキスト	新学期開始時に指示します。
参考書	新学期開始時に指示します。
成績評価方法	２年次：授業参加・レポート・発表 ３年次：授業参加・レポート・発表　（ゼミ発表会（予定）） ４年次：卒論政策過程の発表・卒業論文 以上を総合して評価します。

年間授業計画

２年時の年間スケジュールは以下のようになります。

春学期　：オリエンテーション・TOEIC 受験
共通テーマの学習とリサーチの開始
春学期プレゼンテーション
夏季休暇：合宿（京都）

秋学期　：個人学習
秋学期プレゼンテーション
秋学期レポートの作成
冬季休暇：TOEIC 受験
新年会：ゼミナール OB 会（１月の第２土曜日）
春季休暇：合宿（場所未定）

ゼミ名	桃崎第一ゼミナール (Seminar)	学部	商学部	募集学年	新2年生20名 新3年生5名	担当教員	桃崎 有一郎

選考方法	面接
研究テーマ	日本文化と歴史の探求

ゼミナールの目標・概要・方法

【目標】
このゼミでは、〝自分が何者か〟を、皆さん自身がより深く理解し、人生の糧にする視角と能力を身につけます。そのために、私たちの生きるこの土地の文化と歴史に関心を抱き、先人の営みに思いを馳せ、自分と先人の関係を見つめます。日本の文化と歴史に関わるテーマを自由な発想から設定し、確実な情報源の読解と論理的な思考から隠された真実を突き止め、発表し、討論を交わし、プレゼンテーションする手法を獲得できることを目標としています。

【概要】
私たちの周りでは、気づかないうちに時間や物事が過ぎ去ってゆきます。ただ暮らしているだけでは、私たちは「何が過ぎ去ったのか」――いや、そもそも「何かが過ぎ去ったのか」ということにさえ気づけません。歴史学は、過ぎ去った〝何か〟を、私たちの手が届く場所にあるうちに捕まえ、その正体を解明する学問です。

過去に先人が歩んできた道筋を理解せずに〝今〟を理解することは不可能です。そして〝今〟を理解できなければ、未来は切り拓けません。過去を知ることは〝今〟を知ること、先人について知ることは〝自分〟を知ることにほかなりません。人間の内面を掘り下げることで〝自分〟を考えるのが哲学だとすれば、歴史学は、人々の振る舞い・営み・考え方など、外面的な現象を事実として突き止め、それがどう〝自分〟を形成したかを理解する学問です。

歴史と私たちの暮らしや将来との関係、日本文化とは何か、等々、〝歴史的に物事を見つめる視角とその利点〟を受講者全員が体感・体得できるよう、このゼミではじっくり時間をかけて学びます。

文化・政治・経済・商業・法律・戦争・情報など、テーマも時代も自由です。時間をかけてテーマを見つけましょう（過去には「武士の文化」「人種と中世的世界」「情報の読み方・発信の仕方」などがありました）。具体的な授業の進め方は、人数や個別のテーマ・習熟度次第で受講者と相談しつつ決める予定ですが、討論と思考に重点を置くものにし、最終的にゼミ発表会で、〝歴史が苦手な人でも聞きたくなる発表〟をできる能力を身につけてもらいます。

したがって、受講者全員の積極的な参加姿勢と協力的な運営が必須となります。特に授業は原則として出席が義務となり、懇親会や合宿なども企画します。それらも含め、ゼミナールはチームプレーです。その精神と支え合い、積極的な参加姿勢で、充実した学生生活の一つの柱となるゼミナールになるよう、期待しています。

【方法】
教室での座学、プレゼンテーション訓練のほか、随時、史跡や博物館の見学を行い、実地・実物で歴史を体感します。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
○	◎	◎	◎	◎	◎	○

ゼミ担当教員科目	日本史(古代・中世・近世)／日本史(近代・現代)／社会科・地理歴史科教育論／社会科・地理歴史科指導法／ゼミⅠ	関係する科目	〝ものの考え方〟や人間の営み、世界の仕組みと人間の関係などに関する幅広い教養科目。

テキスト

開講後、適宜指示します。
（購入・読破を義務にはしませんが、中央公論新社の文庫『日本の歴史』か、講談社学術文庫『日本の歴史』の、興味ある時代の巻を読むことをお勧めします）

参考書

開講後、適宜指示します。担当教員が普段どのような研究をしているかを知りたい場合は、「鎌倉幕府の儀礼と年中行事」（五味文彦・本郷和人・西田友広・遠藤珠紀・杉山巖編『現代語訳吾妻鏡別巻 鎌倉時代を探る』、吉川弘文館、2016年）が、一般向きで分かりやすく書かれています。また一般向けの本としては、桃崎有一郎『平安京はいらなかった』（吉川弘文館、2016年）もあります。

成績評価方法

下記の諸要素を総合的に評価します。
・出席状況（**毎回の出席が義務づけられます**。やむを得ない欠席は、初回に指示する方法で事前に連絡して下さい）。
・報告内容（与えられた課題／自分で設定した課題に真剣に取り組んだか否かを重視します）。
・議論への参加状況（出席確認と連動させます）。
・授業での受講態度や、ゼミのイベントに対する貢献度など、〝参加意欲〟と捉えられるもの全般。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
①～②　ガイダンス・研究テーマの検討・事前準備 ②～③　研究テーマの検討・事前準備 ④～⑭　文献講読・研究発表 ⑮　春学期の総括討論、夏休み課題・イベントの準備など ※夏季休暇中に夏合宿を行う年があります（行き先は毎年ゼミ生と相談。これまでは京都・松本・飛騨高山）。	①～⑭　ゼミ発表会の事前準備・文献講読・準備発表など ⑮　秋学期の総括、春休み課題・イベントの準備など

ゼミ名	桃崎第二ゼミナール (Seminar)	学部	商学部	募集学年	なし	担当教員	桃崎 有一郎

選考方法	３年生からの持ち上がり（４年生からの新規募集なし)。
研究テーマ	日本文化と歴史の探求に関する卒業論文指導

ゼミナールの目標・概要・方法

【目標】
３年生までに学んだ日本の文化や歴史の探究を踏まえ、卒業論文を完成させます。
【概要】
就職活動との兼ね合いを図りながら、順次、卒業論文の執筆に必要な作業を進めてゆきます。テーマ設定、参考文献や資料の探索・調査、下書きとそのチェック、仕上げと提出、という各段階で、集団もしくは個人ごとに担当教員が相談に乗り、必要な指導・助言を行います。
【方法】
教室でのグループ指導または個別指導。必要に応じ、担当教員の研究室や、図書館でも行います。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要／○重要)

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
○	◎	◎	◎	◎	◎	○

ゼミ担当教員科目	関係する科目
日本史(古代・中世・近世)／日本史(近代・現代)／社会科・地理歴史科教育論／社会科・地理歴史科指導法／ゼミⅠ	〝ものの考え方〟や人間の営み、世界の仕組みと人間の関係などに関する幅広い教養科目。

テキスト

開講後、適宜指示します。
（購入・読破を義務にはしませんが、中央公論新社の文庫『日本の歴史』か、講談社学術文庫『日本の歴史』の、興味ある時代の巻を読むことをお勧めします)

参考書

開講後、適宜指示します。

成績評価方法

下記の諸要素を総合的に評価します。
・卒業論文の内容のみで評価します。
・なお出欠に関しては、以下の通りとします。春学期は原則として、就職活動の最盛期なので、出席を義務づけません。ただし、定期的に就職活動の状況を担当教員へ報告してもらいます。秋学期は原則として、就職活動が落ち着く頃なので、毎回の出席を義務づけます。ただし、就職活動を継続中の場合は、活動の概要を毎週担当教員に報告することにより、出席義務を免除します。

年間授業計画

(春学期)	(秋学期)
①　ガイダンス ②～⑭　研究テーマの検討と、先行研究・史料の調査。 ※夏季休暇中に夏合宿を行う年があります（ゼミⅡ･ゼミⅢと合同で行います)。	①　⑭　先行研究・史料の調査の継続と執筆の指導

ゼミ名	安本ゼミナール (Seminar)	学部	商学部	募集学年	新４年生　０名	担当教員	安本　真弓

選考方法	募集なし
研究テーマ	日中ビジネス文化に関する研究

ゼミナールの目標と概要

研究の内容：
　日中ビジネス文化に関連するテーマについて調査・分析を行い、その成果は卒業論文としてまとめあげる（外部講師招聘予定)。

学習方法：
　学生一人ひとりに研究テーマの設定、先行研究の集め、データの収集、資料の分析、論文の作成といった作業を積極的に行ってもらう。授業以外にも随時個別指導するとともに、就職活動の個別指導をも行う。

⑧到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要／○重要)

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	○	○	○

ゼミ教員担当科目		関係する科目	中国語、一般教養科目、及び経営・商学部の基礎的科目

テキスト

適宜に指示する。

参考書

必要に応じて紹介する。

成績評価方法

卒論への取り込みとその内容、そして下級生とのコミュニケーションなどを合わせて総合的に成績評価する。

年間授業計画

（春学期）

① ガイダンス
② 研究データの検討
③ 先行研究の収集
④ その他情報収集
⑤ 仮説を立てる

（秋学期）

⑥ 卒論の作成
⑦ 卒論の作成指導
⑧ 卒論の中間報告
⑨ 卒業論文の最終発表
⑩ 卒業論文の提出

ゼミ名	山田浩ゼミナール (Seminar)	学部	商学部	募集学年	新2年生　5名 新3年生　若干名	担当教員	山田　浩

選考方法	面接（「なぜ本ゼミナールを志望するのか」を明確に説明すること）
研究テーマ	グローバル人材に求められる英語とは何か

ゼミナールの目標・概要・方法

【ゼミナールの目標】
グローバル人材に求められる英語について、多角的な視点から考察し、自らの考えを自分の言葉で表現できるようになることを目標としています。

【ゼミナールの概要】
2003年に文部科学省が発表した「『英語が使える日本人』の育成のための行動計画」を皮切りに、日本の国民に一定の英語力を身につけさせる体制を確立するための計画が進行しています。このような流れの中で、大学の英語教育の目標は、「大学を卒業したら仕事で英語が使える」こととされており、グローバル化した現代で活躍できる人材の育成が期待されています。
本ゼミナールではグローバル人材に求められる英語とは何かを明らかにし、それを身につけるための方法を理論と実践の両方の立場から考察します。各自の関心に合わせて自由にテーマを設定し、議論を通じて自分なりの結論を見出していきます。テーマの例としては、①グローバル人材に必要な資質とは何か、②英語教育の目的・目標、③単語・文法、④教材・教具・タスク、⑤評価方法、⑥他教科との連携、などが挙げられます。
将来、世界に羽ばたき、新たな時代を築く有為な人材になることを志す者はもちろん、そのような人材の育成に関心のある者を歓迎します。

【授業の方法】
この授業ではグローバル人材に求められる英語について、自ら課題を発見し、調査や実験を通じて解決策を見出し、他者との対話によって幅広い視点から考察するアクティブラーニングを行います。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	○	◎	◎	◎	○

ゼミ担当教員担当科目	英語Ⅰ／英語Ⅱ	関係する科目	英語Ⅰ／英語Ⅱ

テキスト

ゼミの時間中に随時紹介します。

参考書

ゼミの時間中に随時紹介します。

成績評価方法

出席、授業への参加態度、課題への取り組みを総合的に考慮して評価します。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
①グローバル人材育成に関わる論点の整理 ②先行研究に基づいた議論 ③ゼミ発表会の準備	①ゼミ発表会の準備 ②中間発表会 ②　ゼミ発表会

ゼミ名	大島第一ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新 2 年生　若干名	担当教員	大島　久幸

選考方法	面接
研究テーマ	日本経営史 ― ケーススタディ（事例研究）

ゼミナールの目標と概要

【ゼミナールの概要】
本ゼミナールでは、他大学との合同ゼミの開催を予定しています。ゼミでは各大学教員参加のもと実際の企業や企業家を対象としたテーマを自ら設定して、検討を行い、他大学からの質問に答え、学内および共同発表会を行った後、年末にかけて合同ゼミ論文集を作成します。
自分たちで独自の仮設を設定して論証し、多くの人に対して発表していくことで論理的思考能力やコミュニケーション能力が養われます。
本年度も参加学生と相談しながら他大学や外部の企業との合同の勉強会等の機会を設けたいと思います。

※本ゼミでは、起業事業継承コースのゼミとも合同でゼミを行います。

【学習の方法】本ゼミナールでは、企業へのインタビューや社史、有価証券報告書、雑誌記事、関連書籍等の各地公共図書館・各大学図書館での資料収集を通じて論文を作成し、その過程で企業の方々や他大学の学生との討論といった一連の共同作業を行います。こうした作業は多くの労力を必要としますが、その分得るものも大きいといえるでしょう。

【その他】ゼミとは、学問・研究と課外活動を通じて人間が信頼関係を結ぶ場ではないかと思っています。本ゼミでは企業の方や他大学との討論会以外にも、作業の前提として国会図書館の見学や本学の他のゼミナールとの勉強会、ゼミコンパ等々さまざまな活動が行われます。これら活動を通じて、自らの成長を実感できるような積極的な参加を期待します。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎		◎		

ゼミ教員担当科目	関係する科目
経営史、企業家論	経営史、企業家論、経営学関連科目

テキスト

課題に応じて、広く収集します。必要な資料をいかに集めるかも重要な学習となります。

参考書

成績評価方法

討論会への参加度によって総合的に評価します。欠席は認めません。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
①～②仮テーマの設定 ③ 本年度テーマの設定 ④～⑫資料の収集と仮説の設定 ⑬～⑮ 最終的な構成を決定	①～④論文の執筆 ⑤～⑥他大学論文の検証と質問書の作成 ⑦～⑧参加大学からの質問書の回答の準備 ⑨ 討論会 ⑪　⑭　論文の修正と最終論文の執筆

ゼミ名	大島第二ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	募集なし	担当教員	大島　久幸

選考方法	—
研究テーマ	日本経営史 — ケーススタディ（事例研究）

ゼミナールの目標と概要

【授業の方法と内容：アクティブラーニング】
第二ゼミでは第一ゼミでの経験を踏まえ、3、4 年生を対象に卒業論文の執筆に取り掛かります。
　論文作成に当たっては、業界紙、社史、雑誌記事、有価証券報告書等々の様々な資料を収集して自ら設定したテーマについて論理性をオリジナリティの高い論文の作成を目指します。
　これまでのグループで行う作業から個人で行う作業へとかわることで厳しさが増す反面、達成感も大きくなります。納得できる作品を仕上げられるよう精一杯頑張って下さい。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	○			

ゼミ担当教員科目	関係する科目
経営史、企業家論	経営史、企業家論、経営学関連科目

テキスト

課題に応じて、広く収集します。必要な資料をいかに集めるかも重要な学習となります。

参考書

成績評価方法

卒業論文の完成度によって総合的に評価します。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
①～⑮ 仮テーマの設定 →資料の収集 →仮説･章別編成案の作成	①～⑮ 一次論文の作成→校正の修正 二次論文の作成→修正→完成論文の提出

ゼミ名	黒川第一ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新２年生　10 名 新３年生　若干名	担当教員	黒川　雅之

選考方法	面接
研究テーマ	人の「キャリア行動」「キャリア発達」の研究

ゼミナールの目標・概要・方法

【研究テーマ】
今日、複雑化、高度化した社会のなかで、入社時点だけでなく、生涯にわたる個人の職業の選択と適応の研究やその援助が大変重要な課題となっています。人と仕事・職業、人と組織とのかかわりあいから発生する諸事象を対象とし、それを心理学的な視点から研究していこうとする応用心理学の分野に「産業・組織心理学」「職業心理学」があります。能力の測定、開発、モチベーション、興味、適性など、どちらも様々に重なりあう部分がありますが、その強調点が異なります。「産業・組織心理学」は組織の生産性や雇用する側の成功に焦点をあて、職業心理学は個々の労働者の満足度、興味、キャリアや職業の選択と適応行動などに焦点をあてます。このどちらの視点も大切ですが、本ゼミナールでは、主として「職業心理学」の立場に立って、働く個人に焦点をあて、個人はどのように仕事・職業、キャリアを選択し、経験していくのか。また、そのなかでどのように発達していくのかを研究していきます。

【学習方法】
「キャリア」について学ぶとき、３つの領域があります。①キャリアに関する理論や人のキャリア行動の実態の研究、②自分自身のキャリアを形作るために自分を知り、方法を定め、実現すること、③他者のキャリア発達の援助について学ぶことです。文献研究、体験、グループ活動を通じてそれぞれの理解を深めていくことにしますが、キャリア研究に必要な心理学の基礎とキャリアに関する基礎理論を学ぶことは最低限必要になります。そして、最終的には、卒業までに各人がテーマを設定し、論文を完成させていくことを目的とします。２９年度のゼミでは、脳科学について、３０年度は、ゼミ発表に向けて個人が関心のあるテーマを選び個別に発表しています。次年度は、心理学あるいはキャリアについての文献研究をしていこうと考えています。

【授業の方法】
こちらから提示あるいはグループでテーマを設定し、グループ内で議論を行い、さらに全体で討議するかたちで進めていきます。

※なお、今年度が最後のゼミ生募集となります。今回の募集ゼミ生には、４年時までゼミの指導は行いますが、３、４年時は、非常勤講師としての指導となりますので、応募の際は承知しておいてください。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要／○重要)

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎		○		○		

ゼミ担当教員科目		関係する科目	
	キャリアデザイン論		心理学 カウンセリング論 経営学、経営労務論、経営心理学、経営社会学など

テキスト

『キャリアの心理学』　渡辺三枝子監修　ナカニシヤ出版

参考書

『単純な脳、複雑な「私」』池谷裕二　ブルーバックス　講談社
『世界でひとつだけの幸せ』　M.セリグマン　小林裕子訳　アスペクト

成績評価方法

出席を重視します。その他発表、グループ活動への参加を含め、総合的に評価します。

年間授業計画

(春学期)	(秋学期)
①心理学の基礎知識 ②キャリアの心理学の諸理論を学ぶ	①ゼミナール発表会の準備 ②心理学的研究方法 ③研究実習 年間を通じて以上の内容を考えていますが、テーマを含め皆さんと相談しながら進めていきたいと思っています

ゼミ名	黒川第二ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	募集なし	担当教員	黒川　雅之

選考方法	―
研究テーマ	人の「キャリア行動」「キャリア発達」の研究

ゼミナールの目標・概要・方法

【研究テーマ】
　人と仕事・職業、人と組織とのかかわりあいから発生する諸事象を対象とし、それを心理学的な視点から研究していこうとする応用心理学の分野に「産業・組織心理学」「職業心理学」があります。能力の測定、開発、モチベーション、興味、適性など、どちらも様々に重なりあう部分がありますが、その強調点が異なります。「産業・組織心理学」は組織の生産性や雇用する側の成功に焦点をあて、職業心理学は個々の労働者の満足度、興味、キャリアや職業の選択と適応行動などに焦点をあてます。このどちらの視点も大切ですが、本ゼミナールでは、主として「職業心理学」の立場に立って、働く個人に焦点をあて、個人はどのように仕事・職業、キャリアを選択し、経験していくのか。また、そのなかでどのように発達していくのかを研究していきます。
　本ゼミナールでは、前年度までの研究をもとにして、各人が研究テーマを選定し、卒業論文に纏め上げていくこととします。

【授業の方法】
こちらから提示あるいはグループでテーマを設定し、グループ内で議論を行い、さらに全体で討議するかたちで進めていきます。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎		○		○		

ゼミ担当教員科目		関係する科目	
	キャリアデザイン論		心理学 カウンセリング 経営学、経営労務論、経営心理学、経営社会学など

テキスト

各人の研究テーマに沿って指示します。

参考書

その都度お知らせします。

成績評価方法

出席、発表、グループ活動への参加を重視し、総合的に評価します。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
①研究テーマの設定に向けての資料収集 ②研究テーマの設定、発表	①検証方法の検討 ②検証 業論文の作成

ゼミ名	五野井第一ゼミナール （Seminar）	学部	経営学部	募集学年	新２年生 ６名程度 新３年生 ３名程度	担当教員	五野井郁夫

選考方法	面接他
研究テーマ	文化と国際政治

ゼミナールの目標と概要

【ゼミナールの目標】
　文化と消費社会の諸問題から国際政治にまつわる諸課題について，日常の様々な側面から考え，理解を深める。とくに今年度のゼミでは，グローバル化しつつある文化のもつ政治の可能性に注目し，それらを読み解くことを目標としてみたい。

【ゼミナールの概要と学習方法】
　まず日常のなかから文化と政治の関係を分析する力を養うべく，近年の政治理論と文化の理論，国際政治理論をいくつかの文献の講読や，映像教材を観賞することで概観する。その後，ポップカルチャーやフェス，小説，ゲーム，ストリート，都市，映画，漫画やアニメ，現代芸術，建築，ファッションなどの事例から流行と政治的なものとは何かを読み解き検討してゆく。
　講読と並行して，春学期の終わり頃までには参加者の問題関心をもとに研究テーマの設定を開始し，学習した成果について秋学期終盤のゼミ発表会での発表も考えている。教員の側も，受講生がたの世代がどのようなリアリティや世界観を持っているのかを，大いに学びたいと考えている。ディベートへの積極的な参加も歓迎する。

【その他】
　課外学習として，映画や美術展の見学，市街地の調査等を予定している。委細はゼミ生と合議して決定する。
　＊ゲスト講師等を呼ぶ場合もある。

⑧到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	◎	◎	◎	◎

ゼミ教員担当科目		関係する科目	
	政治学、国際政治、地方自治		政治学、国際政治、憲法、日本史、世界史、情報社会論、哲学、倫理学、ジェンダー論、文化交流史、社会学

テキスト

開講時に指示する。

参考書

ライフスタイル誌やファッション誌，各種文化系雑誌や文芸誌，論壇誌にくわえて『図書』，『美術手帖』，『アイデア』，『NewType』，週刊・月刊漫画雑誌など幅広く目を通すこと。その他適宜紹介する。

成績評価方法

　出席とゼミへの貢献を総合的に評価する。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
4 月　オリエンテーション 5-6 月 文献の講読と映像観賞、現地調査もふくむ調査研究 7 月　ゼミ発表会準備（任意）	9-10 月　文献の講読と映像観賞、現地調査もふくむ調査研究 11 月　ゼミ発表会準備＋発表会（任意） 12-1 月　文献の講読と映像観賞、現地調査もふくむ調査研究の継続

ゼミ名	五野井第二ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新2年生 2名程度 新3年生 2名程度	担当教員	五野井郁夫

選考方法	面接他
研究テーマ	社会科学基礎

ゼミナールの目標と概要

【ゼミナールの目標】
社会科学諸分野にまつわる外国語文献も含むテキストの正確な読解、レジュメの作成と報告、論理的思考、討論を行う能力を身につけることを目標とする。国際政治学や政治哲学、社会哲学など、幅広い分野に対応したゼミとなる。

【ゼミナールの概要と学習方法】
受講者の習熟状況と相談して決定する。

【その他】
本ゼミは国内外の大学院進学等、比較的難易度の高い試験の受験を考えている学生向けに、アドホックに開講される。課外学習の委細はゼミ生と合議して決定する。「文化と政治」ゼミとのコラボレーションも行う。
＊ゲスト講師等を呼ぶ場合もある。

⑧到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要／○重要)

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

ゼミ担当教員科目	関係する科目
政治学、国際政治、地方自治	政治学、国際政治、憲法、日本史、世界史、情報社会論、哲学、倫理学、ジェンダー論、文化交流史、社会学

テキスト

開講時に指示する。
岩波の『思考のフロンティア』シリーズで関心がある分野は読み進めておくこと。

参考書

『現代思想』、『思想』、『図書』、『書斎の窓』、『UP』、『ゲンロン』などの月刊誌・季刊誌は適宜目を通しておくこと。その他適宜紹介する。

成績評価方法

毎回、テキストの指定箇所を丁寧に読み、参加者全員、コメント・論点を準備すること。報告担当者はレジュメを準備すること。

年間授業計画

(春学期)	(秋学期)
4月　オリエンテーション 文献の講読と映像観賞、調査研究 7月　ゼミ発表会準備（任意）	10月　文献の講読と映像観賞、調査研究 11月　ゼミ発表会準備＋発表会（任意）

ゼミ名	小林第一ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新2年生 約　18 名 新3年生 約　0 名	担当教員	小林 康一

選考方法	エントリーシート　＋　面接
研究テーマ	経営と社会・人間

ゼミナールの目標・概要・方法

【ゼミナールの目標と概要】

経営には経済的側面のほかに重要な側面があります。それは、ひとつは社会学的側面、もうひとつは心理学的側面です。前者の社会学の基本的アプローチとは、社会現象が起こる原因をメカニズム（因果関係）として解明するアプローチです。こうした社会学的な見方によって経営を分析することが本ゼミのテーマのひとつです。後者の心理学のアプローチとは主に企業で働く人のココロに焦点を当てたアプローチです。人が企業で働くということには、賃金を得ること以上の意味を持ちます。これらの心理的側面から経営の諸問題を考察することが本ゼミのもうひとつのテーマとなります。本ゼミでは、研究と同時に社会において必要となる最低限のスキル（ディスカッション・グループワーク・プレゼンテーションなど）の獲得を副次的な目標として掲げています。よって、こうしたスキルのトレーニングをあわせて複数回行います。

また、研究成果の発表とプレゼンテーションのスキルアップのために、学内のゼミ発表会には必ず参加します（また、3年次にはインナー大会などの学外でも発表を積極的におこないます)。それらの準備にむけて一年を通してかなりハードな課題を課しますので、アルバイトや個人的な活動を優先される学生諸君には入ゼミをお勧めしません。

【小林ゼミの求める人材】

上記に見るように、ゼミの活動は基本的に同期や先輩、後輩などとの協力作業が中心となります。しかし、協力といっても仲良しサークルではありません。第一義的に個人のスキルを高めることを目標とした上での「協働」ができるチームの形成を目標とします。本ゼミのモットーは、「よく学び、よく遊べ」。つまり、授業とオフとのメリハリを大事できる人の受講を望みます。ゼミの運営については『基本的に欠席は認めず、欠席3回でゼミの参加そのものを認めません』。また、みなさんに求める課題や活動の水準も非常に高いです。よって、やる気と覚悟のある方だけ受講するようにしてください。

【授業の方法】

ゼミの研究は基本的にグループによるディスカッション形式で行います。また、年2回の合宿では集中的に一つのテーマについて議論していただきます。授業内では実際に社会で活躍されている社会人の方による講演や経営の現場に足を運んでの調査などもおこなう予定です。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	○	◎	○	○

ゼミ担当教員科目	関係する科目
経営心理学、経営学概論 情報と職業	経営学概論、経営心理学、経営組織論、経営労務論、経営戦略論、キャリアデザイン論など

テキスト

授業時に適宜配布、ならびに購入していただきます。

参考書

授業時に適宜配布、ならびに購入していただきます。

成績評価方法

ゼミ活動への貢献をもとに評価します。

年間授業計画

（春学期）
① グループディスカッション（演習）
② プレゼンテーション（演習）
③ 企業経営基礎（輪読）
④ 企業経営分析（ケースディスカッション）
⑤ 総合演習（合宿）

（秋学期）
① ゼミ発表準備（2年生が中心）
② インナー大会の準備（3年生が中心）
③ 就職活動に向けた支援 PGM（3年生）
④ 企業訪問・外部実務家の講演など

ゼミ名	小林第二ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	募集なし	担当教員	小林 康一

選考方法	―
研究テーマ	総合経営

ゼミナールの目標・概要・方法

【ゼミナールの概要】
第二ゼミでは基本的に卒業論文の作成を目標として、4年生によってゼミを行います。

【ゼミナールの概要】
経営には経済的側面のほかに重要な側面があります。それは、ひとつは社会学的側面、もうひとつは心理学的側面です。前者の社会学の基本的アプローチとは、社会現象が起こる原因をメカニズム（因果関係）として解明するアプローチです。こうした社会学的な見方によって経営を分析することが本ゼミのテーマのひとつです。後者の心理学のアプローチとは主に企業で働く人のココロに焦点を当てたアプローチです。人が企業で働くということには、賃金を得ること以上の意味を持ちます。これらの心理的側面から経営の諸問題を考察することが本ゼミのもうひとつのテーマとなります。

【学習の方法】
卒業論文作成のために、文献調査や理論研究だけでなく実際に対象企業に対するインタビューやアンケートなどの調査活動もおこなっていきます。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	○	◎	○	○

ゼミ担当教員科目	経営心理学、経営学概論 情報と職業、	関係する科目	経営学概論、経営心理学、経営組織論、企業論、経営労務論、経営戦略論、キャリアデザイン論など

テキスト	論文テーマを決定する際にあわせて準備すること。
参考書	
成績評価方法	ゼミ活動への貢献をもとに評価します。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
①　卒業論文テーマの策定 ②　就職活動報告 ③　就職決定先企業の分析と調査	①　卒業論文執筆 ②　TAとしてゼミの運営をサポート ③　就業に向けた準備

ゼミ名	笹金第一ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新2年生　12名程度 新3年生　若干名	担当教員	笹金　光徳

選考方法	「教員＋ゼミ生数人」による面接（「なぜ笹金ゼミを志望したのか」ということが明確に説明でき，その理由が理にかなっているなあと判断できれば，合格する可能性はきわめて高いと思いますので，しっかり準備してください）
研究テーマ	情報通信技術（ICT）と現代社会とのかかわりについて

ゼミナールの目標・概要・方法

情報関係の知識を身につけ，資格を取得することは，コンピュータの専門家以外のいかないる仕事に就く人達にとっても十分意味があると考えています。

現代は「情報化社会」とよく言われ，本学にもいくつかの情報関連科目が用意されています。しかしながら，コンピュータ技術やネットワーク技術が日々進化する中で，毎日のように新しいアイデアやサービスが生まれている現状を，体系的に情報関連科目のなかで，十分伝えることには限界があります。

そこで，本ゼミナールでは，そう言った情報関連のホットなテーマについて，掘り下げて調査・研究し，考察していきたいと考えています。経営学部学生の所属コースは問いません。商学部の学生も歓迎します。①インターネットに興味がある人，②情報の知識・技術がビジネスでどのように役立っているか学びたい人，③IT パスポート試験，MOS 等の資格を取りたいと思ってきた人，④Twitter や facebook といったソーシャルメディアに興味のある人，⑤「クラウドコンピューティング」，「IoT」，「AI」，「5G」に関心のある人，そんな諸君を待っています。

[授業の方法]

当ゼミでは，2 年生と 3 年生が共同でゼミ運営をしていきますので，春合宿から春学期において，まずゼミ生同士の信頼関係を十分築くことを目標とし，次第に秋のゼミ発表会の準備にシフトしていきます。夏合宿をはさんで秋学期には，ゼミ発表会に向けての仕上げと，論文の作成が活動の中心となります。確かに，担任が表計算，データベース，ソーシャルメディア等の活用法の講義も行いますが，基本的には学生同士の主体的学びを中心とするアクティブラーニングによってゼミは進行します。さらに，自主的な（自由参加の）活動の一環として，同じ目標を持つ学生間のサブゼミを奨励しています。たとえば，「プログラミング」について学びたい，「IT パスポート」や「MOS」の合格を目指したいといった勉強会等です。ただし，決して「強制」ではありません。

ゼミ内では各自が思いやりを持って行動し，お互いが成長することが大切です。当ゼミのチームワークの良さについては，公開ゼミやゼミ発表会で確認して下さい。

なお，参考までに，昨年のゼミ発表会での笹金ゼミの発表の概要とゼミ紹介パンフを，10 月中旬以降，笹金研究室（2407 号室－図書館 4 階）の入口にて配布しますので，興味のある方，持って行ってください。また，質問・相談等も受け付けていますので，その場合にはパンフに書かれているメールアドレスまで連絡してください。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	○	○	◎	◎	○

ゼミ担当教員科目		関係する科目	
	データベースⅠ・Ⅱ，基礎コンピュータⅠ・Ⅱ		基礎コンピュータⅠ・Ⅱ データベースⅠ・Ⅱ，応用表計算 経営学概論

テキスト

市販されている IT パスポート試験用の教科書から良書を選択し，教科書にします。

参考書

ゼミの時間中に随時紹介する。

成績評価方法

本ゼミで最も強調したいことは，成績評価において出席を重要視することです。さらに，「目標と概要」の主旨より，週一回の授業を中心とするゼミ活動に積極的に取り組むことを望みます。これらを踏まえて，平常点こそが評価の基準であると考えていただきたい。結局のところ，各自が，社会を担う人材として十分な能力と人格を身に付けるための成長の機会として，ゼミ活動を位置付けて欲しいと願っています。

年間授業計画

（春学期）
以下の内容を組み合わせて行う
① ゼミⅡ・ゼミⅢの学生が分担し，IT パスポートの範囲の勉強とプレゼンテーション
② ゼミ発表会に向けてのグループ研究
③ 担任による ICT の最新動向の講義と実習など
④ ICT 関係の展示会への参加（見学）
⑤ 夏合宿（ゼミ発表会の準備，担任企画，親睦）

（秋学期）
以下の内容を組み合わせて行う
① ゼミ発表会に向けての仕上げ
② ゼミ発表論文の作成
③ 担任による ICT の最新動向の講義と実習など
④ ICT 関係の展示会への参加（見学）
⑤ 春合宿（次年度新ゼミ生も可能な限り参加）

ゼミ名	笹金第二ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	募集なし	担当教員	笹金　光徳

選考方法	―
研究テーマ	情報通信技術（ICT）と現代社会とのかかわりに関する個人研究

ゼミナールの目標・概要・方法

ゼミⅡ・Ⅲ（笹金第一ゼミナール）で学んできたことを基礎として，春学期前半には，ゼミ生自ら関心のあるテーマを選んで順次，研究発表を行う。さらに，これをベースにして，春学期後半には，

分類①：現代社会・ビジネスにおいて利用されている情報通信技術（ICT）に関する研究

分類②：ICT を活用して実現されている現代社会・ビジネスにおける取組・トレンドについての研究

のいずれかの分類から具体的な卒業論文のテーマを決定する。

秋学期は，卒業論文完成に向けて，調査・研究・執筆を行う。

このようにゼミⅣは，自らテーマを選定し，研究を進めつつ，担当教員がアドバイスを行う形式で進行する，いわゆる典型的なアクティブラーニング形式の授業である。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	○	○	○

ゼミ教員担当科目	関係する科目
データベースⅠ・Ⅱ，基礎コンピュータⅠ・Ⅱ	基礎コンピュータⅠ・Ⅱ データベースⅠ・Ⅱ，応用表計算 経営学概論

テキスト

ゼミⅡ・Ⅲで用いたテキストを引き続き利用すると共に論文作成に役立ちそうなテキストを新たに購入する。

参考書

ゼミの時間中に随時紹介する。

成績評価方法

卒業論文の内容を評価するよりも，むしろ，卒業論文完成に至るまでに各自のたどった軌跡を，評価の対象とする。最終的に良い論文に仕上がるか否かは，①テーマの選定，②本人の能力・努力，③担当教員の指導力，の 3 点の総合力によって決定されるものと思われる。

年間授業計画

（春学期）
① 情報分野全般に関する復習
② ゼミ生が選んだテーマによる研究発表①
③ ゼミ生が選んだテーマによる研究発表②
④ 近年のトレンドを中心とした ICT に関する補足
⑤ 卒業論文完成に至るまでの調査・研究法の解説
⑥ 卒業論文テーマ決定とアウトライン・主題文の作成

（秋学期）
① 卒業論文テーマに基づく個別研究
② 論文執筆に関する解説・指導
③ 卒業論文中間発表
④ 最終指導
⑤ 卒業論文提出

ゼミ名	田口第一ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新２年生：5～7名 新３年生：募集なし	担当教員	田口　和雄

選考方法	【選考方法】①エントリーシート（応募時に提出）、②面接 【応募する皆さんに求めること】 「知的好奇心のある学生」「コツコツ頑張る学生」「自分の将来を真剣に考えている学生」 【選考の考え方】 人材マネジメントに興味や関心を持っていることは大切な点ですが、この他に「自分の卒論」に汗をかいて仕上げる「意気込み」をもっていることが選考の最も重要な決め手となります。それと、長いつき合いになるので、お互いの「相性（楽しくつき合える）」も重視します。ですから、エントリーシートや面接で、自分のことをについて大いにアピールして下さい。
研究テーマ	人材マネジメント（企業は社員をどのように活用しているのか？）

ゼミナールの目標と概要

【ゼミナールの目標と概要】

企業は経営目標の実現を目指して、社員をどのように活用しているのか（これを「人材マネジメント」と呼びます）を研究するゼミです。

皆さんの身近な例を取り上げると、３年生の後半から、皆さんの多くは「就職活動」を始めます。そこで、まず考えることは「自分はどのような『仕事』に向いているのか？」「将来どのような『キャリア』を考えればいいのか？」でしょう。さらに、就職活動では企業が何を重視して「採用」を行っているのかにも関心を持つでしょう。この企業の「採用活動」を人材マネジメントからみると、企業は経営目標の実現を目指すための「必要な人材を確保する取り組み」なのです。

このように考えると、人材マネジメントは、結構、皆さんに身近であり、皆さんの将来（就職活動、仕事、キャリア）に近い分野なのです。そういう分野を研究するゼミです。企業がどのように人材を活用しているのか（人材マネジメント）を研究することによって、皆さんのこれからの「キャリア、就職活動、仕事」につなげてもらいたいと考えています。これがゼミナールの目標です。

【授業の方法】

毎回、ゼミ生がレジメを準備して、報告し、他のゼミ生と議論して、理解を深める「ゼミ生参加型の授業形式」をとっています。ですので、報告する学生は発表の準備をしっかりしなければなりませんし、報告を聞く学生は積極的に議論をして理解を深めてもらわなければなりません。こうした学習方法を通じて、皆さんには、人材マネジメントに関わる専門的な知識を習得してもらいます。そして、自分で問題（研究テーマ）を見つけ、それについて研究（自分の考えを整理し、表現して、人に伝える）する能力を身につけてもらいます。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	◎	◎	○

ゼミ担当教員担当科目	関係する科目
経営労務論、賃金管理論	経営組織論、経営戦略論、経営労務論、賃金管理論、労働法など「人材マネジメント」に関わる分野

テキスト

開講時に連絡します。人材マネジメントに関わる基本的な知識を習得してもらうようなテキストを選びたいと考えています。

参考書

ゼミを進めていく上で、必要に応じて指示します。もちろん、ゼミ生の興味や関心のある分野に関連する文献も随時、紹介します。

成績評価方法

成績を評価する基本的な方法である、報告内容、レポートの他に、学習方法にあるように、ゼミ生参加型の授業形式をとっているので、ゼミ活動にどれだけ汗をかいているか（出席状況、取り組み姿勢、協調性、議論への積極的な参加など）も重視します。

年間授業計画

【春学期】 毎回、ゼミ生が輪読するテキストを報告し、議論をしてもらい、人材マネジメントに関する基本的な知識を習得してもらいます。	【秋学期】 春学期で学んだ基本的な知識をもとに、企業の事例研究を行い、発表や議論を通じて人材マネジメントに関する知識の習得を深めていきたいと考えています。

ゼミ名	田口第二ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	―――	担当教員	田口　和雄

選考方法	―――
研究テーマ	人材マネジメント（企業は社員をどのように活用しているのか？）

ゼミナールの目標と概要

【ゼミナールの目標】

「自分（達）の作品（論文)」を完成させる力を養うことをゼミナールの最大の目標としています。

【ゼミナールの概要】

この目標を達成するために、３年生は全員でゼミ発表会の準備を行います。

第一に研究テーマを見つけ、研究計画を立てること、第二に「私たちの作品」の創作活動を行います。そのため、一人一人が互いに協力し合い、準備に積極的に参加することが必要になります。

つぎに、４年次では以下のことを行います。

大学生活の集大成である卒業論文の創作に向けて、３年次で行った一連の創作活動を１人で取り組んでもらいます。ですので、ゼミでは、普通の授業のような形式で知識を勉強していてもらう方式はできる限り避け、ゼミ生参加型の授業形式をとりたいと考えています。

このような学習方法を通じて、２年次の「人材マネジメントに関わる専門的な知識を習得してもらいます。そして、自分で問題（研究テーマ）を見つけ、それについて研究（自分の考えを整理し、表現して、人に伝える）する能力を身につける」ことのレベルアップを図ります。

【授業の方法】

毎回、ゼミ生がレジメを準備して、報告し、他のゼミ生と議論して、理解を深める「ゼミ生参加型の授業形式」をとっています。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	◎	◎	○

ゼミ教員担当科目	関係する科目
経営労務論、賃金管理論	経営組織論、経営戦略論、経営労務論、賃金管理論、労働法など「人材マネジメント」に関わる分野

テキスト

創作活動（研究活動）に必要なテキストを適時、紹介します。

参考書

ゼミを進めていく上で、必要に応じて指示します。もちろん、ゼミ生の興味や関心のある分野に関連する文献も随時、紹介します。

成績評価方法

成績を評価する基本的な方法である、報告内容、レポートの他に、学習方法にあるように、ゼミ生参加型の授業形式をとっているので、ゼミ活動にどれだけ汗をかいているか（出席状況、取り組み姿勢、協調性、議論への積極的な参加など）も重視します。

年間授業計画

【春学期】	【秋学期】
①毎回、ゼミ生が準備した課題・テーマを報告し、議論をしてもらうこと。 ②4 年生が各自による作品（ゼミ論）の創作活動（つまり、論文作成）に向けたテーマの選定（研究計画の立案)。	①毎回、ゼミ生が準備した課題・テーマを報告し、議論をしてもらうこと。 ②4 年生は各自による作品（ゼミ論）の創作活動（論文作成）

ゼミ名	竹内慶司第一ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新2年生　20名 新3年生　0名	担当教員	竹内　慶司

選考方法	エントリーシートと面接
研究テーマ	企業の経営戦略

ゼミナールの目標と概要

【研究の内容】

今日の消費者を取り巻く市場環境は、日々刻々と、あるいはある日突然劇的な変化を遂げています。
また、消費市場におけるビジネス間の競争も多元化してきています。
たとえば、製造業者は不断なるイノベーションを進め、多くの新技術・新製品の開発に努めています。しかし、どのような技術や製品も時が経つにつれ陳腐化していきます。しかもそのスピードは飛躍的に高まっています。その結果、多くの製品市場は早期に成熟化し、技術開発による競争ではなく低価格による競争に陥ってしまいます。いわゆるコモディティー化市場といわれるものです。
当ゼミでは、流通業、サービス業、製造業、アパレル産業など多岐にわたり、実際のビジネスにおける経営戦略事例を用い、多角的に分析していきます。
これまで、このような状況をいかに乗り切っていくかのケースを基に研究してきました。最近の班別の研究では、「アパレルメーカーの SPA 戦略について」、「資生堂はなぜ化粧品市場でトップにいられるのか」、「ソニーと任天堂のゲームソフト開発の相違」「ディズニーランドの強さの秘密」など多岐にわたっています。
また、お菓子メーカーと連携してお菓子のロングセラー商品の研究を行ったり、近隣の商店街と連携してイベントを企画し実施なども行いました・

【学習の方法】
当ゼミの研究は、テキストによる理論研究のみならず、外部講師の方に講義を行っていただき、ビジネスに直接関連した実学も研究し、理論と実務の両輪を回していきます。たとえば、街に出て店舗視察を行うなどフィールドワークも行います。
ゼミの活動については、以下の竹内ゼミのホームページ　http://keiji3.jugem.jp/でご確認ください。

【授業の方法】
ゼミは5～6名の班に分かれ、研究したい課題を決めて発表します。また、全員でアウトレットモールの視察を行います。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要／○重要)

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	○	○	◎	○	○

ゼミ担当教員科目	販売管理論、サービス・マーケティング論	関係する科目	販売管理論、サービス・マーケティング論
テキスト	必要に応じて指示します。		
参考書	必要に応じて指示します。		
成績評価方法	ゼミ活動への参加姿勢を重視します。		

年間授業計画

(春学期)	(秋学期)
オリエンテーション ゼミナール大会発表テーマ検討 同上チーム編成 プレゼンテーションの練習 ディベートの練習 資料収集、研究資料の作成 球技大会　ほか	ゼミナール大会のプレゼンテーション まとめ

ゼミ名	竹内慶司第二ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	募集なし	担当教員	竹内　慶司

選考方法	—
研究テーマ	流通業、製造業、サービス業の経営戦略

ゼミナールの目標と概要

【研究の内容】

興味を持った業界や企業を選び、その業界動向や企業戦略のあり方を研究します。
その研究成果を卒業論文として完成させます。

【学習の方法】
ゼミでは、経営学部の４年生を対象とし、主に卒業論文の執筆を中心に行っていきます。
春学期は各自で卒業論文のテーマを探し論文の骨子を組み立てて行きます。ゼミでは結果を発表してもらいます。
秋学期は卒業論文の完成に向け執筆課程を発表しながら修正して行きます。

【授業の方法】
ゼミでは、主に卒論制作に向け、各自で主体的に研究したいテーマを決め、随時発表してもらいます。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要／○重要)

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	○	○	◎	○	○

ゼミ担当教員科目	販売管理論、サービス・マーケティング論	関係する科目	販売管理論、サービス・マーケティング論

テキスト

必要に応じて指示します。

参考書

必要に応じて指示します。

成績評価方法

ゼミ活動への参加姿勢および卒業論文

年間授業計画

(春学期)	(秋学期)
オリエンテーション 卒業論文のテーマ検討 プレゼンテーション 資料収集・分析 卒業論文の骨子作成	卒業論文の執筆と経過報告 まとめ

ゼミ名	永戸第一ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新2年生　10名	担当教員	永戸　哲也

選考方法	面接・エントリーシート
研究テーマ	情報化と企業経営

ゼミナールの目標と概要

[ゼミナールの目標]
　情報化の進展は現代の企業経営におけるもっとも大きな環境変化の一つである。情報化は単なる技術変化のトレンドではなく、新たな産業や事業機会の創出、抜本的な経営の変革から最終的な顧客である消費者の日常生活にまで大きな影響を及ぼしている。企業は情報技術を活用することで新たな付加価値を生み出し、それが多様な製品・サービスとして提供されることで社会全体の情報化が進行している。

　本ゼミナールでは情報化によって生じる様々な具体的な現象をとりあげ、それらについて考え、理解していくことを目的としている。そこから「情報技術をどのように活用していくのか？」、「情報化とはどのようなことか？」、「そもそも情報とはどのような価値があるのか？」といった根本的な問題を検討・分析していく。そのうえで企業における情報技術の戦略的な活用事例を見つけ出し、単なる技術的視点だけではなく経営的視点からの分析を行っていく。現代企業は、販売・マーケティング、生産・物流、管理活動などの機能的側面やコミュニケーション、ナレッジ・マネジメントなどの組織的側面にいたるまでその活動のあらゆる場面で情報技術を活用している。多くの事例にあたり、情報技術の可能性を理解してもらいたい。

[ゼミナールの概要]
　春学期には、経営学全般への基礎的理解を目標とする。主として、①経営学の基礎的文献の輪読、②企業事例の調査・検討の 2 つの活動を通じて、企業の活動とそれを対象にした経営学の理論への理解を深めていく。

　秋学期には、経営情報論の基礎的内容の理解を目標とする。情報化が企業活動に与える様々な影響を考え、事例研究を中心に研究・分析へのアプローチになれていく。

[授業の方法]
　「企業」と「経営」について、また「情報」や「情報化」について幅広く考えていくので、数多くの事例、多様な文献にあたる必要がある。また、ゼミでは事例を用いたディスカッションを中心に進めるので十分な準備と積極的な発言が必要となる。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	◎	○	○	◎

ゼミ担当教員科目	情報リテラシー、情報社会論、情報管理論	関係する科目	情報リテラシー、情報社会論、情報管理論、 マーケティング情報論、経営情報論 経営学および商学に関する全ての科目

テキスト	開講時に指示する
参考書	必要に応じ指示する
成績評価方法	ゼミ活動への貢献度を評価する

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
3月　　春合宿 4～7月　事例研究（経営学の基礎的領域を中心に） 9月　　夏合宿	9月～12月　事例研究（経営情報論の基礎） 1月　　3年次研究テーマ設定

ゼミ名	永戸第二ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新 3 年生　若干名	担当教員	永戸　哲也

選考方法	面接・エントリーシート
研究テーマ	情報化と企業経営

ゼミナールの目標と概要

[ゼミナールの目標]
　情報化の進展は現代の企業経営におけるもっとも大きな環境変化の一つである。情報化は単なる技術変化のトレンドではなく、新たな産業や事業機会の創出、抜本的な経営の変革から最終的な顧客である消費者の日常生活にまで大きな影響を及ぼしている。企業は情報技術を活用することで新たな付加価値を生み出し、それが多様な製品・サービスとして提供されることで社会全体の情報化が進行している。

　本ゼミナールでは情報化によって生じる様々な具体的な現象をとりあげ、それらについて考え、理解していくことを目的としている。そこから「情報技術をどのように活用していくのか？」、「情報化とはどのようなことか？」、「そもそも情報とはどのような価値があるのか？」といった根本的な問題を検討・分析していく。そのうえで企業における情報技術の戦略的な活用事例を見つけ出し、単なる技術的視点だけではなく経営的視点からの分析を行っていく。現代企業は、販売・マーケティング、生産・物流、管理活動などの機能的側面やコミュニケーション、ナレッジ・マネジメントなどの組織的側面にいたるまでその活動のあらゆる場面で情報技術を活用している。多くの事例にあたり、情報技術の可能性を理解してもらいたい。

[ゼミナールの概要]
　2 年次に学んだ知識をもとに日々変化している情報化と経営のさまざまな現象にアプローチしていく。3 年次にはゼミ発表会やインナー大会への参加を目標に研究を進めていく。研究テーマは、ゼミ生諸君の興味・関心を基に決定する。
　春学期には文献研究を中心にテーマに関する既存研究をレビューし、研究の枠組みの把握、問題・仮説設定、分析フレームワークを構築する。それを基に夏～秋当初にテーマに関する事例について詳細に調査する。そこから得られた知見をもとに結論または今後の課題を見出す。
　4 年次には 3 年間の集大成として卒業論文作成を中心に活動を行っていく。テーマ設定・研究の意義目的を明確にし、研究全体の枠組み（フレームワーク）を十分検討し、仮説をもとに事例研究あるいは実証研究を行う。

[授業の方法]
　「企業」と「経営」について、また「情報」や「情報化」について幅広く考えていくので、数多くの事例、多様な文献にあたる必要がある。また、ゼミでは事例を用いたディスカッションを中心に進めるので十分な準備と積極的な発言が必要となる。必要に応じて、企業などへのインタビュー調査やアンケート調査などを行う。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	◎	○	○	◎

ゼミ担当教員科目	情報リテラシー、情報社会論、情報管理論	関係する科目	情報リテラシー、情報社会論、情報管理論、 マーケティング情報論、経営情報論 経営学および商学に関する全ての科目

テキスト

開講時に指示する

参考書

必要に応じ指示する

成績評価方法

ゼミ活動への貢献度を評価する

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
3 月　　春合宿 　　文献リストアップと基礎的理論の確認 4～6 月 テーマ絞込み 　　文献レビュー 7 月　　モデル・仮説の構築、調査内容の具体化 8 月　　夏合宿 9 月　　調査実施	10 月　　調査結果分析、仮説との照合、結論の導出 11 月　　ゼミ発表会 12 月～1 月　卒業論文提出

ゼミ名	中山第一ゼミナール （Seminar）	学部	経営学部	募集学年	新 2 年生 15 名程度 新 3 年生　0 名程度	担当教員	中山　景央

選考方法	面接
研究テーマ	オペレーションズマネジメントに必要な知識とスキルの習得

ゼミナールの目標と概要

＜ゼミナールの目標・概要＞

本ゼミナールでは、製品やサービスを創造し提供する企業や機関の事業活動（オペレーション）がどの様なプロセスで、どのような情報とリソースを使用して実行されているかを分析することによって、オペレーションの問題現象の解決を図る“オペレーションズマネジメント”に必要な知識とスキルの醸成を目的としています。将来、研究テーマ設定の際に必要となる経営上の問題点を見つける為の基礎知識を経営学や経営工学に関する書籍の輪読を通して学習していきます。また、その問題現象が発生している場面を分析するためのモデリング手法や分析技法についての講義や演習を行います。

対象としているオペレーションは製造業に限らず、看護業務や、介護業務、飲食業の接客業務等多岐にわたります。
モデリング手法や分析技法の演習では実際の現場データを用いた演習も行う予定です。

＜ゼミナールの方法＞

・講義、演習、輪読を通して基礎知識を習得してもらいます。
・輪読では当番制でリーダーを担当して頂きます。
　リーダーは担当部分についての概略資料の作成及び議論を円滑に進めるための司会を行ってってもらいます。
　（アクティブ・ラーニング）

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	○	○	◎

ゼミ担当教員科目		関係する科目	
	社会情報システム論 経営情報論 生産管理論		生産管理論 A/B, 経営工学等

テキスト

必要に応じて都度指定します。

参考書

必要に応じて都度指定します。

成績評価方法

ゼミへの出席、ゼミ内での発言や貢献度合いを総合的に判断して評価します。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
・モデリング手法/分析技法についての講義/演習 ・関連書籍の輪読 ※合宿等の開催はゼミ生と相談の上決定する。	・モデリング手法/分析技法についての講義/演習 ・関連書籍の輪読 ・調査・研究の進め方指導

<table>
<tr><td>ゼミ名</td><td>中山第二ゼミナール
（Seminar）</td><td>学部</td><td>経営学部</td><td>募集学年</td><td>募集なし</td><td>担当教員</td><td>中山　景央</td></tr>
<tr><td colspan="2">選考方法</td><td colspan="6">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">研究テーマ</td><td colspan="6">オペレーションズエンジニアリング手法を用いたテーマ研究</td></tr>
<tr><td>ゼミナールの目標と概要</td><td colspan="7">＜ゼミナールの目標・概要＞
　本ゼミナールでは、製品やサービスを創造し提供する企業や機関の事業活動（オペレーション）がどの様なプロセスで、どのような情報とリソースを使用して実行されているかを分析することによって、オペレーションの問題現象の解決を図る“オペレーションズエンジニアリングの手法を用いた課題解決を目的としています。
　課題の設定は個々人の自由ですが、対象をモデル化し、問題点を抽出し、課題の解決策を提案するというプロセスを通して卒論を作成していきます。

＜ゼミナールの方法＞
・個人面談による研究進捗の確認及び、研究の進め方指導を行います。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">到達目標</td><td colspan="7">【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）</td></tr>
<tr><td>(1)常に半歩先立つ進歩性</td><td colspan="3">(2)考えて行動する力</td><td colspan="3">(3)ともに行動する力</td></tr>
<tr><td>①問題を解決する力</td><td>②論理的に考える力</td><td>③複数の視点から考える力</td><td>①コミュニケーションする力</td><td>②他者を受け入れる力</td><td>③倫理観と社会的責任</td></tr>
<tr><td></td><td>◎</td><td>◎</td><td>◎</td><td>◎</td><td>○</td><td>○</td><td>◎</td></tr>
<tr><td>ゼミ担当教員科目</td><td colspan="3">社会情報システム論
経営情報論
生産管理論</td><td>関係する科目</td><td colspan="3">生産管理論 A/B, 経営工学等</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">必要に応じて都度指定します。</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="7">必要に応じて都度指定します。</td></tr>
<tr><td>成績評価方法</td><td colspan="7">ゼミへの出席、ゼミ内での発言や貢献度合いを総合的に判断して評価します。</td></tr>
<tr><td>年間授業計画</td><td colspan="3">（春学期）

・研究テーマの決定の為の文献調査及びディスカッション

※合宿等の開催はゼミ生と相談の上決定する。</td><td colspan="4">（秋学期）

・文献調査及び実地調査による研究論文作成</td></tr>
</table>

ゼミ名	藤井ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	募集なし	担当教員	藤井　耐

選考方法	―
研究テーマ	組織・管理・戦略および人間行動研究Ⅱ　－卒論研究－

ゼミナールの目標と概要

【研究の内容】
研究内容は、企業組織の研究、特に、組織行動・組織構造、あるいは経営管理・経営戦略という経営者・管理者の機能、及び、組織における人間行動・人間欲求といった経営学の主要テーマについて、有機的連動性を重視しつつ構成しています。4年生は、2･3年次のゼミ研究を参考に卒論作成に向けての議論が中心となります。

【学習方法】
ゼミでの基礎理論研究に関する討論に積極的に参加できるよう、事前に指定された書物を十分に理解しておいて下さい。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要／○重要)

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

ゼミ教員担当科目	経営組織論 経営学特別講義	関係する科目	経営組織論、経営管理論、経営戦略論

テキスト

授業開始時に決定します。

参考書

成績評価方法

出席・討議姿勢・協調的態度・プレゼン能力等総合評価

年間授業計画

(春学期)	(秋学期)
「卒論テーマ」「章構成」「参考文献」等を中心に全員が発表し討論。	実際に論述を進めている卒論の「内容」について、全員が発表し討論。

ゼミ名	藤芳第一ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新2年生　20名 新3年生　5名	担当教員	藤芳　明人

選考方法	面接（礼儀正しい学生が望ましい）
研究テーマ	未来のビジネス・リーダー

ゼミナールの目標と概要

【研究内容】

最近、世間は大学に、即戦力の人材育成を求めている。ところで、現代は変化社会である。イノベーション時代である。そこで、今日役立つ即戦力の人材ではなく、明日に役立つ人材を育成することが、私は大学の教育だと思う。そして、大学を卒業する以上、社会に出たら、リーダーとして活躍できる人間に成長してもらいたい。

したがって、将来、職場のリーダーとして活躍できる人材になることを目標にゼミ活動を展開する。

しかし、それは戦後の日本を支えた「企業戦士」といわれた「会社人間」を目指すのではない。「仕事と生活の調和」＝「ワーク・ライフ・バランス」を求める「自立人間」＝「自己実現人」を目指すのである。日本の会社は大きく変わる。会社は連続イノベーションを求める。だから社員も自己変革が必要。グローバル会社は異文化交流が必要。競争会社が共生会社になると会社機関の設計が変わる。

【学習方法】

この研究のためには、まず経営学や経営管理論の基礎および会社制度の変革や日本的経営の変容を学ぶ必要がある。また、それを実感するためにも、第一線で活躍する実務家を招いての講演や、地域企業との交流をはかる企画などを実施したい。

そして、ドラッカー（Drucker、P.F.）の説く「マネジメント」、バーナード（Barnard、C.I.）の説く「組織」、アーウィック（Urwick、L.F.）の説く「リーダーシップ」を教材として、勉強を始めよう。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	○	○	◎	○	○

ゼミ担当教員科目	関係する科目
経営管理論	経営管理論、経営学概論、経営組織論

テキスト

藤芳明人著『解説　経営管理学』（学文社）
藤芳明人著『解説　企業経営学』（学文社）

参考書

必要に応じて指示する。

成績評価方法

出席および授業態度重視。

年間授業計画

（春学期）

- オリエンテーション
- 企業経営学
- 会社制度の変革
- 日本的経営の変容
- ビジネス・イノベーション
  実務家の講演

（秋学期）

- ドラッカーのマネジメント
- バーナードの組織論理的管理論
- アーウィックのリーダーシップ論
- 個人研究のテーマ作成
- 進路相談

ゼミ名	藤芳第二ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	募集なし	担当教員	藤芳　明人

選考方法	―
研究テーマ	未来のビジネス・リーダー

ゼミナールの目標と概要

【研究内容】

最近、世間は大学に、即戦力の人材育成を求めている。ところで、現代は変化社会である。イノベーション時代である。そこで、今日役立つ即戦力の人材ではなく、明日に役立つ人材を育成することが、私は大学の教育だと思う。そして、大学を卒業する以上、社会に出たら、リーダーとして活躍できる人間に成長してもらいたい。

したがって、将来、職場のリーダーとして活躍できる人材になることを目標にゼミ活動を展開する。

しかし、それは戦後の日本を支えた「企業戦士」といわれた「会社人間」を目指すのではない。「仕事と生活の調和」＝「ワーク・ライフ・バランス」を求める「自立人間」＝「自己実現人」を目指すのである。日本の会社は大きく変わる。会社は連続イノベーションを求める。だから社員も自己変革が必要。グローバル会社は異文化交流が必要。競争会社が共生会社になると会社機関の設計が変わる。

【学習方法】

この研究のためには、まず経営学や経営管理論の基礎および会社制度の変革や日本的経営の変容を学ぶ必要がある。また、それを実感するためにも、第一線で活躍する実務家を招いての講演や、地域企業との交流をはかる企画などを実施したい。

そして、ドラッカー（Drucker、P.F.）の説く「マネジメント」、バーナード（Barnard、C.I.）の説く「組織」、アーウィック（Urwick、L.F.）の説く「リーダーシップ」を教材として、勉強を始めよう。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	○	○	◎	○	○

ゼミ担当教員科目	関係する科目
経営管理論	経営管理論、経営学概論、経営組織論

テキスト

藤芳明人著『解説　経営管理学』（学文社）
藤芳明人著『解説　企業経営学』（学文社）

参考書

必要に応じて指示する。

成績評価方法

出席および授業態度重視。

年間授業計画

（春学期）

- オリエンテーション
- 進路相談
- 卒業論文の書き方
- 卒業論文の構成指導

（秋学期）

- 卒業論文指導
- まとめ

ゼミ名	舟木第一ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新2年生　10名 新3年生　0名	担当教員	舟木　てるみ

選考方法	面接
研究テーマ	英語の歴史

ゼミナールの目標と概要

本ゼミでは、1500年余におよぶ英語の歴史を、古英語（450-1100)、中英語（1100-1500)、近代英語（1500以降）と年代別にわけ、それにアメリカ英語を加えて、それぞれの年代の英語の特徴を学ぶ。さらにイギリスとアメリカの歴史や文化をチームに分かれて調べて発表し、講評し合う。

これらをふまえた上で、各自興味のあるテーマを考えて、文献検索、発表し、レポートにまとめる

(1) 英語の歴史
古英語（Old English: 450-1100)、中英語（Middle English: 1100-1500)、近代英語（Modern English:1500以降)、アメリカ英語
(2) イギリスの歴史・文化
ルネサンスと宗教改革、産業革命
(3) アメリカの歴史・文化
独立革命、第二次世界大戦と冷戦後
(4) 興味のあるテーマで発表し、レポートにまとめる

[授業の方法]
前半は決められたテーマをもとにゼミ生がレジュメを準備して、発表し、互いに講評し合う。また後半はゼミ生が興味あるテーマを考えて、文献検索、話し合いながらまとめて発表する。ゼミ生同士の主体的学びを中心とするアクティブラーニング形式で授業を進めていく。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	○	◎	○	○

ゼミ担当教員科目	英語Ⅰ・Ⅱ、基礎英語	関係する科目	英語、言語学、外国史

テキスト

その都度指定します。

参考書

その都度指定します。

成績評価方法

出席状況、ゼミへの貢献度を総合的に評価します。

年間授業計画

（春学期）

春学期はイギリス、アメリカの歴史や英語の歴史についてゼミ員に発表してもらい、半期のまとめとしてレポートを作成してもらう予定です。また秋のゼミ発表会のテーマを決めます。

（秋学期）

秋学期は春学期に決めたテーマにしたがってデータや資料収集をし、発表の準備をしてもらいます。また、発表後は、発表のまとめとしてレポートを作成してもらう予定です。

ゼミ名	舟木第二ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	募集なし	担当教員	舟木　てるみ

選考方法	—
研究テーマ	英語の歴史

ゼミナールの目標と概要

本ゼミでは、1500 年余におよぶ英語の歴史を、古英語（450-1100)、中英語（1100-1500)、近代英語（1500 以降）と年代別にわけ、それにアメリカ英語を加えて、それぞれの年代の英語の特徴を学ぶ。さらにイギリスとアメリカの歴史や文化を学ぶ。これらをふまえた上で、英語がジャンルによってどのような使われ方をしているのかということを調べていく。そのためにはコンピュータによる検索が可能である大量の言語データを収集し、分析ツールを用い、関連文献を読みながら、単語やフレーズの使用頻度や、単語が一緒に使われる語の傾向を分析してみることを予定している。

(1) 英語の歴史
古英語 (Old English: 450-1100)、中英語 (Middle English: 1100-1500)、近代英語 (Modern English:1500 以降)、アメリカ英語
(2) イギリスの歴史・文化
ルネサンスと宗教改革、産業革命
(3) アメリカの歴史・文化
独立革命、第二次世界大戦と冷戦後
(4) 語彙の分析
テキストデータの収集、関連文献の調査、使用頻度や一緒に使われる語の傾向を分析

[授業の方法]
前半はゼミ生の興味のあるテーマを選んで、文献調査し、まとめて逐次発表し、ゼミ生同士で講評し合う。後半は卒業論文の完成に向けて、さらなる文献調査をし、自分の意見をまとめ、執筆を行う。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要／○重要)

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	○	◎	○	○

ゼミ担当教員科目	関係する科目
英語Ⅰ・Ⅱ、基礎英語	英語、言語学、外国史

テキスト

その都度指定します。

参考書

その都度指定します。

成績評価方法

出席状況、ゼミへの貢献度を総合的に評価します。

年間授業計画

(春学期)	(秋学期)
春学期はイギリス、アメリカの歴史や英語の歴史についてゼミ員に発表してもらい、半期のまとめとしてレポートを作成してもらう予定です。また秋のゼミ発表会のテーマを決めます。	秋学期は春学期に決めたテーマにしたがってデータや資料収集をし、発表の準備をしてもらいます。また、発表後は、発表のまとめとしてレポートを作成してもらう予定です。

ゼミ名	降旗第一ゼミナール（Seminar）	学部	経営学部	募集学年	新 2 年生　10 名程度	担当教員	降旗　徹馬

選考方法	面接
研究テーマ	経営工学入門　－　経営工学に関わる研究を遂行するためのリテラシーの涵養

ゼミナールの目標・概要・方法

【ゼミナールの目標と概要】

降旗ゼミナールは，経営工学について研究するゼミナールである．経営工学は，組織の合理的経営に貢献する技法や問題解決法として，しばしば紹介されるが，その対象範囲は広く，学習する上で，多くの知識や技術を必要とする．最終的には 4 年次の卒業研究において，自己の設定したテーマに基づき卒業論文を執筆することになるが，その前提となる基礎知識・能力を培うため，本ゼミナールは学年別に開講することにした．つまり，第一ゼミナールは 2 年生を，第二ゼミナールは 3・4 年生をそれぞれ対象にしている．

第一ゼミナールでは，経営工学の調査・研究を遂行するための基礎的なスキルを身につけるための講義・演習を行う．例題やケースは教員が設定し，解説を加え，メンバーはその解答を得るための演習を行う．これは数量的実証的アプローチのためのスキルだけでなく，情報リテラシーの涵養も合わせて行うことも含意している．そのため，システム思考や情報技術関連の知識・技能獲得，ならびに，表計算ソフトを応用して，多様な情報を適正に判断し，グラフ化やデータ集計，数量的分析手法など，問題解決に必要な情報の分析・整理を行うための講義・演習といい換えることもできる．

また，担当教員が所属する学会および関係機関が主催する交流会，研修会，インターンシップ，コンテストなどへの参加を推奨しており，対外的な広い意味でのコミュニケーション能力の養成も視野に入れている．

【授業の方法】

教員が設定した例題やケースについて，自らが解答を導き出せるよう講義・演習を行う．

【ゼミ生の主な対外的活動】

- 日本経営工学会 2010 年度実践教育実習（インターンシップ）にゼミIIIの 3 名が参加（実習内容は「工場管理，Vol.56，No.12，pp.68-70」に掲載）
- 日本経営工学会ユースプロジェクト文系専門ゼミ交流会 2010 にてゼミIII学生が研究発表（イベント内容は日本経営工学会機関誌「経営システム，Vol.20，No.5，pp.291-292」に掲載）
- 日本経営工学会ユースプロジェクト文系専門ゼミ交流会 2011 にてゼミII学生が研究発表（「優良賞」を受賞・イベント内容は日本経営工学会機関誌「経営システム，Vol.21,No.5，pp.260-261」に掲載）
- 日本経営工学会ユースプロジェクト文系専門ゼミ交流会 2012 にてゼミIII学生が研究発表（「優秀賞」を受賞・イベント内容は日本経営工学会機関誌「経営システム，Vol.23，No.1，pp.65-66」に受賞写真付きで掲載）
- NTT ドコモ・モバイル社会研究所レポートコンテスト 2013 にゼミIIIの学生 1 名が投稿（「ファイナリスト賞」を受賞）
- NTT ドコモ・モバイル社会研究所レポートコンテスト 2014 にゼミIIIの学生 1 名が投稿
- 野村総合研究所・学生小論文コンテスト 2015 にゼミIIIの学生 1 名が投稿
- NTT ドコモ・近未来社会学生コンテスト 2015 にゼミIIIの学生 1 名が投稿

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	◎	○	○

ゼミ担当教員科目	経営工学，応用表計算	関係する科目	経営工学，応用表計算，その他経営・情報関連科目
テキスト	必要に応じてゼミナール中に紹介する．		
参考書	必要に応じてゼミナール中に紹介する．		
成績評価方法	出席や積極的な参加態度を重視すると同時に，ゼミナールでの研究成果などを総合的に評価する．		

年間授業計画

（春学期）

以下の講義・演習を行う．

- 現代の情報技術
- システム的なものの見方
- モデル化と問題解決

（秋学期）

- 経営工学の研究を遂行するための例題・ケースを設定し，主に表計算ソフトを用いた演習を行う．
- その他ゼミナールのイベント（コンパや合宿など）に関しては，メンバーと協議の上，決定する．

ゼミ名	降旗第二ゼミナール（Seminar）	学部	経営学部	募集学年	新 3 年生　若干名	担当教員	降旗　徹馬

選考方法	面接
研究テーマ	経営工学研究　－　経営工学に関わる研究と個別研究プロジェクトの遂行

ゼミナールの目標・概要・方法

【ゼミナールの目標】
われわれ人間は地上にいると，当然，目で見ることのできる狭い範囲のことしかわからない．ところが，鳥は上空を飛行し，広い範囲を見渡し，その高い視力からどこに獲物がいるかを瞬時に把握することができる．本ゼミナールの目的は，まさにこの「鳥の目」を持つことである．つまり，対象を頭の中に「鳥瞰図」として描き出し，問題がどこにあるのかを見出す能力を養成することを理想としている．科目「経営工学」では，経営における鳥瞰図を描き出すことを意図して，データ分析，需要予測，経済性分析，意思決定と計画・管理手法などの比較的広い範囲の内容を取り上げている．

【ゼミナールの概要】
降旗第二ゼミナールは，第一ゼミナールにて培った基礎能力を前提として，3 年生は経営工学を受講しながら，（鳥瞰図の精度を高めるため）その専門性を深化させるため，講義で取り上げることのできなかった内容の研究を進める．基本的には，教員が講義を行い，必要に応じて例題やケースを設定し，演習を行っていく．
4 年生は，3 年次のゼミナール活動の中で興味を持った自己の個別研究テーマを設定し，そのテーマに関する専門性を深化させるべく，研究を進める．テーマは教員が指導可能なテーマに限定されることになるが，その範疇ならば自由に設定することができる．卒業後，自己の研究テーマに沿った職業につけるとは限らないが，一つのテーマに真剣に打ち込み，問題解決に向けたアプローチを体得することができれば，別の問題に直面したときにも同様のアプローチにて問題に取り組むことができるものと期待している．
また，担当教員が所属する学会および関係機関が主催する交流会，研修会，インターンシップ，コンテストなどへの参加を推奨しており，対外的な広い意味でのコミュニケーション能力の養成も視野に入れている．

【授業の方法】
各自が設定したテーマに基づき，自らが解答を導き出せるよう講義・演習を行う．

【ゼミ生の卒業後の主な進路】
AOKI ホールディングス（アニヴェルセル），宮内庁生活協同組合，警視庁，ケーユーホールディングス，JR 東日本ステーションサービス，セブン-イレブン・ジャパン，タイトー，高千穂大学大学院，DELL，東京商工リサーチ，東和フードサービス，パルホールディングス（パル），フォーカスシステムズ，みずほフィナンシャルグループ（みずほ証券），ワコールなど

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	◎	○	○

ゼミ担当教員科目	関係する科目
経営工学，応用表計算	経営工学，応用表計算，その他経営・情報関連科目

テキスト	必要に応じてゼミナール中に紹介する．
参考書	必要に応じてゼミナール中に紹介する．
成績評価方法	出席や積極的な参加態度を重視すると同時に，ゼミナールでの研究成果などを総合的に評価する．

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
3 年生は経営工学を受講しながら，その内容を深化させるべく，研究を進める．基本的には，講義と連動する形で進めるが，講義では取り上げることのできなかった内容も盛り込んでいく．秋学期も同様である． 4 年生は，教員と相談の上，自己の個別研究テーマの選定を行い，研究を進める．	3 年生は春学期と同様に調査・研究を進める． 4 年生は，春学期の成果に基づき，卒業論文を執筆し，4 年間の学生生活の集大成を行う． 3・4 年生共通にゼミ発表会での報告はメンバーで協議の上，決定する．また，ゼミナールのイベント（コンパや合宿など）についても，同様にメンバーで協議の上，決定する．

ゼミ名	松崎第一ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新２年生　15名 新３年生　 5名	担当教員	松崎　和久

選考方法	面接（ゼミ生による面接があります） 〈求める学生〉　・真剣な学生 ・まじめな学生 ・がんばる学生
研究テーマ	優れた企業の戦略や経営のやり方を学ぼう

ゼミナールの目標・概要・方法

トヨタ、キャノン、セブンイレブン、花王など、これらの企業の名前を聞いたことがあります？　どれも日本を代表する優秀企業ですが、ここで素朴な質問。個々で取り上げた企業に共通する優れた点とはなんだろう？　革新的な技術力を保有している、カリスマ経営者が存在する。現場重視のマネジメントが功を奏している等、いろいろ考えられます。それでは、さらに質問。じゃ、これらの優れた企業と一般にダメな企業を比較するとどんな違いがあるのだろう？…。授業は、こんな感じで教員と学生との間でフリートークをします。みんなに自由に持論を言い合いますので、雰囲気はまさにおしゃべりなのです。

本ゼミが取り組んでいるテーマは、ずばり、大企業から中小企業までを含む優秀企業の研究です。優れた企業が有する技術や知識、戦略と組織、マーケティングテクニックを深く研究します。

研究の方法は、第一に専門図書や雑誌をふんだんに利用します。特に「日経ビジネス」は積極的に活用しています。文献研究の結果、優秀企業が決まったら、第二に企業調査、アンケート調査を実施します。もちろん、企業にお願いしても“ノー”といわれることもありますが、可能な限り“行って見て話す”を実施します(過去の学生調査の実績では、三洋電機、日本電産、トヨタ、大田区の中小企業などがあります)。第三に文献研究と企業調査を踏まえ、ゼミとしての見解をまとめます。優秀企業の強さの秘密とは何なのか。そして、我々が学ぶべきベスト･プラクティクス（最善の方策）とはどんなものなのだろう。ともかく、議論、議論、議論です。最後に、徹底した議論ののち、ゼミとしての最終的な答えを文章化します。つまり、暗黙知から形式知への転換を図ります。

本ゼミの概要は以上です。参考にしてください。なお、本ゼミで求めている学生像は次の３つ。「真剣な学生」「まじめな学生」「がんばる学生」です。

本ゼミナールでは、企業研究と併せて、毎年、インナー大会プレゼン部門へ出場しています。近年の成績は下記の通りです。

第 51 回 日本学生経済ゼミナール関東部会（中央大学）一次予選出場（ベスト 142）☆こみゅ班☆きっかけ図鑑 交流促進ツール
第 52 回 日本学生経済ゼミナール関東部会（日本大学）二次予選出場（ベスト 20）愛ペット班　高齢者を高齢者が支えるコミュニティ
第 53 回 日本学生経済ゼミナール関東部会（法政大学）本選出場（ベスト 11）チームおんなのこ 3Dnavi（178 参加ゼミ中、８位）
第 54 回 日本学生経済ゼミナール関東部会（明治大学）二次予選出場（ベスト 20）ロコモ班　若年層の生活改善アプリ

なお、毎年２回合宿を行っています。最近は、能登、佐世保、浜松、奈良など旅行と研究を兼ねて実施しています。また、ＯＢ，ＯＧを交えながら定期的にコンパを開催し、親睦を図っています。

【授業の方法】
ゼミの進め方は、教員と学生間における質疑応答、つまり、相互のディスカッションで行います。
このため、自分の意見をはっきり伝える必要があります。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①　コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	○	◎	○	○

ゼミ担当教員科目	関係する科目
国際経営論、経営戦略論、経営学概論	マーケティング、会計学

テキスト

講義時に連絡します。

参考書

講義時に連絡します。

成績評価方法

ゼミへの取り組み、意欲によって評価します。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
講義時に連絡します	講義時に連絡します

ゼミ名	松崎第二ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	募集なし	担当教員	松崎　和久

選考方法	―
研究テーマ	企業とは何か、戦略とは何か

ゼミナールの目標・概要・方法

【研究の内容】

今日の日本企業では連結がキーワードとなっています。従来の日本企業は人、モノ、カネ、情報・ノウハウに至るまで親会社中心でした。つまり、子会社は親会社の受け皿、緩衝器であったのです。ところが近年会計や経営の国際標準化が進み、親会社と子会社の両方がハッピーであることこそ大切であるという考え方に変化すると共に、単独から連結そしてグループという概念が次第に重要となってきました。まさにグループの運営、調整そして相乗効果が大切な時代となったといえるでしょう。

一方、我々個人は、国や企業そして組織の一員であり、それらに守られながら安定した生活を可能にしてきました。ところが、国の借金が膨らみ、企業はリストラや倒産し、組織では 365 日同じ人間と顔を合わせ人間関係に苦しむ等、これまで通り、国や企業、組織に守られて安定した生活を実現することは、将来どう考えても難しいと思われます。今こそ、他人に頼らず、自分の力で世の中に必要とされる人間になるべき時代が到来したのであり、我々は自分を自分で管理し得る能力を身につけなければなりません。さらに今日の企業の競争優位は個力、すなわち、セルフ・マネジメントができる人間の有無によって決定されるのであり、言いたいことがのどまで来ているのに飲みこんでしまうような時代はもはや過ぎ去ろうとしているのです。

以上を踏まえゼミナールでは、グループのマネジメント、個人のセルフ・マネジメントについて研究を行います。

【授業の方法】

ゼミの進め方は、教員と学生間における質疑応答、つまり、相互のディスカッションで行います。
このため、自分の意見をはっきり伝える必要があります。
また、テキストの輪読、文献研究を通じて企業調査をおこないます。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要／○重要)

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①　コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	○	◎	○	○

ゼミ教員担当科目	国際経営論、経営戦略論、経営学概論	関係する科目	

テキスト	講義時に連絡します。
参考書	講義時に連絡します。
成績評価方法	ゼミへの取り組み、意欲によって評価します。

年間授業計画

(春学期)	(秋学期)
講義時に連絡します	講義時に連絡します

ゼミ名	村上第一ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新２年生　約５名 新３年生　０名	担当教員	村上　誠

選考方法	面接
研究テーマ	企業を取り巻く法制度に関する研究

ゼミナールの目標・概要・方法

【ゼミナールの目標】
このゼミの目標は、会社法・金融商品取引法を中心に企業を取り巻く法制度に関する知識を身に付けることです。
会社法・金融商品取引法は大学生にとってはイメージがつかみにくく、難しいと感じる場合も少なくないと思いますが、
この２つの法律を中心に企業を取り巻く法制度について学び、就職後にその知識を活かしていきたいと考える人を歓迎します。

【ゼミナールの概要】
このゼミでは、会社法・金融商品取引法を中心とした企業を取り巻く法制度に関する研究を行います。
金融商品取引法は「上場会社に対する規制」「投資に関する規制」「金融商品取引業者に対する規制」などを主な柱とする法律です。大学生にとっては縁遠い法律のように思われるかもしれませんが、上場会社、証券会社、銀行などに就職した場合や株式投資をしてみようと考えた場合などに金融商品取引法の知識が役に立ちます。
また、会社法については、株式会社制度の基本を確認しつつ、上場会社の企業統治（コーポレート・ガバナンス）について、研究していきたいと考えています。
なお、ゼミの運営は受講者と相談の上で決定します。

【授業の方法】
テーマごとに報告者を決め、レジュメをもとに担当のテーマについて報告してもらった上で、ゼミ全体で議論していきます。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	○	○	○	◎

ゼミ担当教員科目	企業法、法律学	関係する科目	企業法（企業形態法）、企業法（株式会社法） 金融総論、証券論

テキスト

適宜指示する。

参考書

適宜指示する。

成績評価方法

出席及び平常点で成績評価します。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
会社法・金融商品取引法の基礎知識の習得	受講者と相談の上で決定

ゼミ名	村上第二ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新４年生　０名	担当教員	村上　誠

選考方法	募集なし
研究テーマ	企業を取り巻く法制度に関する卒業研究

ゼミナールの目標・概要・方法

【ゼミナールの目標】
２、３年次のゼミで習得した、会社法・金融商品取引法を中心とする企業を取り巻く法制度に関する知識をもとに、
卒業論文を完成させることを目標とします。

【ゼミナールの概要】
卒業論文のテーマ選定から始まり、ゼミ内での中間発表を経て、卒業論文を完成させます。
中間発表を行うことで、より深く検討すべきことや完成までのスケジュールを再確認し、
内容、分量とも充実した卒業論文となることを目指します。

【授業の方法】
就職活動と並行しながら卒業論文の準備を進めていくことになるため、個々人の状況に合わせて個別に対応します。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要／○重要)

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	○	○	○	◎

ゼミ担当教員科目	関係する科目
企業法、法律学	企業法（企業形態法)、企業法（株式会社法）

テキスト

適宜指示する。

参考書

適宜指示する。

成績評価方法

出席及び平常点で成績評価します。

年間授業計画

(春学期)	(秋学期)
卒業論文のテーマ選定・文献調査	卒業論文の中間報告・執筆

ゼミ名	森平第一ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新２年生　５名 新３年生　５名	担当教員	森平　明彦

選考方法	面接
研究テーマ	独占禁止法

ゼミナールの目標と概要

独占禁止法は、公正かつ自由な競争を促進し、経済運営の秩序を維持するための基本的ルールを定めた法律であり、私的独占、不当な取引制限（カルテル）、不公正な取引方法を禁止しています。 この規制対象を「独禁法の三本の柱」ということがありますが、最近ではこれに企業結合の規制を加え「四本の柱」とよぶこともあります。
このような独占禁止法は、制定以来７０年を迎えようとしています。
今から百数十年以上も前、福沢諭吉が、鎖国の終わろうとする日本の来るべき時代の新しい経済のモデルとした「コンペチション」の訳語「競争」は、２１世紀の日本のビジネス経済の運営の基本です。
最近では素材産業や世界的な合併傾向、IT や AI ビジネスのイノベーションの進展が、新たな競争制限の問題を生み出しています。
また日本的産業構造の問題に対処するための下請け取引の規制法は、独禁法の優越的地位の濫用の規制と同列に論じられます。
本学の講義にも置かれた経済法はこのような現代的問題を抱えた独占禁止法を中心とした法律を学ぶもので、ゼミナールはこの授業をさらに降り下げて研究する者のためにあります。
関心のある問題を探し出し、問題点の探索、関連学問領域へも眼を向けながら論文を読み、判例と法律の解釈を学びます。
サブゼミで下調べ、本ゼミで発表とお互いに批判しあう討論を合わせてワンセットにしています。

[授業の方法]
毎回のゼミの発表内容は、報告者等に前回までに調査と研究図書・文献の詳細について指示するので予め調べてくること。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎		◎				◎

ゼミ担当教員科目	経済法 A 経済法 B	関係する科目	法律学

テキスト

白石忠志「独禁法講義」

参考書

多数あり、ゼミにて指示

成績評価方法

本ゼミとサブゼミの出席。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）ゼミ員と協議してスケジュール表を作ろう。
ゼミ員と協議してスケジュール表を作ろう。	

ゼミ名	森平第二ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	４年生対象のため募集無し。	担当教員	森平　明彦

選考方法	４年生対象のため募集無し。
研究テーマ	独占禁止法の研究にかかわる卒論指導

ゼミナールの目標と概要

独占禁止法関連の卒業論文の指導をします。

[授業の方法]
　テーマに関連する文献や実地調査の方法(公取委や裁判所の審判・裁判等の見学)について具体的に指示するので、自ら調べてまとめること。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要／○重要)

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎		◎				◎

ゼミ担当教員科目	関係する科目
経済法 AB	経済学、法律学，民法

テキスト

経済法と同じ、白石忠志「独禁法講義

参考書

ゼミのときに指示します。

成績評価方法

卒業論文の作成結果を中心に、論文作成過程での努力と担当教員との打ち合わせのレベルの評価。

年間授業計画

(春学期)	(秋学期)
ゼミ員と協議してスケジュールを決める。	ゼミ員と協議。

ゼミ名	渡辺第一ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新２年生　15 名 新３年生　若干名	担当教員	渡辺　博之

選考方法	面接
研究テーマ	民法に関する研究　I

ゼミナールの目標・概要・方法

私たちのゼミでは、民法に関する基礎的研究を行っております。

ご存知のとおり、民法は、人の社会的生活全般を規律する、根本的な規範であります。わが民法典は「総則」「物権」「債権」「親族」「相続」の五編からなっており、人の誕生以前から、死亡後の関係まで、われわれの私的生活は、つねに民法の擁護の下にあるといえます。つまり、人とは何か、人と家族の関係はいかに、死亡後の財産関係（相続）はいかに、などというもっともわれわれに身近な問題から、人の社会生活上の財産問題（所有権・抵当権などの物権、および売買・賃貸借契約などの債権）まで、すべての社会生活の基礎となる規律群を備えているわけです。

本ゼミの目的としては、法律、とくに民法に興味をもっている諸君、さらに、各種の専門試験や公務員試験を目差す諸君のニーズに応えるということがいえます。とくに、民法はそれらの試験のなかで、大きなウェートをしめているゆえ、それらを目指している学生諸君にとっては、有意義なものとなると思われます。したがって、選考の基準としても、とにかく「やる気」のある学生であることが前提条件であります。

学習方法としては、民法は大きな法律であると同時に、重要な法律でもあるので、本ゼミでは、以下の目安にしたがい、判例や学説の展開を踏まえて詳細な検討を行う予定であります。

【授業の方法】
民法の条文・解釈論などの基礎を学んだうえ、それらについての具体的な事例解析や問題分析を学生諸君に行ってもらう。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
	◎	◎	◎	○	○	○

ゼミ担当教員科目	法律学(生活と法)/(社会と法) 民法(法律行為)/(契約)/(債権)/(物権変動と担保)	関係する科目	民法(法律行為)/(契約)/(債権)/(物権変動と担保) 法律学(生活と法)/(社会と法) 企業法(企業形態法)/(知的財産法)/(株式会社法)/(有価証券法) 憲法(人権)/(統治)、労働法、税法、経済法、外書講読

テキスト

甲斐・乾・椿編「新民法概説」有斐閣
六法　有斐閣、岩波書店、三省堂などいずれかによる「小六法」「ポケット六法」等で結構です。

参考書

ゼミの時間に紹介します。

成績評価方法

成績の評価方法は、出席等、平常点です。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
① 民法の基本原理	①　物権法定主義
② 権利能力	② 物権の変動とは
③ 行為能力・未成年者	③ 物権の変動・各論
④ 行為能力・制限能力者	④ 占有権
⑤ 法律行為・意思表示	⑤ 即時取得
⑥ 虚偽表示・錯誤	⑥ 所有権とは
⑦ 詐欺・強迫	⑦ 所有権・各論
⑧ 無効・取消	⑧ 用益物権
⑨ 代理の意義	⑨ 担保物権の意義
⑩ 無権代理	⑩ 留置権
⑪ 表見代理	⑪ 先取特権
⑫ 条件・期限	⑫ 質権
⑬ 期間	⑬ 抵当権
⑭ 時効	⑭ 非典型担保

ゼミ名	渡辺第二ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	募集なし	担当教員	渡辺　博之

選考方法	―
研究テーマ	民法に関する研究　Ⅱ

ゼミナールの目標・概要・方法

私たちのゼミでは、民法に関する基礎的研究を行っております。

ご存知のとおり、民法は、人の社会的生活全般を規律する、根本的な規範であります。わが民法典は「総則」「物権」「債権」「親族」「相続」の五編からなっており、人の誕生以前から、死亡後の関係まで、われわれの私的生活は、つねに民法の擁護の下にあるといえます。つまり、人とは何か、人と家族の関係はいかに、死亡後の財産関係（相続）はいかに、などというもっともわれわれに身近な問題から、人の社会生活上の財産問題（所有権・抵当権などの物権、および売買・賃貸借契約などの債権）まで、すべての社会生活の基礎となる規律群を備えているわけです。

本ゼミの目的としては、法律、とくに民法に興味をもっている諸君、さらに、各種の専門試験や公務員試験を目差す諸君のニーズに応えるということがいえます。とくに、民法はそれらの試験のなかで、大きなウェートをしめているゆえ、それらを目指している学生諸君にとっては、有意義なものとなると思われます。したがって、選考の基準としても、とにかく「やる気」のある学生であることが前提条件であります。

学習方法としては、民法は大きな法律であると同時に、重要な法律でもあるので、本ゼミでは、以下の目安にしたがい、判例や学説の展開を踏まえて詳細な検討を行う予定であります。

【授業の方法】
民法の条文・解釈論などの基礎を学んだうえ、それらについての具体的な事例解析や問題分析を学生諸君に行ってもらう。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
	◎	◎	◎	◎	○	○

ゼミ教員担当科目	関係する科目
法律学(生活と法)/(社会と法) 民法(法律行為)/(契約)/(債権)/(物件変動と担保)	民法(法律行為)/(契約)/(債権)/(物件変動と担保) 法律学(生活と法)/(社会と法) 企業法(企業形態法)/(知的財産法)/(株式会社法)/(有価証券法) 憲法(人権)/(統治)、労働法、税法、経済法、外書講読

テキスト

甲斐・乾・椿編「新民法概説」有斐閣
六法　有斐閣、岩波書店、三省堂などいずれかによる「小六法」「ポケット六法」等で結構です。

参考書

ゼミの時間に紹介します。

成績評価方法

成績の評価方法は、出席等、平常点です。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
① 債権とは	②　親族
② 債権の効力・要件	②　婚姻とは
③ 債権の効力・効果	③　婚姻の効果
④ 債権者代位権・取消権	④ 実親子
⑤ 連帯債務	⑤ 養親子
⑥ 保証債務	⑥ 親権・後見
⑦ 債権の消滅	⑦ 扶養
⑧ 契約の意義	⑧ 相続の意義
⑨ 贈与	⑨ 相続人
⑩ 売買	⑩ 相続分
⑪ 賃貸借	⑪ 相続の効力
⑫ その他の契約	⑫ 相続の承認・放棄
⑬ 不法行為とは	⑬ 遺言
⑭ 不法行為・各論	⑭ 遺留分

ゼミ名	大島ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部 《起業・事業承継コース》	募集学年	新２年生　若干名 新３年生　　０名	担当教員	大島　久幸

選考方法	面接
研究テーマ	企業および企業家に関する事例研究

ゼミナールの目標と概要

【ゼミナールの概要】本ゼミナールでは、毎年、他大学や外部の企業と合同してゼミ活動を進めています。ここ数年、企業博物館の一つである帝国データバンク史料館と合同で勉強会を続けてきました。企業が設立に関与した企業博物館(産業文化博物館)は、全国に約 560 館が存在しているとされています。これら企業博物館の多くは、創業以来の自社ないしは業界の歴史展示を行うとともに歴史資料の保存を行っており、企業の歴史を研究対象とする経営史教育の学びの場として、これまでにも多く活用されてきました。ただし、従来多くの場合、史料館展示の見学といった単発的な交流にとどまっていました。そこで本ゼミでは、企業の方々を大学のゼミにお招きしたり、学生たちと企業に訪問したりしながら継続的な勉強会を実施することで、参加学生が企業史に関するイメージを豊かにする機会を設けました。さらにその成果について、経営史学会という世界から学者の人々が集まる場において、ゼミ生自身が発表を行いました。さらに現在は帝国データバンクとの勉強会を立教大学の岡部ゼミと合同で行っており、企業と他大学の教員・学生という新たなメンバーで勉強会を続けています。

本年度も参加学生と相談しながら他大学や外部の企業との合同の勉強会等の機会を設けたいと思います。

【学習の方法】本ゼミナールでは、一次、二次資料の収集やヒヤリング、他大学の学生との交流などを通じて、自ら設定したテーマに対してオリジナルな見解を纏めます。こうしたでは多くの労力を必要としますが、その分得るものが大きいといえます。

【その他】ゼミとは、学問･研究と課外活動を通じて人間関係を結ぶ場であると考えています。本ゼミではゼミ生間はもちろん他大学の教員･学生との交流、企業訪問、国会図書館調査等多くの行事が行われます。これら活動を通じて、自らの成長を実感できるような積極的な参加を期待します。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要／○重要)

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎		◎		

ゼミ教員担当科目	関係する科目
経営史、企業家論	経営史、企業家論、経営学関連科目

テキスト

課題に応じて、広く収集します。必要な資料をいかに集めるかも重要な学習となります。

参考書

成績評価方法

共同ゼミへの参加度によって総合的に評価します。欠席は認めません。

年間授業計画

(春学期)	(秋学期)
①～②仮テーマの設定 ③ 本年度テーマの設定 ④～⑫資料の収集と仮説の設定 ⑬～⑮ 最終的な構成を決定	①～④論文の執筆 ⑤～⑥他大学論文の検証と質問書の作成 ⑦～⑧参加大学からの質問書の回答の準備 ⑨ 討論会 ⑩～⑮　論文の修正と最終論文の執筆

ゼミ名	加藤ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部 ≪起業・事業承継コース≫	募集学年	募集なし	担当教員	加藤 秀樹

選考方法	―
研究テーマ	企業経営の実際

ゼミナールの目標と概要

【ゼミナールの目標】

・企業経営において現場で実際に行われているテーマを選定し、情報収集や実企業訪問などを行い、卒業論文の作成を行う。

【ゼミナールの概要】

・各自のライフプランなどを勘案し、以下のマトリクス（業種／職種）を参考にしてテーマを選定する。

業種／職種	製造業	流通業	金融・保険業	不動産業	ｻｰﾋﾞｽ業	・・・
経営企画、管理						
財務、会計						
人事、総務						
営業、広報						
物流、配送						
店舗運営・管理						
情報システム						

【授業の方法】

・文献等による情報収集・研究だけでなく、実際の企業に対するインタビューやアンケート調査などを実施する。

・各自の研究内容を定期的に発表し、ゼミ内で討議、研鑽する。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

ゼミ担当教員科目	関係する科目
事業計画論、企業経営実習	企業経営実習 事業計画論 企業研究

テキスト	テーマに必要な資料を準備。
参考書	
成績評価方法	ゼミへの取り組み姿勢（主体性、積極性、協調性など）、定期発表や討議内容、卒業論文を総合的に評価します。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
・オリエンテーション ・卒業論文テーマの選定 ・論文作成計画、スケジュールの作成 ・情報収集、分析 ・卒業論文の骨子作成 ・就職先企業の検討、業界・企業研究	・卒業論文の執筆 ・定期発表、討議 ・就職活動支援 ・卒業論文提出 ・就業準備

ゼミ名	藤木ゼミナール （Seminar）	学部	経営学部 ≪起業・事業承継コース≫	募集学年	新 2 年生 10 名程度 新 3 年生 0 名	担当教員	藤木寛人

選考方法	面接
研究テーマ	中小企業の新事業展開に関する研究

ゼミナールの目標・概要・方法

【目標・概要】

中小企業の現状を見ると、後継者問題、企業数の減少、人手不足、売上高の伸び悩み等が大きな問題になっています。どのような製品・サービスであっても、コモディティ化、技術の変化、競合の登場など、いつかは市場規模が拡大しなくなり、売上高の伸び悩みを経験するものです。中小企業が成長するためには、既存事業に拘らず、市場環境の変化をビジネスチャンスと捉え、積極的に新市場の開拓や新規事業に取り組んでいかなければなりません。本ゼミナールでは、そうした市場環境の変化に対応し、新規事業に取り組むことで成長している中小企業について研究してもらいます。

【方法】

本ゼミナールはグループワーク形式で行ないます。具体的には以下 3 つの方法で行ないます。

① グループごとに大きな研究テーマ（問題意識）を設定します。例えば、人口減少や少子高齢化等による国内需要の変化、グローバリゼーションによる国際競争の激化、新技術（IOT、AI、ビッグデータ、ロボット等）による産業構造の変化等です。設定した研究テーマについて、レジュメやパワーポイント等を作成し発表してもらいます。

② ①で設定した研究テーマは、今日の中小企業が直面している市場環境の変化です。なかには、そうした市場環境の変化をビジネスチャンスと捉え、新規事業に取り組んでいる中小企業が数多く存在します。本ゼミナールでは、新規事業に取り組む中小企業や東京ビッグサイト等で開催される展示会等に足を運びますので、テーマに合致した中小企業を見つけ、研究してください。また、①と同様に、レジュメやパワーポイント等を作成し、発表してもらいます。

③ ①および②に並行して、ビジネスモデル分析の方法について輪読形式で学習し、ビジネスの目利きを身につけてもらいます。課題本は、マーク・ジョンソンの『ホワイトスペース戦略　ビジネスモデルの＜空白＞をねらえ』、水野学の『「売る」から「売れる」へ。：水野学のブランディングデザイン講義』です。担当箇所をレジュメで報告してもらいます。

⑧到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	◎	◎	○

ゼミ担当教員科目	関係する科目
中小企業経営論、地域開発論、事業創造論、企業研究	中小企業経営論、地域開発論、事業創造論、企業研究

テキスト

グループで設定したテーマに応じて学生自ら資料を収集します。資料収集のノウハウを学修することも本ゼミナールの目標の 1 つです。

参考書

水野学（2016）『「売る」から、「売れる」へ。：水野学のブランディングデザイン講義』誠文堂新光社。

Johnson, M. W.（2010）*Seizing the White Space*, Watertown, MA：Harvard Business Press.（池内千秋訳『ホワイトスペース戦略　ビジネスモデルの＜空白＞をねらえ』阪急コミュニケーションズ，2011 年）

成績評価方法

ゼミナールへの参加度や提出された課題の内容等により総合的に評価します。

年間授業計画

（春学期）
- 研究テーマの設定
- 研究成果の発表
- フィールドワーク
- 文献輪読

（秋学期）
- 研究成果の発表
- フィールドワーク
- ゼミ発表会に向けた準備
- レポートの作成

ゼミ名	新井第一ゼミナール （Seminar）	学部	人間科学部	募集学年	新 2 年生 10 名 新 3 年生 2 名	担当教員	新井 健之

選考方法	面接
研究テーマ	指導法を中心とした体育・スポーツに関して

ゼミナールの目標・概要・方法

運動（体育や各種スポーツ）の指導法を中心として，トレーニング科学・スポーツ心理学・野外教育・運動生理学・バイオメカニクス・スポーツマネージメントなど，様々な分野の研究のテーマとして受け入れる．例として，
1．コーチング（様々な運動の指導法）　2．トレーニング（メンタルトレーニングから肉体改造まで，様々なトレーニング方法）
3．野外教育（キャンプ・スキー・スノーボードなどの指導法や板の動き・人の動きなど）　4．スポーツ心理学（視覚情報処理と注意の関係など）5．体育科教育指導法（全般的体験を行いその中からテーマを絞り込む☆詳細は第二ゼミナールシラバスを参照），などが考えられるが，関連分野の研究希望も受け入れ可能．

第一ゼミナールでは，様々な演習を通して，研究に至るまでの基礎知識の習得，研究に対する基本的は考え方を学ぶ．特に，文献検索方法，研究テーマの設定方法，研究方法の設定方法，結果の分析方法，考察への導き方等，一連の研究に関するプロセスを具体的に体験しながら卒論へのテーマを見つけることを目標とする．
また，演習方法に関しては，対象学生の状況に合わせて決定する．学生の研究テーマに応じて，課題解決型の授業展開を行うことはもちろんのこと，担当教員が理事等で関係している学外のスポーツ団体・NPO 法人(アンチいじめ蝶間アカデミー)・社会人スポーツクラブ(東京ライフスポーツクラブ)等と連携を図り，地域社会との関わりながら，単に行うだけではなく将来指導資格につながる資格（SAJ スキー級別検定・スノーボード級別検定等）や指導資格（キャンプインストラクター・レクリエーションインストラクター・NSCA-J トレーニング検定/CPT/CSCS 等）の取得を目指す．

授業中またはゼミ合宿中における関連外部講師による特別講義を予定している．

ゼミ合宿は年 2～4 回，テニス・キャンプ・ウィンタースポーツ・ウォータースポーツ等を予定している．

[授業の方法]
先行研究を調査、内容の議論を繰り返す。その後、予備調査を行い、結果の議論を行う。これらを繰り返し、得られた結果を基に議論、考察を行い。ゼミ発表に望む。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	○	◎	○	○

ゼミ担当教員科目	健康生涯スポーツ（テニス）、生涯スポーツ（スキー・スノーボード）、生涯スポーツ（キャンプ）、健康科学 A/B、体育	関係する科目	健康科学 A/B，健康体力づくり，生涯スポーツ，健康生涯スポーツ，体育
テキスト	研究のテーマに沿って個人的に設定する．		
参考書	研究のテーマに沿って個人的に設定する．		
成績評価方法	学習に対する意欲等を総合的に評価する。通常のゼミおよびゼミ合宿等行事への出席を重要視し，積極的な参加を求める。無断欠席 1 コマ－10 点，無断遅刻 1 コマ－5 点，届出欠席－3 点，届出遅刻－1 点とし，－30 点以上は評価の対象としない．		

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
ゼミ生各位の特徴をとらえ，適切な演習方法を選択する． 授業中またはゼミ合宿中における関連外部講師による特別講義を予定している．ゼミ合宿はテニス・キャンプ・ウィンタースポーツ・ウォータースポーツ等を予定している．	春学期に決定した演習方法を見直し，問題が無ければ継続し，問題が生じた場合は若干の変更を行う．ゼミ発表会の発表を目指す． 授業中またはゼミ合宿中における関連外部講師による特別講義を予定している．ゼミ合宿はテニス・キャンプ・ウィンタースポーツ・ウォータースポーツ等を予定している．

ゼミ名	新井第二ゼミナール（Seminar）	学部	人間科学部	募集学年	募集なし	担当教員	新井 健之

選考方法	新井第一ゼミナールにおいてゼミⅢを取得
研究テーマ	指導法を中心とした体育・スポーツに関して

ゼミナールの目標・概要・方法

体育・スポーツ分野の研究を幅広く受け入れる．トレーニング科学・スポーツ心理学・野外教育・運動生理学・バイオメカニクス・スポーツマネージメントなど，様々な分野の研究のテーマが考えられる．例として，
1．コーチング（様々な運動の指導法）　2．トレーニング（メンタルトレーニングから肉体改造まで，様々なトレーニング方法）
3．野外教育（キャンプ・スキー・スノーボードなどの指導法や板の動き・人の動きなど）　4．スポーツ心理学（視覚情報処理と注意の関係など）
5．体育科教育指導法に関しては，全般的体験からテーマを絞り込む．
1)野外スポーツ（キャンプ・スキー・スノーボード・トレッキング・フィッシングなど）
2)レクリエーション（ドッジボール・イニシアティブゲーム・キックベースボール・フライングディスクなど）
3)体育館種目（バド・バスケ・体操・フットサル・ニュースポーツなど）
4)グランド種目（ソフトボール・サッカー・テニス・ゴルフなど）
以上のような例が考えられるが，関連分野の研究希望も受け入れ可能．

第二ゼミナールでは，第一ゼミナールで学んだことを基に，研究に対する基本的は考え方を復習する．文献検索方法，研究テーマの設定方法，研究方法の設定方法，結果の分析方法，考察への導き方等，一連の研究に関するプロセスを具体的に進めながら卒論を書き上げることを目標とする．
また，卒論テーマは，対象学生の状況に合わせて決定する．学生の研究テーマに応じて，課題解決型の授業展開を行うことはもちろんのこと，担当教員が理事等で関係している学外のスポーツ団体・NPO 法人(アンチいじめ蝶間アカデミー)・社会人スポーツクラブ(東京ライフスポーツクラブ)等と連携を図り，地域社会との関わりながら，単に行うだけではなく将来指導資格につながる資格（SAJ スキー級別検定・スノーボード級別検定等）や指導資格（キャンプインストラクター・レクリエーションインストラクター・NSCA-J トレーニング検定/CPT/CSCS 等）の取得を目指す．

授業中またはゼミ合宿中における関連外部講師による特別講義を予定している．
ゼミ合宿は年 2～4 回，テニス・キャンプ・ウィンタースポーツ・ウォータースポーツ等を予定している．

[授業の方法]
ゼミⅡ・Ⅲで学んだ研究のプロセスを踏みながら、個人研究を行う。複数人と議論できるように、
ゼミ生が少ない場合は、他ゼミとの合同も考える。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	○	◎	○	○

ゼミ担当教員科目	健康生涯スポーツ（テニス）、生涯スポーツ（スキー・スノーボード）、生涯スポーツ（キャンプ）、健康科学 A/B、体育	関係する科目	健康科学 A/B，健康体力づくり，生涯スポーツ，健康生涯スポーツ，体育，新井第一ゼミナール

テキスト

研究のテーマに沿って個人的に設定する．

参考書

研究のテーマに沿って個人的に設定する．

成績評価方法

学習に対する意欲等を総合的に評価する。通常のゼミおよびゼミ合宿等行事への出席を重要視し，積極的な参加を求める。無断欠席 1 コマ－10 点，無断遅刻 1 コマ－5 点，届出欠席－3 点，届出遅刻－1 点とし，－30 点以上は評価の対象としない．

年間授業計画

（春学期）
ゼミ生各位の特徴をとらえ，適切な演習方法を選択する．また，就職活動支援も行う．
各位の研究テーマの決定，予備調査・実験を開始する．
授業中またはゼミ合宿中における関連外部講師による特別講義を予定している．ゼミ合宿はテニス・キャンプ・ウィンタースポーツ・ウォータースポーツ等を予定している．

（秋学期）
春学期に決定した演習方法を見直し，問題が無ければ継続し，問題が生じた場合は若干の変更を行う．
ゼミⅣでは，調査・実験結果から考察を行い，卒論として仕上げる．
授業中またはゼミ合宿中における関連外部講師による特別講義を予定している．ゼミ合宿はテニス・キャンプ・ウィンタースポーツ・ウォータースポーツ等を予定している．

ゼミ名	岡田ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	新2年生　若干名 新3年生　若干名	担当教員	岡田　泰介

選考方法	志望動機等について面接をおこなう。面接時までの成績も審査対象とする。
研究テーマ	歴史学の諸問題

ゼミナールの目標・概要・方法

＜研究の内容＞

担当教員の専門は西洋史なので、それ以外のテーマをとりあげることは必ずしも排除しないが、原則として西洋史にかかわるテーマについて研究する。具体的なテーマは受講生の希望と実現可能性に応じて決める。これまでにゼミで取り上げられた研究テーマの例を挙げる。

・『歴史に見る性差』「男」と「女」という概念を、生物学的・文化的・歴史的に検討した。
・『アメリカ映画のなかの帰還兵』映画に描かれた第二次世界大戦以来現在にいたる戦争からの帰還兵のイメージの分析を通じて、帰還兵にたいするアメリカ社会の視線の変遷とその歴史的背景をあきらかにした。
・2018 年度は、ジェンダー史の観点から男性史の諸問題に関してゼミ発表・卒業論文を準備している。

＜学習方法＞
秋のゼミ発表会を目標に、テーマを設定し、関連文献を読み込み、プレゼンテーションを組み立てる。この作業を通じて、読解、情報整理、作文、プレゼンテーションのスキルを訓練する。必要に応じて、PC の活用法も指導する。受講生の意欲と能力によっては、外国語の資料を読むこともある。

【授業の方法】
本ゼミナールでは、秋のゼミ発表会、卒業論文を目標とする研究を進めるため、参考文献の輪読とディスカッション、研究内容のプレゼンテーションと質疑応答など、アクティブなラーニングを鋭意実施中である。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	○	◎	○	○	○

ゼミ担当教員科目	関係する科目
外国史・文化交流史	日本史・社会学・文化人類学・法学・経済学など・人文社会系の基礎科目をきちんと勉強しておくことが望ましい。

テキスト

学期はじめの輪読用テキストは教員が指定するが、その後は受講者の興味関心に応じて随時選定する。

参考書

授業中に随時紹介する。

成績評価方法

平常点（出席・ゼミへの貢献度・積極的参加度など）にもとづいて評価する。ペーパー試験はおこなわない。

年間授業計画

（春学期）

原則として、学期はじめには教員が指定するテキストを輪読することにより読解力・表現力を養う。その他、PC など授業に必要なスキルの指導も随時おこなう。
学期後半からはチームに分かれ、ゼミ発表会に向けた課題研究を進める。受講生の希望に応じて夏合宿をおこなうこともある。

（秋学期）

春学期に引き続き、ゼミ発表会に向けた課題研究を進める。ゼミ発表会終了後は輪読演習に戻る。受講生の希望に応じて春合宿をおこなうこともある。

ゼミ名	木村第一ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	新2年生5名程度 新3年生2名程度	担当教員	木村　正人

選考方法	エントリーシート（応募時に提出）と面接
研究テーマ	五輪の社会史

2020年に開催が予定されている東京五輪について、社会学および社会史の観点から考察する。
64年に開催された東京五輪にみられるように、オリンピックはたんなるスポーツイベントの枠を超え、さまざまな社会構造の改革をもたらした。首都高、環状7号線をはじめ富士スバルライン、九州横断道路などの幹線道路があいついで開通し、新幹線開業、パリのエッフェル塔を模した東京タワーの完成、それらの建設を通じてなった流通、メディア上の影響のほか、五輪開催をも契機に登場したさまざまなマナー啓発運動（新生活運動など）によって定着した文化的慣習など、今日では日本社会のいわば常識を形作っていて問題視もされなくなっている事象が多く存在する。
20年五輪の招致について、当初世論の多数は反対をしていたが、承知が決定した後では、あたかも高度成長の時代にみずからを重ね合わせる「昭和ノスタルジー」の雰囲気の中で、五輪現象に対する批判的な視点は失われがちである。
64年の記憶を直接には持たないわれわれは、手始めに当時の報道・記録資料などを通じて、オリンピックとそれがもたらす社会の変容について検討することから着手したい。そのうえで、20年五輪を契機にいま起こりつつある変化にまなざしを投じ、それらの間の異同について考察する。
今日の経済社会の閉塞とともに、ひとびとのあいだに広がっている将来への漠然とした不安と承認欲求は、業績主義的なそれから、属性による承認へと傾き、未来ではなく過去の「遺産（レガシー）」によって自尊心を回復しようという保守回帰的な機運をもたらしている。五輪現象の検討を通じてわれわれが試みるのは、こうした安易なノスタルジーに対する反省でもある。

【授業の方法】
ゼミナールであり、ワークショップ方式や種々の調査手法を用いた問題提起・解決型の学習形態（アクティブ・ラーニング）を採用する。受講者はレジュメ作成と報告、その後の議論への参加（議論の司会や書記も含む）等、主体的積極的なかかわりが求められる。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
○	○	◎	◎	○	◎	○

ゼミ担当教員科目		関係する科目	
	ヒューマン・コミュニケーション論 社会学 Current Social Problems		ヒューマン・コミュニケーション論 異文化間コミュニケーション論 社会学、社会心理学、ライフコース論、人間科学方法論

テキスト

使用しません

参考書

苅谷剛彦編『ひとびとの精神史〈第四巻〉東京オリンピック 1960年代』岩波書店（2015）
小笠原博毅・山本敦久編著『反東京オリンピック宣言』航思社（2016）
大門正克『新生活運動と日本の戦後―敗戦から1970年代』日本経済評論社（2012）

成績評価方法

理由のない欠席・連絡のない欠席は一切認めません。
報告や討論への参加を通じてどれだけ考えを深められているかを総合的に判断して評価します。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
はじめは、それぞれの関心をもとにキーワードに設定して、自由に意見交換をしよう。考える力がついてきたら、発表者と司会担当をきめて文献報告をします。	秋からは、各自の関心に応じた報告が中心。ゼミ発表会に向けてプレゼンの練習もします。報告にもとづいて 12 月にレポートを書いてもらいます。

ゼミ名	木村第二ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	募集なし	担当教員	木村　正人

選考方法	ー
研究テーマ	若者論と世代論の社会学（卒論指導）

ゼミナールの目標・概要・方法

ゼミナールの目標・概要・方法

このゼミでは現代社会における若者たちのライフスタイルについて、社会学の視点から考える。昨今、若年層の就職難や貧困、学習意欲の低下などが社会問題として議論されることが多くなっているが、他方で、新しいファッションやライフスタイル、メディア使用、さらには新しいスタイルでの社会運動への参加にも注目が集まっている。大学生としてまさに若者として日々を送る当事者としての立場から、これらの生き方を観察し、その背景にある社会のありようや「時代」の変化について考察してほしい。

若者論、世代論を中心とした先行文献の検討を行う。毎週担当者を割り当てて、報告してもらう。かつて若者であった世代からは、「最近の若者は…」などと批判を受けることも多いが、それらが根拠のある言説なのかどうか、かつての「若者たち」と比べて、現在の若年層にどのような特徴がみられるのかは、過去についての知識や比較のためのモノサシも必要になる。基礎的な知識を学んだうえで、グループで課題を見つけ、適宜インタビュー調査や行動観察などの手法を用いて、データを収集して分析する方法についても指導する。

【授業の方法】

卒論執筆者を対象としたゼミナールであるが、とりわけ前期を中心に、第一ゼミに所属するゼミ員の文献検討にも参加し、議論をしてもらう。ワークショップ方式その他の討議手法を用いた問題提起・解決型の学習形態（アクティブ・ラーニング）を採用する。受講者はレジュメ作成と報告、その後の議論への参加（議論の司会や書記も含む）等、主体的積極的なかかわりが求められる。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
○	○	○	◎	○	◎	◎

ゼミ担当教員科目	関係する科目
社会学 ヒューマン・コミュニケーション論 Current Social Problems	ヒューマン・コミュニケーション論 異文化間コミュニケーション論 社会学、社会心理学、ライフコース論、人間科学方法論

テキスト

なし

参考書

古市憲寿『絶望の国の幸福な若者たち』、原田曜平『さとり世代：盗んだバイクで走り出さない若者たち』、
佐藤博志・岡本智周『「ゆとり」批判はどうつくられたのか』、内田樹『下流志向：学ばない子どもたち 働かない若者たち』
浅野智彦『検証・若者の変貌：失われた 10 年の後に』ほか

成績評価方法

理由のない欠席・連絡のない欠席は一切認めません。
報告や討論への参加を通じてどれだけ考えを深められているかを総合的に判断して評価します。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
発表者と司会担当をきめて卒論の構想報告をします。課題の設定、先行研究の検討など、授業時間外にも適宜個別相談に乗ります。８月末９月末にそれぞれ、文献検討箇所・全体構想について草稿を提出してもらいます。	秋からは、各自の関心に応じた報告を中心に、卒論作成に向けて適宜指導します。

ゼミ名	小向第一ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	新2年生7～8名程度	担当教員	小向　敦子

選考方法	面接
研究テーマ	「ユーモア」が持つ効能と構造を理解し、それらを発信できるための人間科学の研究

ゼミナールの目標・概要・方法

【ゼミナールの目標】

日本が世界リーグの中で、「長寿国の筆頭」になってから早、40年近くが過ぎようとしています。「長寿の金メダリスト」である日本は、海外の諸外国から羨望の眼差しを寄せられている訳ですが、その高齢社会の実態は、必ずしも模範的ではありません。健康で余力を持ったシニアが、多数を占めるという事実はかき消され、少数派を対象とする「福祉」や「医療」の分野ばかりが、供給され続けているのが現状です。

学生の皆さんはやがて、このような社会に出て、経験を積み、30代になるでしょう。その時、「もう若くない」などと感じて、自信を失いかけるかも知れません。40代・50代になれば、さらに落胆度が強まる可能性があります。果たしてこういう「人生の成り行き」で良いのでしょうか。

当該ゼミでは、若さという勢いが弱まった後にも発揮できる、各人にとっての、人生における頼もしい伴走者となりえる能力、「ユーモア」について学問的・学際的なユーモアオロジー（humorology）として探求します。

【ゼミナールの概要】

ユーモアオロジーと一言にいっても、例えば「ユーモアの歴史」・「ユーモアの医学的効果」・「文学に出てくるユーモア」・「ビジネスシーンにおけるユーモア」「芸能的なユーモア」、など実に広汎です。さまざまな角度からユーモアの実像に迫りながら、学習者自身がユーモアを行使できる能力を身につけていきます。

【授業の方法】

前期の初めには、講座の形式をとり、まずユーモア学を学びます。その上で「笑い」を職業とするプロフェッショナルを、外部講師としてお招きし、直接ふれあう機会を設けます。今まで、漫才師・落語家・クラウン・マジシャン・パントマイミスト・大道芸人などを招聘してきた実績があり、今年度も外部講師を招聘する予定があります。

後期に開催されるゼミ発表会に向けては、現地視察や聞き取り・アンケート調査などの分析を踏まえて、原稿制作・演技練習に取り組みます。発表会後は、新ゼミ生（1年生）を迎える、4年生をキックオフする、2・3年生による年末プログラムを行ないます。このプログラムは別称ゼミクリスマス会と呼ばれることもありますが、ユーモアを研究する私たちにとっては、企画と実施、そして自らを反省する重要な学びの機会となっています。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	◎	◎	○

ゼミ担当教員科目	関係する科目
ジェロントロジー・高齢社会論 外書講読・グローバルコミュニケーション 介護等体験	人間科学概論 ジェロントロジー

テキスト

開講時に紹介します。

参考書

開講時に紹介します。

成績評価方法

自分自身のため、であると同時に、ゼミに参加するコムラデ同志が、お互いに影響や刺激を授受できる関係性の構築を目指します。よって成績評価の基準として、各自の出席度を超える、ゼミ全体への貢献度を求めます。自分の感じたこと・気がついたことを、ゼミの仲間と分かち合うことができる、積極性と協調性を請います。もちろん「反逆」の精神も、歓迎します。なぜならいつの時代にも、社会に変革を齎してきたのは、「いや、そうは思わない」「こんなことは、おかしい」と感じられる・気がつける、斬新な考え方から始まったからです。

年間授業計画

（春学期）

4月：「ユーモア」「笑い」について学ぶ（1）
5月：「ユーモア」「笑い」について学ぶ（2）
6月：外部講師を迎えた講座の企画・主催
7月：ゼミ発表テーマ選定・推敲
8月：夏休みに相応しいデータ集積・調査実施

（秋学期）

9月　：調査結果の分析および考察・追跡調査
10月：発表内容調整・発表表現リハーサル
11月：ゼミ発表本番・反省会
12月：年末特別プログラムの企画・実施
1月　：「ユーモア」「笑い」について学ぶ（3）

ゼミ名	小向第ニゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	新3年生　0名	担当教員	小向　敦子

選考方法	面接
研究テーマ	「ユーモア」が持つ効能と構造を理解し、それらを発信できるための人間科学の研究

ゼミナールの目標・概要・方法

【ゼミナールの目標】

日本が世界リーグの中で、「長寿国の筆頭」になってから早、40年近くが過ぎようとしています。「長寿の金メダリスト」である日本は、海外の諸外国から羨望の眼差しを寄せられている訳ですが、その高齢社会の実態は、必ずしも模範的ではありません。健康で余力を持ったシニアが、多数を占めるという事実はかき消され、少数派を対象とする「福祉」や「医療」の分野ばかりが、供給され続けているのが現状です。

学生の皆さんはやがて、このような社会に出て、経験を積み、30代になるでしょう。その時、「もう若くない」などと感じて、自信を失いかけるかも知れません。40代・50代になれば、さらに落胆度が強まる可能性があります。果たしてこういう「人生の成り行き」で良いのでしょうか。

当該ゼミでは、若さという勢いが弱まった後にも発揮できる、各人にとっての、人生における頼もしい伴走者となりえる能力、「ユーモア」について、学問的・学際的なユーモアオロジー（humorology）として探求します。

【ゼミナールの概要】

ユーモアオロジーと一言にいっても、例えば「ユーモアの歴史」・「ユーモアの医学的効果」・「文学に出てくるユーモア」・「ビジネスシーンにおけるユーモア」「芸能的なユーモア」、など実に広汎です。さまざまな角度からユーモアの実像に迫りながら、学習者自身がユーモアを行使できる能力を身につけていきます。

【授業の方法】

前期の初めには、講座の形式をとり、まずユーモア学を学びます。その上で「笑い」を職業とするプロフェッショナルを、外部講師としてお招きし、直接ふれあう機会を設けます。今まで、漫才師・落語家・クラウン・マジシャン・パントマイミスト・大道芸人などを招聘してきた実績があり、今年度も外部講師を招聘する予定があります。

後期に開催されるゼミ発表会に向けては、現地視察や聞き取り・アンケート調査などの分析を踏まえて、原稿制作・演技練習に取り組みます。発表会後は、新ゼミ生（1年生）を迎える、4年生をキックオフする、2・3年生による年末プログラムを行ないます。このプログラムは別称ゼミクリスマス会と呼ばれることもありますが、ユーモアを研究する私たちにとっては、企画と実施、そして自らを反省する重要な学びの機会となっています。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	◎	◎	○

ゼミ担当教員科目		関係する科目	
	ジェロントロジー・高齢社会論 外書講読・グローバルコミュニケーション 介護等体験		人間科学概論 ジェロントロジー

テキスト

開講時に紹介します。

参考書

開講時に紹介します。

成績評価方法

自分自身のため、であると同時に、ゼミに参加するコムラデ同志が、お互いに影響や刺激を授受できる関係性の構築を目指します。よって成績評価の基準として、各自の出席度を超える、ゼミ全体への貢献度を求めます。自分の感じたこと・気がついたことを、ゼミの仲間と分かち合うことができる、積極性と協調性を請います。もちろん「反逆」の精神も、歓迎します。なぜならいつの時代も、社会に変革を齎してきたのは、「いや、そうは思わない」「こんなことは、おかしい」と感じられる・気がつける、斬新な考え方から始まったからです。

年間授業計画

（春学期）

4月：「ユーモア」「笑い」について学ぶ（1）
5月：「ユーモア」「笑い」について学ぶ（2）
6月：外部講師を迎えた講座の企画・主催
7月：ゼミ発表テーマ選定・推敲
8月：夏休みに相応しいデータ集積・調査実施

（秋学期）

9月　：調査結果の分析および考察・追跡調査
10月：発表内容調整・発表表現リハーサル
11月：ゼミ発表本番・反省会
12月：年末特別プログラムの企画・実施
1月　：「ユーモア」「笑い」について学ぶ（3）

ゼミ名	齋藤元紀第一ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	新2年生　最大 10名 新3年生　最大　2名	担当教員	齋藤 元紀

選考方法	面接
研究テーマ	哲学・倫理学――世界のすべてをとことん考え抜いてみよう――

ゼミナールの目標と概要

【ゼミナールの目標】

このゼミの目標は、哲学と倫理学の基礎的な思考力と思考方法を身につけることにあります。哲学・倫理学にかんする古典的なテキスト以外にも、さまざまな小説や演劇、映像などの資料を丹念に読み解く作業に加えて、哲学対話、脚本・小説・映像制作等の実践的作業を行い、その研究成果をゼミナール発表会で公開していきます。これらの作業をとおして、ほかの人の意見に耳を傾け、ものごとの裏側にひそむ論理に目を凝らし、じぶんの考えをじぶんの言葉で表現できる力を身につけることを最終的に目指します。

【ゼミナールの概要】

哲学は、この世界のあらゆることがらの本質を徹底的に考え抜く学問です。ほかの学問とは違って、哲学には特定の専門領域がありません。この世界のあらゆることがらが、哲学で扱う対象になります。だから哲学では、スマートフォンでも映画でも、この世界でみなさんが気になる出来事なら何でも扱うことができるわけです。とはいえ、哲学はスマートフォンの構造を調べたり、映画鑑賞をしたりするだけの学問でもありません。「どうしてスマートフォンは必要なのか？」「映画とはそもそも何か？」――身近で当たり前ではあるけれど、どこか気になることがらをその本質までとことんまで考えてみるのが、哲学という学問の営みです。

他方倫理学は、そうした世界に起きるあらゆることがらの道徳的善悪や社会的価値をとことんまで考え、それらの具体的解決を目指す学問と言えます。「どうして人を殺してはいけないのか？」「正しさとは何か？」――しかしここでもやはり、世間にあふれる通りいっぺんの答えで満足してはなりません。それらの答えは本当にそう言えるのかどうか、そうでないとすればどう答えるべきか。こうした問いをとことんまで突き詰めて考えてみるのが、倫理学という学問の営みです。

昨年度は「演劇」や「五感」をめぐる哲学的考察に取り組み、大きな成果を収めました。「演劇」にかんしてはプロの劇作家・演出家の先生にご指導いただきながら、演劇と思考や身体との関係について考察しました。また「五感」にかんしては、感覚を遮断したり、ヴァーチャルリアリティー環境を経験したりすることによって、人間の思考にどのような変化が生じるのかを考察しました。今年度も学生の希望に合わせてさまざまなテーマを取り上げ、刺激的な哲学的・倫理学的考察に挑戦したいと考えています。

【授業の方法】

この授業では、みずから考えたことがらを学内外の具体的な場面で実践するアクティブ・ラーニングの方法を活用します。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	◎	◎	◎	○

ゼミ教員担当科目	哲学、倫理学、現代哲学	関係する科目	哲学・倫理学をはじめとする人間科学部の全科目に関係します。

テキスト	授業中に指示する。
参考書	授業中に指示する。
成績評価方法	出席、授業への参加態度、課題への取り組みを総合的に考慮して評価します。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
①　哲学的・倫理学的思考のトレーニング ②　テキストの輪読 ③　ゼミ発表会の準備	①　ゼミ発表会の準備・発表 ②　哲学的・倫理学的思考のトレーニング ③　テキストの輪読

ゼミ名	齋藤元紀第二ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	募集なし	担当教員	齋藤 元紀

選考方法	―
研究テーマ	哲学・倫理学――世界のすべてをとことん考え抜いてみよう――

ゼミナールの目標と概要

【ゼミナールの目標】
このゼミの目標は、第一ゼミナールでの研究成果を踏まえ、論文執筆のトレーニングを積むとともに、卒業論文を完成させることにあります。

【ゼミナールの概要】
哲学は、この世界のあらゆることがらの本質を徹底的に考え抜く学問です。ほかの学問とは違って、哲学には特定の専門領域がありません。この世界のあらゆることがらが、哲学で扱う対象になります。だから哲学では、スマートフォンでも映画でも、この世界でみなさんが気になる出来事なら何でも扱うことができるわけです。とはいえ、哲学はスマートフォンの構造を調べたり、映画鑑賞をしたりするだけの学問でもありません。「どうしてスマートフォンは必要なのか？」「映画とはそもそも何か？」――身近で当たり前ではあるけれど、どこか気になることがらをその本質までとことんまで考えてみるのが、哲学という学問の営みです。
他方倫理学は、そうした世界に起きるあらゆることがらの道徳的善悪や社会的価値をとことんまで考え、それらの具体的解決を目指す学問と言えます。「どうして人を殺してはいけないのか？」「正しさとは何か？」――しかしここでもやはり、世間にあふれる通りいっぺんの答えで満足してはなりません。それらの答えは本当にそう言えるのかどうか、そうでないとすればどう答えるべきか。こうした問いをとことんまで突き詰めて考えてみるのが、倫理学という学問の営みです。

【授業の方法】
この授業では、学内外の具体的な実践の成果を論文へとまとめるアクティブ・ラーニングの方法を活用します。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要／○重要)

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	◎	◎	◎	○

ゼミ教員担当科目	哲学、倫理学、現代哲学	関係する科目	哲学・倫理学をはじめとする人間科学部の全科目に関係します。

テキスト

なし

参考書

適宜紹介します。

成績評価方法

出席、授業への参加態度、課題への取り組みを総合的に考慮して評価します。

年間授業計画

(春学期)	(秋学期)
① 卒業論文テーマ設定 ② 卒業論文概要の作成・修正 ③ 資料の収集・整理・報告	① 卒業論文執筆 ② 卒業論文中間発表 ③ 卒業論文完成・提出

ゼミ名	迫第一ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	新2年生　～10名 新3年生　～若干名	担当教員	迫　一光

選考方法	レポートと面接によって行います。
研究テーマ	社会保障関連分野におけるゼミ生諸君の関心が高いテーマについて学習する予定です

ゼミナールの目標・概要・方法

【ゼミナールの目標】
2 年生：前期は、グループごとに分かれて社会保障制度の概要を学習しながら、後期からの学外大会参加のための発表・プレゼンテーションの準備をします。この活動を通して就職活動におけるグループディスカッション能力など、自分の考えを他者に正確に伝えられる能力を養成する事を目標とします。

3 年生：2 年次に引き続き、2 年生と協力して学外大会に参加しうる水準の研究報告を行い、この報告に基づき年度末にレポートを課します。このレポートを執筆する活動を通じて、エントリーシートを書くための文章力を養成する事を目標とします。

【ゼミナールの概要】
社会保障制度は我々の生活と切り離せない制度です。それにもかかわらず、多くの諸君は高齢者向けの国の支援制度であるとか、病気や怪我をした時に利用する制度とかといった断片的な知識しか持っていないのではないでしょうか。くわえて、今日社会保障制度の危機が指摘されており、何か社会保障に関して不安な印象をもっているのではないでしょうか。社会保障制度の目的、意義などの根幹はどこにあるのでしょうか。今後、われわれが生きていく世の中に必要とされる社会保障制度はどんな形のものか、社会保障制度に問題があるとすればその解決策は何なのか一緒に考えてみませんか？
担当者は、社会保障制度から派生する労働問題にも関心があります。現在、労働経済学における男女賃金格差についても研究しています。働き方に関心がある方も是非どうぞ。ゼミ生の皆さんにさまざまな視点から物を見る目を養成するために外部講師を招聘する場合があります。

【授業の方法】
学内のゼミナール大会だけでなく、他大学や学外との交流も盛んに行います。他大学とのゼミナール大会に参加して自分達の力を相対化できる力を養ってもらいたいと思っています。それから、ゼミは縦のつながりも大切と考えているので、2,3年生合同で連続してゼミを行います。かなり、勉強時間の必要なゼミなのでゼミに時間を割けないという方にはお勧め出来ません。また、当然ですが、ゼミナールはゼミ生とゼミ教員の間のアクティブラーニング形式で開講されています。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要／○重要)

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	○	○	◎	○	○

ゼミ教員担当科目		関係する科目	
	ライフデザイン論、社会保障論		年金論、社会保障論、ライフデザイン論、 リスクマネージメント論、社会福祉論

テキスト

指定しません。

参考書

開講時に指示します。

成績評価方法

出席、議論への参加、報告など、ゼミナールに参加してきちんと役割を果たさなければ単位認定はしません。ゼミ時間外にも学習時間が必要となります。

年間授業計画

(春学期)	(秋学期)
基礎的な社会保障の知識の獲得を目指し、 ゼミ報告会のテーマ探し、論文の執筆を 開始します。	ゼミ報告会への参加、そのためのプレゼンテーションの準備などを行います。

ゼミ名	迫第二ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	新規募集は行わない。	担当教員	迫　一光

選考方法	新規募集はありません。
研究テーマ	2，3 年で学習したテーマを就職内定した企業の分析に活かして卒論執筆する予定です

ゼミナールの目標・概要・方法

【ゼミナールの目標】
4 年生：就職内定獲得後、就職してから必要な情報収集能力、伝達能力・企画提案する力を高める事を目標とします。

【ゼミナールの概要】

2−3 年次に学んだスキルを用いて就職活動を真剣に行って貰います。内定獲得後は速やかに卒論執筆する予定です。卒論は 2，3 年で学習した手法を発展させて就職する企業や自治体の諸問題について取り上げ、就職先を客観的に見る目あるいは就職後に企画を立案する力を養成するつもりです。また、担当教官の専門外の外部講師を招聘する場合があります。

【授業の方法】
学内のゼミナール大会だけでなく、他大学や学外との交流も盛んに行います。他大学とのゼミナール大会に参加して自分達の力を相対化できる力を養ってもらいたいと思っています。それから、ゼミは縦のつながりも大切と考えているので、2，3 生の指導を行う事を通じて就職後に後輩を指導する力もつけて貰いたいと考えています。また、当然ですが、ゼミナールはゼミ生とゼミ教員の間のアクティブラーニング形式で開講されています。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	○	○	◎	○	○

ゼミ教員担当科目	ライフデザイン論、社会保障論	関係する科目	年金論、社会保障論、ライフデザイン論、 リスクマネージメント論、社会福祉論

テキスト

指定しません。

参考書

開講時に指示します。

成績評価方法

出席、議論への参加、報告など、ゼミナールに参加してきちんと役割を果たしたうえで卒論を執筆しなければ単位認定はしません。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
基礎的な社会保障の知識の獲得を目指し、 ゼミ報告会のテーマ探し、論文の執筆を 開始します。	ゼミ報告会への参加、そのためのプレゼンテーションの準備などを行います。

ゼミ名	菅野第一ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	新２年生　若干名 新３年生　若干名	担当教員	菅野　理樹夫

選考方法	簡単な課題，作文（４００字程度），面接
研究テーマ	ものを見る心理学

ゼミナールの目標と概要

実験心理学は日常世界の中で人間や動物の行動に関して疑問に思ったことを確かめる学問である。方法は、観察、実験などを用いて思っていたことが確かなことであったか否かについて確認し、その出来事の意味を調べることである。たとえば、人間は身の回り（環境）にある「奥行」をどのように知覚するか（奥行があることをどのように理解するか）ということについて、自然現象の観察を行い、確認の実験を行いその意味を考える。さらに、人間は昔から自然という環境世界とどのように折り合いとつけながら生きてきたのかについて科学的（学問的）にその意味を考える（実験心理学)。あるいは、人間は月を見て、美しく見えたり、稜線上では大きく見えたり、天頂付近では大きく見えなかったりする（月の錯視）のはなぜだろうか？　錯視は人間の心の中でどうして生じるのか？　錯視は視覚心理学になぜ必要なのことかということについて基礎知識を習得する。このようなことを観察や実験を用いてわれわれ人間が見ている世界の意味を知るためにはどのような手掛かりやどのような背景があるのかについて調べる（視覚心理学)。交通心理学は一般道路や高速道路を走行するときに速度、車間距離、衝突までの時間などに関する知覚（主観的世界の経験）を日常の生活様式の違い（暮らしぶり）の観点から初心者、熟練者、高齢者などのデータを実験的にとり分析を行い、新たな人間の視覚特性を探ることを目標にしている。

受講希望の学生は認知心理学、実験心理学の科目を履修することが前提になるので心理学の基礎知識を十分学習することが肝要である。本ゼミは心理学やさまざまな領域について幅広く学習意欲のある学生が望まれる。また、論文を原典で読むこともある。観察や実験で得たデータを集計、分析をする。屋外で実験を行うこともある。本ゼミを希望する学生は何でも知ってやろうという意欲があり、自分で問題（日常生活の疑問）を見つけようとするやる気があることが必要である。本ゼミは人間の意識や意図などについて実験や観察などの科学的（学問的）方法で研究することを旨としているので日常生活の瑣事に拘っている学生にその適性があると考えている。本ゼミでは４月早々に自己紹介を行い、自分が人間の何に興味あがあるかについて述べ、本ゼミの年間計画を理解する。このとき秋学期のゼミ発表会のテーマも決める。また、2，３年生は教科書（原典も含む）の指定を受ける。授業は、毎回大きな声で専門書を読んでゆく。ただひたすら専門書を読むのである。そのつど質問や討議を行い適宜にレポートや要約を提出する。(少なくとも１，２年は続く)。４年生は４，５月に卒論のテーマを決めて研究の卒論作成の準備をする。年度末の期末試験の終了後の午後に卒論発表会を行う。４年生は自分の卒論のレジュメ（Ａ４、１枚）を作り、15 分程度の口頭発表を各自行う。2，３年生は卒論発表に質疑をしなければならない。いずれもここまでが成績判定にかかわる。夏には学生同士で相談しあい屋外実習、研究遠征を行い 11 月中旬のゼミ発表会や卒論の準備を行う。

【学習方法】
ゼミでの基本的学習の方法論、あるいは実験的な方法論に関する討論に積極的に参加できるよう、
事前に指定された書物を十分に理解し、まとめておいて下さい。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要／○重要)

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	②　問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
○	◎	◎	◎	◎	○	○

ゼミ教員担当科目	関係する科目
認知心理学、実験心理学	認知心理学、実験心理学 これらの科目を履修することを前提とする

テキスト

授業で適宜指示する（和書、洋書）
菅野理樹夫，増補２版　見るちから　北樹出版　2016、Mark Finrman The Inquisitive Eye Oxford Univ.Press

参考書

授業の進行の途中で随時指定する（和文、英文）

成績評価方法

出席（毎回）
リポート（年 10 回)
討議の仕方（自分の考えを相手に明確に理解してもらうように練習すること）
４年生は卒業論文の発表（学年末）を行なうことが卒業条件です。
2，３年生は各自毎回記録ノート学習したことをまとめてゆく。このノートが成績判定の素になります。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
知覚や視覚に関する歴史的な変遷を含む心理学の基礎的な専門書（和書、洋書）を音読しながら積極的な討議を行い、授業終了前にまとめ、自分の意見を要約する。英語の得意な学生に適している。	観察や実験を演習形式で行なう。さらに、研究論文(和文、英文)を読み、研究の方法に慣れる。

ゼミ名	菅野第二ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	募集なし	担当教員	菅野　理樹夫

選考方法	—
研究テーマ	実験心理学　視覚心理学　環境心理学，交通心理学

ゼミナールの目標と概要

実験心理学は日常世界の中の出来事で疑問に思ったことを確かめる学問である。方法は，観察，実験などを用いて思っていたことが確かなことであったか否かについて確認することである。たとえば，満月が雲の前に現れることがあるのだろうか。確かに実際のそのように見えることがある。日常世界でいわれていることがほんとかどうかを確かめることを実験といいます。あるいは，人間はどうして月を見て，美しく見えたり，大きく見えたり，大きく見えなかったりするのだろうか（月の錯視）？錯視とはどのようなことか？　錯視は視覚心理学と環境や背景がどう結びつくのかについて基礎知識を習得する。新しく発見した錯視のデモンストレーションを行い人間の主観的な視覚世界の説明を初心者にもわかりやすく指導します。

受講希望の学生は認知心理学，実験心理学の科目を履修することが前提になるので心理学の基礎知識を十分学習する必要があります。心理学やさまざまな領域について幅広く学習意欲のある学生を歓迎します。また，屋外の実習を兼ねた合宿もあります。意欲があり，やる気のある学生を歓迎します。

当ゼミは人間の主観的な世界の意味やその意図などについて実験や観察などの方法で研究することを旨としているので瑣事に拘っている学生にその適性があると考えています。授業は２年から４年まで全員で専門書（原典も含む）を徹底的に音読し，その意味を習得する（少なくとも１，２年は続く）。４年生は卒業論文を制作することが単位取得の条件です。４年生は４，５月に卒論（のテーマを決めて研究の準備し，観察や実験を行い，それをまとめて秋学期の期末試験の終了後の午後に卒論発表会を行います。４年生は自分の卒論のレジュメ（Ａ４，１枚）を作り，１５分程度の口頭発表を行う。ここまでが成績判定にかかわります。在学生は卒論発表に質疑をしなければなりません。このことも年度末の成績に関係します。

【学習方法】
ゼミでの基本的学習の方法論、あるいは実験的な方法論に関する討論に積極的に参加できるよう、
事前に指定された書物を十分に理解し、まとめておいて下さい。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
○	◎	◎	○	◎	○	○

ゼミ担当教員科目	関係する科目
心理学、認知心理学、実験心理学	心理学、認知心理学、実験心理学 これらの科目を履修することを前提とする

テキスト

授業で適宜指示する（和書、洋書）
菅野理樹夫，増補２版　見るちから　北樹出版　2014
Mark Fineman(1981),The Inquisitive Eye,Oxford University Press

参考書

授業の進行の途中で随時指定する（和文、英文）

成績評価方法

出席（毎回）
リポート（年 10 回）
討議の仕方（自分の考えを相手に明確に理解してもらうように練習すること）
4 年生は卒業論文の発表（学年末）を行なうことが卒業条件です。
2，3 年生は各自毎回記録ノート学習したことをまとめてゆく。このノートが成績判定の素になります。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
知覚や視覚に関する歴史的な変遷を含む心理学の基礎的な専門書（和書、洋書）を音読しながら積極的な討議を行い、授業終了前にまとめ、自分の意見を要約する。英語の得意な学生に適している。卒論のテーマを絞るために論文を読み、研究目的と方法論を明らかにする。	実際に実験を行いデータを収集、分析し、実験の成果を卒業論文にまとめる。さらに卒論発表会を行い、成績判定をする。

ゼミ名	染谷ゼミナール（Seminar）	学部	人間科学部	募集学年	新2年生　8名 新3年生　6名 新4年生　0名	担当教員	染谷　昌義

選考方法	面接。応募者数が募集人数の範囲内であれば選考しません。全員履修できます。応募者多数の場合にだけ選考します。
研究テーマ	哲学のおけいこーおしゃべり上手のテツガクするフリをやめて、ホンモノの哲学をしてみよう

ゼミナールの目標と概要

【内容】

大学のこの期を逃せばおそらく一生読むことがない哲学の本を読みます。決して一人では読む気が起こらない、読むこともできない、けれど読まずに死んでしまったら悔しくて歯ぎしりしてしまう、そんな哲学の書籍をゆっくりじっくり読み、哲学するレッスンをします。このところ人前でカッコよくおしゃべりができて、テツガクしているよなふりをすることが流行していますが、そんなカッコイイおしゃべりとはもっとも無縁なのが哲学です。哲学することは、哲学的に考えて議論することに慣れた人たち（哲学者！）と一緒に路を歩むことで、だんだんと身につく「世界の眺め方」と「行動の仕方」です。ぜんぜんカッコヨクありませんし、目立たぬ地味な行動です（担当教員を見れば一目瞭然でしょう）。このゼミナールでは 3 年をかけて、世界の眺め方と行動の仕方を身につけ、世の中の理不尽さに敏感になり、それに（無言でもかまわないですから）異議を唱え抵抗する勇気を養いたいと思います。もしかしたら今後の人生はちょっとだけ生きにくくなるかもしれません。そしたらごめんなさい。m（_ _）m

【方法】予習箇所（約 5〜10 頁）を担当者に割り当てます。担当者は担当箇所の内容をレジメにまとめて発表します。その発表について参加者全員で議論します。授業時間にまったく発言をしないと教師からこっぴどく叱られます。担当者以外の人もその章を読んできて、議論に参加して発言をしなければなりません。発表、質疑、議論というアクティブ・ラーニングを行います。

【目標―このゼミではきみのどんな力を鍛え、何ができるようになってもらいたいのか？】

① 仲間とともに考え、悩み、議論し、協働して学ぶことはとても面白いんだと実感できる
② 本や資料を読んで、要点を抜き出し、まとめ、口頭もしくは文章で発表できる
③ 問題意識をもち、問いを立て、その問いに答えるための本や資料を探すことができる
④ 他人の意見をきちんと聴き、評価し、批判し、理由をつけて自分の意見を発し、他人に応答することができる。

【4 年生のゼミ論文】4 年生はゼミ論文の指導を 1 ヶ月に一回程度のペースで行います。夏休み前までにテーマを決定し、次の三つのタイプのいずれで論文を執筆できるよう指導します。インターネットの使用は禁じます。大学にいなければ書くことのできない（おそらくこの期を逃すと死ぬまで書くことのできない）論文を書き上げることができるよう全身全霊で補助・支援・励まし・差し入れをします。

① 要約論文：新書を 1 冊読み、その内容を要約し自分の意見と評価を加える。学者業界では「研究論文」「サーヴェイ論文」と呼ばれる。必要最低時間 3 ヶ月　② 自分史：現在の自分が形成されるまでのキーとなる出来事や人物との出会い・事件を綴る。自己形成のこれからを考える。必要最低時間 1 ヶ月　③ 本格論文：書籍を最低 5 冊。その他に論文や雑誌記事を読んで執筆する本格論文。書籍や論文を読む経験のほとんどない学生にはオススメしません。必要最低時間 6 ヶ月

【注意】4 年生はゼミ論文を書きます。4 年生だからといってゼミ欠席をおおめにみることは一切しません。出席してください。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	○	○	○

ゼミ教員担当科目	関係する科目
人間科学概論 A/B、人間形成論、心の科学	人間科学部に設置されているすべての科目が関連します。

テキスト

以下候補。履修者と相談します。プラトン『パイドン』（岩波文庫、1998 年、693 円）、プラトン『国家（上）』（岩波文庫、1979 年、1,296 円）、デカルト『省察』（ちくま学芸文庫、2006 年、1,050 円）、ミル『自由論』（光文社古典新訳文庫、2012 年、1,100 円）、カント『道徳形而上学の基礎づけ』（光文社古典新訳文庫、2012 年、1,120 円）、ニーチェ『道徳の系譜学』（光文社古典新訳文庫、2009 年、780 円）、バークリ『ハイラスとフィロナスの三つの対話』（岩波文庫、2008 年、700 円）

参考書

必要に応じて紹介します。必ず国語辞典を用意して下さい。

成績評価方法

①テキストを忘れない、②遅刻欠席をしない、③担当章の報告発表をスッポカさない、④発言をする、⑤予習をする、⑤課題エッセイを提出する、によって評価します。

【注意】ゼミの最中にまったく発言をしなかった人／発言できなかった人は、出席していないと見なします。最初は難しくても、自分自身の言葉をつむぎ出し、発言できる勇気をもちましょう。4 年生は就職活動が忙しくなりますが、履修登録をしているかぎり毎週ゼミがあります。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
担当者を決めて本を少しずつ読んでいきます。こういうのを「輪読」と言います。 内容にもとづく 600〜800 字のエッセイを一つ書きます。	進め方は春学期に同じです。 ゼミ発表会に参加します。

ゼミ名	竹内淨ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	新 2 年生 4 名 新 3 年生 若干名	担当教員	竹内　淨

選考方法	面接
研究テーマ	環境研究

ゼミナールの目標と概要

【ゼミナールの目標】
本ゼミの目標は、環境問題の解決に向けた研究を行うとともに、研究を通して社会における課題解決能力を身につけることです。

【ゼミナールの概要】
本ゼミで重視する視点は、「①地域の環境課題」、「②企業の環境活動」、「③環境教育」の 3 つです。
①地域の環境課題
地球、国というマクロなスケールではなく、市町村（基礎自治体）というスケールを対象に、より身近でリアルな環境問題の現状を調べながら、課題を洗い出し、現状に至る分析結果から改善方法を考えていきます。文献調査に留まらずに、できる限り学外へ出て現場をみることを重視します。
②企業の環境活動
中小企業向けの環境配慮活動支援事業（エコアクション 21）を行う NPO を支援します。各種セミナー及び報告会の運営支援を行うだけでなく、実施イベントに参加し、企業が環境配慮活動を行う動機、実施可能な環境活動などを学びます。これにより社会における環境問題の位置づけを理解します。
③環境教育
NPO 認定資格「環境教育インストラクター」の取得を目指した課外講座に参加します（義務ではなく推奨）。この講座の目的は環境教育イベントを企画運営でき得る知識や技能を身に付けることであり、取得後、参加可能なボランティア活動の機会が提供されます。ゼミとして NPO の活動に協力する予定です。

【授業の方法】
上記のとおり、各視点について積極的に学ぶ機会を提供し、ゼミ活動として実施していきます（アクティブラーニング）。設定したテーマについて各自で情報収集し、ゼミの時間に報告及びディスカッションを行います。その他に学外活動を、土曜日、日曜日、長期休暇などで月 1～2 回程度の頻度で行う予定です。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○			○		

ゼミ教員担当科目	関係する科目
環境科学、物質科学、算数 基礎数学（代数・幾何）、基礎数学（確率・統計）	環境科学、物質科学

テキスト

4 月のテーマ決定後、必要な資料を配布します。
研究に必要な書籍が図書館にない場合には、教員が購入して貸与します。

参考書

4 月のテーマ決定後、必要な資料を配布します。
研究に必要な書籍が図書館にない場合には、教員が購入して貸与します。

成績評価方法

単位取得条件は、ゼミに出席して研究や発表などの役割を果たすこととします。
評価は、研究状況、ゼミ活動への貢献度により行います。

年間授業計画

（春学期）

4 月～7 月　通常活動
[学内]　テーマ設定、報告、ディスカッション
[学外]　ヒアリング調査、視察、NPO など連携活動
9 月　環境教育インストラクター課外講座（推奨）
9 月　合宿（未定）

（秋学期）

9 月～1 月　通常活動
[学内]　報告、ディスカッション
[学外]　ヒアリング調査、視察、NPO など連携活動
11 月　ゼミ発表会参加（未定）
2 月　合宿（未定）

ゼミ名	竹村ゼミナール （Seminar）	学部	人間科学部	募集学年	新 2 年生　若干名 新 3 年生　若干名	担当教員	竹村　和朗

選考方法	面接
研究テーマ	身のまわりの「異文化」を見つけ、考える――文化人類学入門

ゼミナールの目標・概要・方法

＜ゼミの概要と目標＞
私たちの身のまわりには、普段は見過ごしがち（もしかしたら無意識に見ないようにしているかも？）ですが、よく考えてみると「不思議なこと」や理由はわからないが「昔から行われていること」、あるいは、見るからに「あやしいもの」が数多くあります。本ゼミではこうした物事をとりあえず「異文化」と名づけ、文化人類学的な研究・考察の対象とします。そしてこうした物事がどのような意味、文脈において、「不思議」なのか、どのようにしたらこれらを学問的に扱うことができるか、を一緒に考えていきます。ゼミ生一人一人が、自らの「異文化」を見つけ、文化人類学的な考え・方法論にもとづき、その研究に取り組むようになることが、本ゼミの目標です。

＜ゼミの方法＞
①ゼミ生がそれぞれ思い描く「異文化」への関心を聞き、できるだけ共通するものを探る。。
②関連する文化人類学の文献を輪読し、基本的な知識と人類学的思考・方法論を見に着ける。
③ゼミ生は関心のある研究テーマを選び、研究発表を行う。

テーマは、「宗教的なもの」から「地域社会」の成り立ちや発展、「家族・親族」や「ジェンダー」に関わること、「法制度」や「慣習」、「民俗芸能」までいろいろなものが考えられますが、「人間が関わること」と「調査可能であること」は必須条件です。具体的なテーマは、ゼミ生の関心を聞いて決めます。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎		○	◎	◎	◎	○

ゼミ教員担当科目	関係する科目
異文化間コミュニケーション論／多文化共生論 文化人類学／比較文化論 人間科学方法論	社会学、家族社会学、ジェンダー論など

テキスト

適宜資料を配布します。

参考書

開講中に随時紹介します。

成績評価方法

ゼミでは、文献を読むこと、そしてその内容をまとめて発表することが中心となるので、出席と発表担当はもとより、ゼミ内の議論への参加、個別研究に向かう姿勢と成果が、成績評価の対象となります。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
・4 月～6 月 基本文献の購読 ・7 月 ゼミ生のテーマと研究計画の策定	・10 月～11 月 ゼミ生の個別テーマに関わる文献購読 調査の中間報告 ・12 月～1 月 ゼミ生の個別テーマ研究の発表

ゼミ名	立石第一ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	新 2 年生 7 名程度 新 3 年生　募集せず	担当教員	立石展大

選考方法	面接
研究テーマ	口承文芸と現代メディア

ゼミナールの目標・概要・方法

【ゼミナールの目標】
現代社会において伝承されている生活文化が、従来の口伝えからどのように変化をしているかを考察することから、現代社会の特徴を明らかにする。

【ゼミナールの概要】
口承文芸とは、口伝えの伝承で、かつては昔話・伝説・世間話などが世代を越えて伝えられていた。例えば、農村などで、祖父母が孫に語り、それを聞いて育った孫が、自分が大人に成長した後、下の世代に語るという伝承である。
また、村を訪れる行商人や宗教者が語り伝えて、話が伝播することもあった。
もちろん、このような伝承・伝播は、現代ではほとんど見られなくなった。これは、他の娯楽が増え、マスメディアが発達するなどの社会の発展にともなうものであり、21 世紀においては、口伝えのみの伝承を探すのは至難の業である。
しかし、かつて口承文芸が伝えていた内容は、メディアを変えて現代も伝えられている。例えば、昔話は絵本やテレビアニメ、マンガなどで表現される。河童などの妖怪も、既に口伝えの伝承は少なくなったが、それでもキャラクターとして、相変わらず日本人に馴染みのある存在であろう。
そして、現代のメディアにおいて表現される、かつての口承文芸は、その内容をより現代社会の価値観に沿わせて変化をする傾向を見せる。
本ゼミナールでは、現代のメディアにおいて語られる話の変化を分析することで、私たちの生活文化を考察していく。

【授業の方法】
現代社会の伝承を考察するため、書籍からの情報収集もおこなうが、フィールドワークによる聞き取り調査も取り入れる。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要／○重要)

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	○		◎	◎	

ゼミ教員担当科目	日本文学、日本文学史、国語、日本語	関係する科目	日本文学・日本文学史

テキスト

特になし。プリントを配布する。

参考書

随時紹介する。

成績評価方法

平常点・レポート・発表などを総合的に評価する。

年間授業計画

(春学期)	(秋学期)
①　口承文芸の基礎を学ぶ。 ②　各自の研究テーマの設定と情報収集。 ③　研究テーマの発表。	①　春学期の設定テーマを基に、研究テーマを発展させる。 ②　ゼミ発表会に向けて、準備を行う。 ③　各自の研究テーマに沿って、レポート作成をおこなう。

ゼミ名	立石第二ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	4 年生対象ゼミのため募集せず	担当教員	立石展大

選考方法	
研究テーマ	口承文芸と現代メディア

ゼミナールの目標・概要・方法

【ゼミナールの目標】
第 2 学年と第 3 学年において学んだことを踏まえて、各自が卒業論文のテーマを設定し、情報を収集、分析、考察する。その上で研究の集大成となる卒業論文をまとめる。また、完成した論文内容をゼミ内の発表会において発表する。

【ゼミナールの概要】
口承文芸とは、口伝えの伝承で、かつては昔話・伝説・世間話などが世代を越えて伝えられていた。例えば、農村などで、祖父母が孫に語り、それを聞いて育った孫が、自分が大人に成長した後、下の世代に語るという伝承である。
また、村を訪れる行商人や宗教者が語り伝えて、話が伝播することもあった。
もちろん、このような伝承・伝播は、現代ではほとんど見られなくなった。これは、他の娯楽が増え、マスメディアが発達するなどの社会の発展にともなうものであり、21 世紀においては、口伝えのみの伝承を探すのは至難の業である。
しかし、かつて口承文芸が伝えていた内容は、メディアを変えて現代も伝えられている。例えば、昔話は絵本やテレビアニメ、マンガなどで表現される。河童などの妖怪も、既に口伝えの伝承は少なくなったが、それでもキャラクターとして、相変わらず日本人に馴染みのある存在であろう。
そして、現代のメディアにおいて表現される、かつての口承文芸は、その内容をより現代社会の価値観に沿わせて変化をする傾向を見せる。
本ゼミナールでは、現代のメディアにおいて語られる話の変化を分析することで、私たちの生活文化を考察していく。

【授業の方法】
現代社会の口頭伝承を考察するため、書籍からの情報収集もおこなうが、フィールドワークによる聞き取り調査も取り入れる。
その上で、各自の考察を論文にまとめる。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要／○重要)

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	○		◎	◎	

ゼミ教員担当科目	日本文学、日本文学史、国語、日本語	関係する科目	日本文学・日本文学史

テキスト

特になし。プリントを配布する。

参考書

随時紹介する。

成績評価方法

卒業論文の内容と作成過程を総合的に評価する。

年間授業計画

(春学期)	(秋学期)
④ 卒業論文のテーマ設定 ⑤ 卒業論文作成に向けた情報収集と分析。 ⑥ 中間発表	④ 中間発表を踏まえて、内容の改善と執筆 ⑤ 内容の最終チェックと完成 ⑥ 2 年生と 3 年生に向けた発表会

ゼミ名	徳田第一ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	新2年生　5～8名	担当教員	徳田　治子

選考方法	(1)エントリーシート（志望の理由、ゼミで学びたいこと等）をA4用紙1枚程度に記入し事前に提出する。（2）面接・
研究テーマ	成長とより良く生きるための心理学（発達心理学）

ゼミナールの目標と概要

《ゼミナールの目標》
・個別テーマの探求、ならびにゼミ生間の協同的な学びを通して、生涯にわたる人間の成長や私たちがより良く生きるうえで心理学が果たすことのできる社会的役割や責務について考察を深める。
・インタビュー法を中心に心理学の研究方法の習得を通して、実証科学としての心理学研究のあり方について学ぶ。

《ゼミナールの概要》
・春学期は、ゼミ受講生の問題関心に寄り添いつつ、関連領域（発達心理学、ポジティヴ心理学、質的調査法）に関する文献を共同で講読する。講読するテキストは、年度初めに教員から複数のテキストを提示し、受講生と相談の上決定する
・秋学期は，各自の学習度と進捗に応じて，個人テーマ研究についての概要報告を加えていく。文献検索の仕方、論文や統計データの読み方、インタビュー法や質問紙法観察法を中心とした心理学研究法についても指導していく。
・学期末に人生のモデルや憧れとする人を対象にライフストーリーインタビューを実施し、期末レポートとして提出する。
・ゼミ発表会への参加については、ゼミ生との話し合いにより決定する。
・ゼミ活動においては、活発な議論を通して、互いの考えを伝え合い、学び育ち合う関係をつくっていく。
・ゼミ生の問題関心をさらに深めることを目的に、外部講師の招聘を予定している。

《授業の方法》
・グループディスカッションなど協同で学習する機会を多く取り入れる。研究テーマに応じて関係機関との連施や見学を行う。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	◎	◎	○	○

ゼミ教員担当科目	関係する科目
児童学概論、青年心理学、児童心理学	青年心理学 児童心理学 その他、心理学関連科目

テキスト

開講時に指示する（教員から複数のテキストを提示し、受講生と相談の上決定する）。
（これまで用いたテキストについては、参考書の欄を参照のこと）

参考書

・柏木惠子(2012)『子どもも育つおとなも育つ　発達の心理学』（萌文書房）（2013年度）
・ リチャード・ワイズマン（2010)『その科学が成功を決める』（文藝春秋）（2014年度）
・ イローナ・ボニウェル（2015)『ポジティヴ心理学が1冊でわかる本』（国書刊行会）（2015年度）
・ イアン・レズリー(2016)『子どもは40000回質問するあなたの人生を創る「好奇心」の驚くべき力』（光文社）（2017年度）
・ キャロル・デゥエック（2016）.『マインドセット：「やればできる！」の心理学』（草思社）（2018年度）

成績評価方法

・ 出席、ゼミでの発表、議論への参加態度などから総合的に評価します。
・ 特別な理由がない限り、ゼミへの欠席は認めません。自ら学ぶ意志をもってゼミ活動に参加する姿勢を求めます
・自分の関心やテーマに主体的に取り組むとともに、自分以外の者のテーマにも積極的に関心を示す能動的な態度、“知的好奇心”、頭で考えるだけでなく、身体や心で感じ、自分と異なった人々と関わり、理解する姿勢を評価します。

年間授業計画

①　4～6月 指定したいくつかのテキストのなかから文献を選択し、毎回発表者を決めて講読する。 ②　7月～11月 ゼミ発表テーマ、ならびに各自の興味関心に基づいて文献を選択し、発表する。ゼミ生の研究テーマに応じて、教育施設や対人援助機関の訪問を実施する。	（秋学期） ③12月～1月 ライフストーリーインタビューの計画と実施。 期末レポート作成

ゼミ名	徳田第二ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	新３年生０名 新４年生０名	担当教員	徳田　治子

選考方法	募集なし
研究テーマ	成長とより良く生きるための心理学（発達心理学）

ゼミナールの目標と概要

《ゼミナールの目標》
・発達心理学、ポジティヴ心理学を中心とした心理学研究の知見をベースに、生涯にわたる人間の成長や私たちがより良く生きるうえで心理学が果たすことのできる役割や社会的責務について考察を深める。

《ゼミナールの概要》
以下の項目に従い、個別テーマの研究計画を立て、論文を執筆する。
1）調査テーマと対象
2）興味、テーマの選定理由
①個人的関心・興味：自分はなぜその対象に興味をもっているのか。可能な範囲で個人的な関心の理由を述べる。
②社会的背景・意義：テーマの現代的、社会的意義について述べる。
3）究極のテーマ：自分は、このテーマの探求を通して、究極的にどんなことを達成したいと考えているか。
4）研究方法
5）参考文献
・ゼミ生の問題関心をさらに深めることを目的に、外部講師の招聘を予定している。

《授業の方法》
・各自の研究テーマに応じて関係機関との連施や参与観察、インタビューを実施し、実践的に価値のある知識の獲得を目指す。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	○	◎	○	◎

ゼミ教員担当科目	児童学概論、青年心理学、児童心理学	関係する科目	青年心理学 児童心理学 その他、心理学関連科目

テキスト

・スタイナー・クヴァール（2016）『質的研究のための「インター・ビュー」』（新曜社）
・ロバート・アトキンソン（2006）『私たちのなかにある物語：人生のストーリーを書く意義と方法』（ミネルヴァ書房）

参考書

白井利明・高橋一郎著（2008）『よくわかる卒論の書き方』　（ミネルヴァ書房）

成績評価方法

・ 平常点（出席、ゼミでの発表、議論への参加態度等）
・ 期末レポート

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
各自のテーマを掘り下げ、具体的な研究計画の実施に向けた準備を進める。 4〜7 月 ・各自が設定した研究テーマにそって、研究内容や手法に関する文献を講読する。 ・夏期休業を利用し、各自で興味をもったフィールドの訪問や文献資料の収集を行う。	10〜12 月 ・それぞれの卒論執筆計画のもと、個別テーマ研究の発表を行う。４年生は卒論執筆の作業を進める。 1 月 ・研究成果を発表し、卒論の執筆計画へとつなげる（3 年生）。 ・卒論を完成させる（4 年生）

ゼミ名	並木第一ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	新２年生　５名程度 新３年生　３名程度	担当教員	並木　雅俊

選考方法	面接
研究テーマ	理科教育の研究

ゼミナールの目標・概要・方法

理科は、児童・生徒に夢を与え，チャレンジする心を育成するのに適した教科である。統計によると、ほとんどの児童が理科好きであり、理科の実験・観察の授業を楽しみにしている。理科離れは、中学校以降のことである。理科離れ現象の原因は、定量的学びの始まりと受験指導に重きをおいた授業が主である。児童・生徒の興味・関心を大切にして、自ら学ぼうという力を育成するにはどのような工夫が必要なのだろうか。理科を通じて、この問いに答えてみることがこのゼミの主テーマである。

小学校の理科では児童が自然の事象・現象に関わりながら、事象の性質や規則性について実感しながら学ぶ。この学びが、サイエンスの見方や考え方を学ぶことも目的の一つとなっている。実験を通じて小学校理科に慣れることによって、①児童に見通しをもって実験・観察を行うこと、②予想や仮説を立てることにより問題解決能力を養ってもらうこと、などの方法を研究を通じて学んでもらいたい。

個々のテーマは、学生の意見をもとに選んでいる。これまでのテーマは、「日本の理科教育史」、「数学を如何にして教えるか」、「昆虫飛翔」、「生命とは何か」、「地球外生命」、「太陽系外惑星」、「小学校理科（エネルギー分野）の教育」、「ブラックホールの発見」であった。

【授業の方法】
児童・生徒実験の考案と実施、グループ作業、グループ間での議論、プレゼンテーションの練習、レポート作成を能動的に学ぶ。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	①　理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

ゼミ担当教員科目	科学史 A/B、宇宙科学、地球科学、理科指導法、理科	関係する科目	理科、理科指導法、科学史 A/B、地球科学、宇宙科学、児童学概論、児童教育法

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説　理科編』（大日本図書、2008）
R.D.ナイト（並木雅俊監訳）『物理を教える』（丸善出版、2017）

参考書

板倉聖宣『日本の理科教育史』（仮説社、2009）
蟹江幸博・並木雅俊『文明開化の数学と物理』（岩波書店、2008）
小川正賢『「理科」の再発見』（農業漁村文化協会、1998）

成績評価方法

積極的に研究を進め、その成長度合をみて評価する。

年間授業計画

（春学期）

前半：理科教育一般
夏期：集中ゼミとゼミ合宿
後半：テーマ決定と序論

（秋学期）

・テーマ本論
・発表準備と実施
・発表内容のまとめ

ゼミ名	並木第二ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	募集なし	担当教員	並木　雅俊

選考方法	面接
研究テーマ	理科教育の研究（論文作成）

ゼミナールの目標・概要・方法

理科は、児童・生徒に夢を与え，チャレンジする心を育成するのに適した教科である。統計によると、ほとんどの児童が理科好きであるし、理科の実験を楽しみにしていること。理科離れは、中学校以降のことである。理科離れ現象の主な原因は、教員の理科苦手意識である。児童・生徒の興味・関心を大切にして、自ら学ぼうという力を育成するにはどのようにすればよいのだろうか。

理科を通じて、この問いに答えてみたい。小学校の理科では児童が自然の事象・現象にかかわりながら、事象の性質や規則性について実感することにより、サイエンスの見方や考え方を学ぶことも目的の一つとなっている。実験を通じて小学校理科に慣れることによって、①児童に見通しをもって実験を行うこと、②予想や仮説を立てることにより問題解決能力を養ってもらうこと、など知識・方法を研究する。

これまで学んできた知識をもとに、各自がテーマを定め、論文作成をおこなうことを主目的とする。

【授業の方法】
児童・生徒実験の考案と実施、グループ間での議論、プレゼンテーションを学び、ゼミ論文の作成を行う。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

ゼミ教員担当科目	理科指導法、理科、 地球科学、宇宙科学、科学史、	関係する科目	「理科」、「理科指導法」、「地球科学」、「宇宙科学」、「科学史」 「児童学概論」、「児童教育法」

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説　理科編』（大日本図書、2008）
R.D.ナイト（並木雅俊監訳）『物理を教える』（丸善出版、2017）

参考書

板倉聖宣『日本の理科教育史』（仮説社、2009）
蟹江幸博・並木雅俊『文明開化の数学と物理』（岩波書店、2008）
小川正賢『「理科」の再発見』（農業漁村文化協会、1998）

成績評価方法

積極的に研究を進め、その成長度合をみて評価する。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
前半：理科教育一般 夏期：集中ゼミとゼミ合宿 後半：テーマ決定と序論	・テーマ本論 ・発表準備と実施 ・発表内容のまとめ

ゼミ名	長谷川第一ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	新2年生　約5名 新3年生　若干名	担当教員	長谷川　万希子

選考方法	エントリーシートと面接
研究テーマ	子どもを支えるプロフェッショナルになろう！！

ゼミナールの目標・概要・方法

【ゼミナールの目標】
子どもを支えるプロフェッショナルになるために、必要な視点、知識、技術を身に付ける。
子どもを支えるプロフェッショナルの例：
教員・特別支援学校教員・児童支援員・保育士・児童施設職員(児童養護施設・児童館・学童クラブ、放課後等デイサービス)・塾講師・教材開発企業・地域サッカークラブコーチ、他

【ゼミナールの概要】
子どもを支えるプロフェッショナルを訪問・招聘し、インタビューをして、プロになるために必要な視点・知識・技術・資格を探り出す。

【授業の方法】
①各種施設訪問
○小学校(公立・私立)
○施設(児童養護施設・児童館・学童クラブ、放課後等デイサービス)、他
②各種プロフェッショナル招聘
○塾講師・幼稚園教諭・保育所経営者・放課後等デイサービス経営者等
③子どもと関わる活動・ボランティア
○小学校・学童クラブ・児童館・障害者福祉会館・海外交流イベント・他

【このような学生にお勧め】
①子どもに関わりたい人
②教員になりたい人
③福祉に関心がある人
④ボランティアをやりたい人

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要／○重要)

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	○	◎	◎	◎	◎

ゼミ担当教員科目	関係する科目
社会福祉論 A,B、ボランティア論 A,B,健康と医療の社会学	社会福祉論 A,B、ボランティア論 A,B、健康と医療の社会学、障害児教育

テキスト

特になし(必要に応じて配布する)。

参考書

特になし(必要に応じて配布する)。

成績評価方法

ゼミの授業時間内の活動姿勢・態度：25%、他のゼミ生との協力姿勢：25%、ゼミ関連活動(学外での活動等)への取り組み姿勢：25%、円滑なゼミ運営のための報告・連絡・調整の実施 25%

年間授業計画

(春学期)	(秋学期)
1～10回： 子どもを支えるプロフェッショナル訪問・招聘 ○小学校訪問 ○放課後等デイサービス経営者招聘 ○その他 11～15回： ○関連書籍講読 ○バングラデシュ子ども支援 ※外来講師を招聘する講義を予定	1～5回：ゼミ発表の準備 6～8回：ゼミ論文執筆 9～11回：子どもにかかわるボランティア 12～15回：バングラデシュ子ども支援 ※外来講師を招聘する講義を予定

ゼミ名	長谷川第二ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	新2年生　約5名 新3年生　若干名	担当教員	長谷川　万希子

選考方法	エントリーシートと面接
研究テーマ	BBS で子どもに寄りそう！

ゼミナールの目標・概要・方法

【ゼミナールの目標】
BBS 活動を行い、子どもを犯罪・非行から守る。

【ゼミナールの概要】
BBS 活動を企画から考え、実施する。既に活動している他大学の BBS グループと交流し、一緒に活動し、活動方法を学ぶ。

BBS 活動とは：Big Brothers and Sisters Movement の略。少年少女たちに、お兄さんやお姉さんのような存在として関わり、一緒に悩み、一緒に学び、一緒に楽しむ、今から約 100 年前にアメリカで始まったボランティア活動。全国約 500 の BBS グループがあり、大学が中心となっているグループも多い。都内では早稲田大学、社会福祉事業大学が中心となっているグループがある。本活動では、主に早稲田大学広域 BBS 会と協働していく。早稲田 BBS は、法務省保護局の更生保護協力団体で、保護観察を受けている少年少女や様々な生きづらさを抱えた子ども達に対し、話し相手になったり勉強を教えたりする活動や、一般の子どもと関わる機会をつくっている。複数の大学が関わる団体で、早大、お茶大、青学大、他 20 大学・2 専門学校等から学生が参加している。
対象となる子どもは、一般の 18 歳未満の子ども、引きこもりの子ども、非行経験がある子ども等。

【授業の方法】
①他大学の BBS 活動を訪問し、活動方法を学ぶ。
②杉並区保護司会と協力して、催しの開催に関わる。

【このような学生にお勧め】
①子どもに関わりたい人
②司法に関わりたい人
③教員になりたい人
④福祉に関心がある人
⑤ボランティアをやりたい人

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要／○重要)

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	○	◎	◎	◎	◎

ゼミ担当教員科目	関係する科目
社会福祉論 A,B、ボランティア論 A,B、健康と医療の社会学	社会福祉論 A,B、ボランティア論 A,B、健康と医療の社会学、障害児教育

テキスト
特になし(必要に応じて配布する)。

参考書
特になし(必要に応じて配布する)。

成績評価方法
ゼミの授業時間内の活動姿勢・態度：25%、他のゼミ生との協力姿勢：25%、ゼミ関連活動(学外での活動等)への取り組み姿勢：25%、円滑なゼミ運営のための報告・連絡・調整の実施 25%

年間授業計画

(春学期)
1～4 回：
他大学の BBS グループ訪問
○活動方法・技術を学ぶ。
5～10 回：
○杉並区保護司会と協働で、子ども対象の催しの企画・開催
11～15 回：
○様々な子どもの実態を学び、子どもとかかわる。
・一般の 18 歳未満の子ども
・引きこもりの子ども
・貧困家庭の子ども
・ひとり親家庭の子ども
・障害をもつ子ども、他
※外来講師を招聘する講義を予定

(秋学期)
1～5 回：ゼミ発表の準備
6～8 回：ゼミ論文執筆
9～11 回：子どもにかかわるボランティア
12～15 回：バングラデシュ子ども支援

※外来講師を招聘する講義を予定

ゼミ名	松谷第一ゼミ	学部	人間科学部	募集学年	新２年生８名 新３年生若干名	担当教員	松谷明美

選考方法	現ゼミ生と担当教員による面接
研究テーマ	ヒトの言葉と心について

ゼミナールの目標・概要・方法

【ゼミナールの目標】
普段あたりまえのように使っている我々（ヒト）の言葉の現象を考えることで、人間の本質・社会と言葉について探っていきます。

【ゼミナールの概要】
言葉は人間に固有なものです。このゼミでは、「（音・文字で表される）言語」と「(ジェスチャー・身振り・しぐさ等で表される)非言語」を様々な（例えば、日本語圏と英語圏）角度から、比較・対照して、言葉が意味するもの、人間の本質（心理状態・身体状態・言葉そのもののしくみ）と周囲の環境・状況について考えます。また、どのようにヒトが言葉を身に付けるか（そのプロセス）についても考えます。

【授業の方法】
ゼミ生各自が主に下記の視点から、興味を持つテーマを選び、先行研究をもとにデータ収集をして、分析を行います。そして、ゼミの中で話し合いをしながら、考察をします。

① 日本人の身振り言語と外国人の身振り言語を比べる（テレビドラマ・映画・コマーシャル・雑誌などメディア・実際の調査・先行研究から）
② 大人の言葉と子供の言葉を比べる（テレビドラマ・映画・雑誌などメディア・・実際の調査・先行研究から）
③ 若者の言葉と年配の言葉を比べる（テレビドラマ・映画・雑誌などメディア・実際の調査・先行研究から）
④ 男性の言葉と女性の言葉を比べる（テレビドラマ・映画・雑誌などメディア・実際の調査・先行研究から）
⑤ 異なった地域の言葉を比べる（テレビドラマ・映画・雑誌などメディア・実際の調査・先行研究から）
⑥ 母国語と外国語を比べる（テレビドラマ・映画・雑誌などメディア・実際の調査・先行研究から）

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
○	○	◎	◎	◎	○	○

ゼミ担当教員科目	言語学、英語Ⅰ・Ⅱ	関係する科目	人間科学概論・言語学・哲学・心理学・異文化間コミュニケーション・ヒューマンコミュニケーション

テキスト
学生が取り組むテーマに合わせた文献と配布資料

参考書
授業時に指示します

成績評価方法
ゼミ発表準備・報告書作成等を含む授業の参加度から総合評価

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
代表的な先行研究を読む ↓ ゼミ発表の大まかなテーマを決める ↓ 関連する文献を読む ↓ 具体的なトピックに絞り込む ↓ 仮説を立て、研究計画を練る	実際にデータ収集を行う ↓ 収集したデータをする ↓ ゼミ発表の準備を行う ↓ ゼミ発表の報告書を仕上げる

ゼミ名	松谷第二ゼミ	学部	人間科学部	募集学年	０名	担当教員	松谷明美

選考方法	―
研究テーマ	ヒトの言葉と心について（卒業論文執筆）

ゼミナールの目標・概要・方法

【ゼミナールの目標】
普段あたりまえのように使っている我々（ヒト）の言葉の現象を考えることで、人間の本質・社会と言葉について探っていきます。四年生は卒業論文を完成させる事を最終目標とします。

【ゼミナールの概要】
言葉は人間に固有なものです。このゼミでは、「（音・文字で表される）言語」と「(ジェスチャー・身振り・しぐさ等で表される)非言語」を様々な（例えば、日本語圏と英語圏）角度から、比較・対照して、言葉が意味するもの、人間の本質（心理状態・身体状態・言葉そのもののしくみ）と周囲の環境・状況について考えます。また、どのようにヒトが言葉を身に付けるか（そのプロセス）についても考えます。

【授業の方法】
ゼミ生各自が主に下記の視点から、興味を持つテーマを選び、先行研究をもとにデータ収集をして、分析を行います。そして、ゼミの中で話し合いをしながら、考察をします。

① 日本人の身振り言語と外国人の身振り言語を比べる（テレビドラマ・映画・コマーシャル・雑誌などメディア・実際の調査・先行研究から）
② 大人の言葉と子供の言葉を比べる（テレビドラマ・映画・雑誌などメディア・・実際の調査・先行研究から）
③ 若者の言葉と年配の言葉を比べる（テレビドラマ・映画・雑誌などメディア・実際の調査・先行研究から）
④ 男性の言葉と女性の言葉を比べる（テレビドラマ・映画・雑誌などメディア・実際の調査・先行研究から）
⑤ 異なった地域の言葉を比べる（テレビドラマ・映画・雑誌などメディア・実際の調査・先行研究から）
⑥ 母国語と外国語を比べる（テレビドラマ・映画・雑誌などメディア・実際の調査・先行研究から）

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
○	○	◎	◎	◎	○	○

ゼミ教員担当科目	言語学、英語Ⅰ・Ⅱ	関係する科目	人間科学概論・言語学・哲学・心理学・異文化間コミュニケーション・ヒューマンコミュニケーション

テキスト	学生が取り組むテーマに合わせた文献と配布資料
参考書	授業時に指示します
成績評価方法	ゼミ発表準備・報告書・卒業論文作成等を含む授業の参加度から総合評価

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
代表的な先行研究を読む ↓ ゼミ発表の大まかなテーマを決める ↓ 関連する文献を読む ↓ 具体的なトピックに絞り込む ↓ 仮説を立て、研究計画を練る	実際にデータ収集を行う ↓ 収集したデータをする ↓ ゼミ発表の準備を行う ↓ 卒業論文を執筆する

ゼミ名	吉原第一ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	新２年生　５名程度 新３年生　募集なし	担当教員	吉原　千賀

選考方法	面接
研究テーマ	家族関係について「社会」と「心理」から考える

ゼミナールの目標・概要・方法

＜目標＞
「家族」は私たちにとって最も身近な人間関係である。そして、私たちが生まれ落ちてから死後に至るまで、家族との関係は時に形を変えながら私たちに影響を及ぼし続ける。では、「身近である＝よく知っている」と言えるのだろうか。自分の思い描く家族は本当に「ふつう」なのだろうか。このゼミでは、家族を相対化する視点を養いつつ、家族関係にかかわる各自の問題関心の発掘、発見およびそこに潜む現代社会がかかえる問題の追究・解明を目標とする。

＜概要＞
ゼミでの学習は、まず「自ら問題を発見し、調べ、まとめて、発表する」という主体的な参加プロセスが重視される。そのうえで、ゼミ生同士がお互いに自らの考えを述べ、相手の意見や考えを理解しつつ、深め合える場にしたいと考えている。ゼミ活動を通して社会生活にとって最も重要である対人関係能力、コミュニケーション能力を養って欲しい。ゼミは学生主体の場であり、教員はそのサポート役と位置づけている。積極的なゼミ活動への参加、企画提案、貢献を強く求めたい。
＊ゼミ受講生の問題関心やその理解を深めるため、テーマ等に応じて外部講師の招聘も予定している。

＜過去のゼミ研究テーマ＞
婚活、男性の子育て、結婚制度についての日本と諸外国との比較研究、性格と兄弟姉妹関係、里親、育児ストレス、子育て不安、中期親子関係と介護、児童虐待、ステップファミリー、父子家庭問題、少年犯罪と家族、共依存と家族、モンスターペアレント、母-息子関係、児童養護施設と子ども、若者の非婚・未婚化、配偶者選択　など、毎年ゼミ生と話し合って決定している。

【授業の方法】
ゼミナール発表会に向けてグループワークやフィールドワークを実施したり、家族にかかわるテーマでディベートを行ったりすることも考えている。

到達目標

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	○	◎	◎	◎	◎

ゼミ教員担当科目	関係する科目
社会心理学、家族社会学	社会学、ライフデザイン論、発達心理学など

テキスト

年度はじめにゼミ生とともに話し合って決定する。

参考書

ゼミを進める中で適宜、紹介する。

成績評価方法

出席し、発言することが大前提であり、無断欠席をはじめとする他のメンバーへの迷惑行為は厳禁である。日頃のゼミ活動全般への参加態度、貢献度などを総合的に評価する。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
ゼミ生の問題関心に応じて家族関係にかかわる基本的かつ重要文献をいくつか選定して輪読する。資料収集・文献検索の方法を習得する。	詳細は、ゼミ生の問題関心、研究進度に応じて決定する。

ゼミ名	吉原第二ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	募集なし	担当教員	吉原　千賀

選考方法	―
研究テーマ	家族関係について「社会」と「心理」から考える

ゼミナールの目標・概要・方法

＜目標＞
「家族」は私たちにとって最も身近な人間関係である。そして、私たちが生まれ落ちてから死後に至るまで、家族との関係は時に形を変えながら私たちに影響を及ぼし続ける。では、「身近である＝よく知っている」と言えるのだろうか。自分の思い描く家族は本当に「ふつう」なのだろうか。このゼミでは、家族を相対化する視点を養いつつ、家族関係にかかわる各自の問題関心の発掘、発見およびそこに潜む現代社会がかかえる問題の追究・解明、４年次では更にそれらを卒業論文としてまとめることが目標となる。

＜概要＞
これまでのゼミで培った様々なスキルや経験、知識を自らの研究テーマへと展開させるとともに、２、３年生に対して指導的立場に立つことにより、「教える」ということからも新たな学びを得て欲しい。
＊ゼミ受講生の問題関心やその理解を深めるため、テーマ等に応じて外部講師の招聘も予定している。

＜過去の卒論研究テーマ＞
結婚活動について　　離婚問題～離婚後も続いていく問題～　　日本のチームワーク意識
人びとが生きるために　　日本の育児～父親のあり方の変化～
きょうだいは本当に「良い」のだろうか～ひとりっ子はかわいそう？～　　家族計画～社会問題との関わり～
現代社会における仕事と子育て～両立の困難～　　専業主婦家庭の母親、共働き家庭の母親
現代の親の幼稚化～その問題点と解決案～　　HIV ウイルスと向き合う日本人
コミュニケーションと人間関係　　就活生における自己呈示
“ふつう”に縛られたステップファミリー―“きずな”で結ばれた家族への道―　　など、各自の関心にもとづいて決定する。

【授業の方法】
ゼミナール発表会に向けてグループワークやフィールドワークを実施したり、家族にかかわるテーマでディベートを行ったりすることも考えている。

到達目標

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	○	○	◎

ゼミ担当教員科目		関係する科目	
	社会心理学、家族社会学		社会学、ライフデザイン論、発達心理学など

テキスト	各自の卒業論文のテーマに応じて適宜、紹介する。
参考書	各自の卒業論文のテーマに応じて適宜、紹介する。
成績評価方法	日頃のゼミ活動全般への参加態度、貢献度、ならびに卒業論文への取組み姿勢、完成度などを総合的に評価する。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
卒論テーマの決定、文献リストの作成 ↓ 文献リストに挙げた文献を読んで先行研究の検討 ↓ レビュー論文を執筆 ↓ 卒論構成の検討	春学期までの内容について中間報告 ↓ 中間報告時のコメントをもとに、卒論構成を決定。章ごとに執筆と修正を繰り返す ↓ １２月：卒論完成、提出 ↓ １月：レジュメを作成し卒論発表会（２，３年生ゼミと合同）で報告

ゼミ名	上野第一ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部（人間科学専攻）	募集学年	新 2 年生 若干名 新 3 年生 若干名	担当教員	上野 泰治

選考方法	教員との事前面接及びゼミ員との集団面接
研究テーマ	幼稚園観察実習

ゼミナールの目標と概要

【目標】
幼児教育・幼児保育の現場について知り、心の働きについて学ぶことを目的とします。

【概要】
前半では、観察実習について学びたいことをまとめ、お互いに発表します。この活動を通じて、発表能力、及び建設的な議論能力を身に着けていきます。後半では観察実習を行います。そのために、観察のマナー、及び園児対応の知識を真摯に学ぶ意欲のある人を歓迎します。

【授業の方法】
観察実習の立案・観察の実施・分析・考察・発表という一連の流れ全てを、学生自身が主体となって議論し、実施していきます。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	① コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	○	○	◎	◎	◎

ゼミ担当教員科目	教育心理学、生徒指導論、教育相談の基礎	関係する科目	教育・心理学に関する全ての科目

テキスト

授業中に指示します。

参考書

授業中に指示します。

成績評価方法

集団活動となりますので、出席してみんなで協力し合うことは成績評価の前提となります。やむを得ない理由で欠席して集団活動に協力できなかった場合には、次週はより積極的にグループ活動に貢献しようという協調性が必要です。その上で、発表・議論への積極性・グループ研究への能動性・レポートを総合的に評価します。なお、全授業の 3 分の 2 以上に出席できない場合は不合格とします。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
文献調査 個人発表と議論 グループ研究のテーマ選定と準備 グループ研究の実施 夏休み：ゼミ生の希望に応じた学習内容	グループ研究の分析と考察 ゼミ発表の準備 ゼミ発表会・反省会 発表内容をレポートとしてまとめ

ゼミ名	上野第二ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部 (児童教育専攻)	募集学年	新 2 年生 若干名 新 3 年生 若干名	担当教員	上野 泰治

選考方法	教員との事前面接及びゼミ員との集団面接
研究テーマ	心理実験

ゼミナールの目標と概要

【目標】
世の中には、「心理学が明らかにした学習方法」や「脳科学に支えられた記憶術」といったフレーズがあふれ、それを売りにする本や教育産業なども見られます。でも、そういった学習方法・記憶術はどれほど効果的なのでしょうか。教育者として現場に立つことを志す者として、そういった脳科学知識・心理学知識が現場においてどれほど効果的であり、どういった限界があるのかを理解することを目標とします。

【概要】
春学期の前半では、文献調査を行い、脳科学や心理学が明らかにした効果的な学習方法・記憶方法」を調べます。春学期の後半から秋学期では、実際に心理実験を実施していきます。

【授業の方法】
研究テーマに関する教育心理学研究のレビュー・まとめ・議論・執筆といった、卒業論文執筆に関わる過程のすべてを学生自身が主体となって進めます。また、他のゼミ生の発表に対し、建設的に議論を交わすことにより、お互いの研究の質を高めていきます。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要／○重要)

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	② コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	○	○	◎	◎	◎

ゼミ教員担当科目	教育心理学、生徒指導論、教育相談の基礎	関係する科目	教育・心理学に関する全ての科目

テキスト

授業中に指示します。

参考書

授業中に指示します。

成績評価方法

集団活動となりますので、出席してみんなで協力し合うことは成績評価の前提となります。やむを得ない理由で欠席して集団活動に協力できなかった場合には、次週はより積極的にグループ活動に貢献しようという協調性が必要です。その上で、発表・議論への積極性・卒業論文を総合的に評価します。なお、全授業の 3 分の 2 以上に出席できない場合は不合格とします。

年間授業計画

(春学期)	(秋学期)
文献調査 個人発表と議論 グループ研究のテーマ選定と準備 グループ研究の実施 夏休み：ゼミ生の希望に応じた学習内容	グループ研究の分析と考察 ゼミ発表の準備 ゼミ発表会・反省会 発表内容をレポートとしてまとめ

ゼミ名	鈴木第一ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部《教職課程》	募集学年	新２年生　５名 新３年生　若干名	担当教員	鈴木　隆弘

選考方法	面接
研究テーマ	学校教育と授業づくり

ゼミナールの目標と概要

【目標】
子どもが育つ環境が大きく変化している中で、学校教育はどのように変化するべきなのか。

本ゼミでは、地域・社会・子どもの変化という視点から、学校教育に関して以下の３点を学んで行きます。
①地域・社会・子どもはなぜ変化しているしているのか。
②その変化に、学校はどのように対応するのか。
③学校や授業をどのようにつくりかえ、変化に対応していくのか。

以上３点のうち２つの視点を学び、教員かつ地域に生きる市民として現代を生き抜く知識やスキルを身につけます。

【概要】
○現在の教育問題、特に地域の変化が学校教育に与えている影響について検討する。
○子どもの現在を学ぶ。
○子どもの成長について貧困が与える影響について分析する。
○学校教育の変化について考える。
なお、教職を志望する学生については、以下の内容の指導も行います。
○授業の研究、授業方法研究
○授業の分析
○学校の抱える問題点をふまえた授業を実際につくってみる。

上記のような検討を通じて、学校教員など子どもに携わる職業に就くための力を身につけていきます。

【授業方法】
○研究のために、文献の輪読及びフィールドワークを適宜行います。外部講師を招くことがあります。
○教員を目指す学生に対しては、教員採用対策・小論文指導・模擬授業等を別途行います。
○ゼミ合宿の参加は原則、義務とします。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	○	◎	◎	○

ゼミ教員担当科目	生活科指導法、社会科指導法、生活、社会 社会科・公民科教育論/指導法 特別活動、教育方法、教職実践演習	関係する科目	生活、社会、理科などの小学校教員養成科目 社会科・公民科教育法など
テキスト	受講生と相談の上、適宜、指定します		
参考書	受講生と相談の上、適宜、指定します		
成績評価方法	理由のない欠席は認めません。 発表の内容、レポート、また議論の参加具合によって、総合的に判断し、評価します。		

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
２年生：テキストの輪読及びフィールドワーク ３年生：テキストの輪読及びフィールドワーク ＊合宿を実施する場合がある。	２年生：テキストの報告及び調査、ゼミ発表 ３年生：テキストの報告、調査、ゼミ発表、卒論のテーマ決定

ゼミ名	鈴木第二ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部《教職課程》	募集学年	募集なし	担当教員	鈴木　隆弘

選考方法	―
研究テーマ	学校教育と授業づくり

ゼミナールの目標と概要

【目標】
以下のテーマに従い研究、並びに卒論作成を行います。

○「授業づくりを中心とした学校教育研究」
　教育実習などで体験した自らの体験を振り返り、授業実践・授業づくりを中心として、学校教育の課題と地域における学校の新しい可能性について研究します。対象は、社会科・生活科・公民科を中心としますが、特別活動、あるいは学校教育全般です。

【概要】
○子どもの成長する場として地域を捉え、地域あり方、地域と教育の関係、現在の教育問題などについて検討する。
○子どもが学ぶ場としての地域と学校の関係などについて分析を捉え、分析する。
○授業内容研究／方法研究
○授業分析
○学校の抱える問題点と授業（教科教育に限りません）の関係について

【授業方法】
○研究のために、文献の輪読及びフィールドワークを適宜行います。外部講師を招くことがあります。
○教員を目指す学生に対しては、模擬授業等を行うこともあります。
○フィールドワークは、ゼミ合宿などで行うことがあります。
○ゼミ合宿の参加は、卒論に向けた中間発表があるため、原則、義務とします。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	○	◎	◎	○

ゼミ担当教員科目	生活科指導法、社会科指導法、生活、社会 社会科・公民科教育論/指導法 特別活動、教育方法、教職実践演習	関係する科目	生活、社会、理科などの小学校教員養成科目 社会科・公民科教育法など

テキスト	受講生と相談の上、適宜、指定します
参考書	受講生と相談の上、適宜、指定します
成績評価方法	理由のない欠席は認めません。 発表の内容などに加え卒論を中心に判断し、評価します。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
○卒論テーマの検討 ○卒論に向けた報告 ○（教育実習及び教員採用試験対策など） ＜ゼミ合宿もしくは夏休み明け＞ 卒論中間報告	○卒論に向けた研究 ○卒論作成

ゼミ名	松丸啓子第一ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部《教職課程》	募集学年	新２年生　　６名 新３年生　若干名	担当教員	松丸　啓子

選考方法	小論文・面接
研究テーマ	＜哲学すること＞入門

ゼミナールの目標・概要・方法

「哲学」というと、何やら難解な抽象的議論を展開するものだと誤解している人は多いと思います。さらに、「哲学を学ぶ」というと、ソクラテスやプラトンに始まり、デカルトやカントをへて、ハイデガーやヴィトゲンシュタインへといたるような、有名な哲学者たちの書いた書物を何はともあれ苦労しながら読み、理解することだと捉えている人が大多数かもしれません。しかし、このゼミでは、そのような“他人”の考えた、出来上がってしまっている「哲学」を勉強するのではなく、自分が〈哲学すること〉を始めてもらいます。

その一つのきっかけとして、まず永井均の『子どものための哲学対話』を輪読し、議論していきます。そうして、〈哲学すること〉が少し楽しくなってきたところで、今度は“自分”について〈哲学すること〉を課題にします。今まで、素朴な疑問として問うてきたことが、実はかなり〈哲学すること〉そのものへと通じていることに気付いてほしいと考えています。

学習方法としては、何よりも、自分を取り巻く環境の中で今何が起こっているのか、それにはどのような意味があるのか、と素朴な疑問を手放さずに、常日頃から問うていくことが大切です。テキストの講読も、そうした問いかけをするための手助けとして行います。

【授業の方法】
本ゼミナールにおいては、参加者各自が指定テキストの研究報告を分担し、順番にプレゼンテーションを実施していく。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
○	○	◎	◎	◎	◎	○

ゼミ担当教員科目	関係する科目
人間形成論 A/B、教育原理、道徳教育論	広義には、あらゆる科目と相互に関連しています。

テキスト

永井均『子どものための哲学対話』（講談社、1997 年）
永井均『＜子ども＞のための哲学』（講談社、1996 年）

参考書

随時、ご紹介します。

成績評価方法

出席状況・研究内容及び報告・議論への参加・レポートにおける自己表現等の観点から、総合的に評価します。特に、主体的に考える態度を重視します。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
① ガイダンス	① 友だちは必要か？
② 人間はなんのために生きているのか。	② いやなことをしなければならないとき
③ ネクラとネアカ －生まれのよさ－	③ うまく眠るこつ
④ 人生体験マシン	④ ニンゲンのココロ
⑤ 善と悪を決めるもの	⑤ 物は見えるからあるのか、あるから見えるのか？
⑥うそはついてもいいけど、約束をやぶってはいけない？	⑥ 青い鳥はいつ青くなったのか？
⑦ へんなしごとの意味	⑦ ニュートンはリンゴが木から落ちるのを見て引力を 発見した!?
⑧ なぜ音楽評論家は必要か？	⑧ この世の中は約束によってできた？
⑨ 言葉の意味だれが決める？	⑨ ぼくが生まれるために必要なこと
⑩ 元気が出ないとき、どうしたらいいか？	⑩ 死について
⑪「強さ」について	⑪ 秋学期のまとめ
⑫ 春学期のまとめ	⑫ 一年間のまとめ

ゼミ名	松丸啓子第二ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部《教職課程》	募集学年	新４年生	担当教員	松丸　啓子

選考方法	募集なし
研究テーマ	＜哲学すること＞入門

ゼミナールの目標・概要・方法

「哲学」というと、何やら難解な抽象的議論を展開するものだと誤解している人は多いと思います。さらに、「哲学を学ぶ」というと、ソクラテスやプラトンに始まり、デカルトやカントをへて、ハイデガーやヴィトゲンシュタインへといたるような、有名な哲学者たちの書いた書物を何はともあれ苦労しながら読み、理解することだと捉えている人が大多数かもしれません。しかし、このゼミでは、そのような“他人”の考えた、出来上がってしまっている「哲学」を勉強するのではなく、自分が〈哲学すること〉を始めてもらいます。

その一つのきっかけとして、まず永井均の『子どものための哲学対話』を輪読し、議論していきます。そうして、〈哲学すること〉が少し楽しくなってきたところで、今度は“自分”について〈哲学すること〉を課題にします。今まで、素朴な疑問として問うてきたことが、実はかなり〈哲学すること〉そのものへと通じていることに気付いてほしいと考えています。

学習方法としては、何よりも、自分を取り巻く環境の中で今何が起こっているのか、それにはどのような意味があるのか、と素朴な疑問を手放さずに、常日頃から問うていくことが大切です。テキストの講読も、そうした問いかけをするための手助けとして行います。

【授業の方法】
本ゼミナールにおいては、参加者各自が指定テキストの研究報告を分担し、順番にプレゼンテーションを実施していく。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
○	○	◎	◎	◎	◎	○

ゼミ担当教員科目	関係する科目
人間形成論 A/B、教育原理、道徳教育論、	広義には、あらゆる科目と相互に関連しています。

テキスト

永井均『子どものための哲学対話』（講談社、1997 年）
永井均『＜子ども＞のための哲学』（講談社、1996 年）

参考書

随時、ご紹介します。

成績評価方法

出席状況・研究内容及び報告・議論への参加・レポートにおける自己表現等の観点から、総合的に評価します。特に、主体的に考える態度を重視します。

年間授業計画

（春学期）
① ガイダンス
② 人間はなんのために生きているのか。
③ ネクラとネアカ －生まれのよさー
④ 人生体験マシン
⑤ 善と悪を決めるもの
⑥うそはついてもいいけど、約束をやぶってはいけない？
⑦ へんなしごとの意味
⑧ なぜ音楽評論家は必要か？
⑨ 言葉の意味だれが決める？
⑩ 元気が出ないとき、どうしたらいいか？
⑪「強さ」について
⑫ 春学期のまとめ

（秋学期）
① 友だちは必要か？
② いやなことをしなければならないとき
③ うまく眠るこつ
④ ニンゲンのココロ
⑤ 物は見えるからあるのか、あるから見えるのか？
⑥ 青い鳥はいつ青くなったのか？
⑦ ニュートンはリンゴが木から落ちるのを見て引力を 発見した!?
⑧ この世の中は約束によってできた？
⑨ ぼくが生まれるために必要なこと
⑩ 死について
⑪ 秋学期のまとめ
⑫　一年間のまとめ

ゼミ名	松丸修三ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部《教職課程》	募集学年	新3年生　3名	担当教員	松丸　修三

選考方法	面接
研究テーマ	教育の世界（いじめ・不登校・学級崩壊・教育格差などの問題）

ゼミナールの目標・概要・方法

このゼミは、教育の世界、とりわけ学校教育について理解を深めるとともに、各自が持っている関心や疑問にしたがって、そうした教育の世界について共同研究を行おうというゼミです。2 年次の段階では、共通のテキストを読んで、今日の学校教育の現状や課題について理解を深め、それ以降は、そうした理解をもとに、文字通り、各自の関心や疑問を生かした共同研究を行っていくことにします。

ゼミ生の皆さんの努力と工夫により、上記のような研究がやがて 3 年次のゼミ発表会や 4 年次の卒業論文などとして結実することを期待しています。

なお、このゼミには、卒業後教職に就くことを希望している学生が少なからずいることと思います。したがって、そうした学生の教員採用試験準備の一助となるような内容も予定しています。この点については、ゼミが始まってから、何をどのように行うか、希望者と相談して決めることにしたいと思います。

【授業の方法】
このゼミでは、調査学習、発表、共同討議、グループワーク等、アクティブラーニングの方法をとります。

⑧到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	○	◎	○	○

ゼミ担当教員科目	教育学、教育制度、教育実践研究	関係する科目	教育学、教職課程の諸科目。

テキスト

相談して決める予定です。

参考書

必要に応じて随時紹介します。

成績評価方法

ペーパーテストは行いません。①学習上の姿勢（30%）、②共同討議への参加度（30%）、③個人発表やレポート等の内容（40%）、の三つを総合して成績を評価します。なお、欠席回数が授業回数の３分の１をこえた場合は、原則として不合格とします。

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
相談して決める予定です。	相談して決める予定です。

ゼミ名	松丸明弘ゼミナール （Seminar）	学部	人間科学部《教職課程》	募集学年	新２年生５名 新３年生５名	担当教員	松丸明弘

選考方法	面接
研究テーマ	新しい社会科（歴史）の授業

ゼミナールの目標・概要・方法

【ゼミナールの目標】

皆さんは、小学校・中学校・高等学校あるいは予備校でと「歴史」,「世界史」、「日本史」などの授業を受けてきたと思います。おそらく、そこでは、受験の対策などをする必要があり、通史の学習が中心で、教科書中心の講義形式の授業を受けてきたことが多いのではないかと思います。もちろん、通史の学習は、たいへん大事なことです。基本がなければ何も始まりません。

また、学校では、科目によって様々な好き嫌いをもつ生徒がいます。社会科、特に歴史科目は、暗記することが多いので大嫌いと公言してはばからない生徒がいます。教師になれば、こうした科目に好き嫌いのある様々な生徒を教えることになります。このような環境の中で、歴史が嫌いで苦手な生徒にも勉強してもらえるような新しい教育方法を体験し、また自分で考えてもらおうと考えています。

【授業の方法】

教育方法の視点から自分なりに新しい方法を導入して、教材をつくり、実際に他の学生を生徒と見立てて授業をしてもらいたいと考えています。アンケート・感想やテストも用意して、授業をおこなう前と授業をおこなった後では、どのような変容がみられたかを調べてまとめる作業もしていきます。

最初は、いくつかの方法論を紹介します。皆さんには授業を受ける生徒になってもらいます。図版をみて考える討論授業、歴史上の人物や事件を取り上げてのカルタづくり、シミュレーションゲーム、ロールプレイング、ディベート、寸劇などの方法でおこなう授業のいくつかを実際に体験してもらい、その上で自分なりの授業つくりを考えていってもらいたいと考えています。

到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	○	○	◎	◎	○

ゼミ担当教員科目		関係する科目	
	ゼミⅠ		教育学、日本史・世界史など

テキスト

授業の際に紹介します。

参考書

授業の際に紹介します。

成績評価方法

出席、授業への取り組み、レポートの内容などで総合的に評価します。

年間授業計画

（春学期）

４月～６月　教育実践例の紹介
７月　興味関心のあるテーマを決め、計画の発表
夏休み　各自のテーマの研究

（秋学期）

10 月　それぞれの研究内容について中間発表
11 月　中間発表を踏まえて研究
12 月～１月　研究してつくったテーマで授業形式の最終発表

ゼミ名	山田良一第一ゼミナール（Seminar）	学部	人間科学部《教職課程》	募集学年	新２年生 若干名 新３年生 若干名	担当教員	山田良一

選考方法	面接
研究テーマ	新時代に輝く教育の創造（心理的アプローチを活用したよりよい人間関係作り）

ゼミナールの目標・概要・方法

【目標】
子ども達を取り巻く環境が大きく、また、急激に変容している。農耕社会から工業社会へ、工業社会から情報社会へ、そして、さらに、超スマート社会、いわゆる第五の社会へと突き進み、先端技術の社会や生活への導入が日々加速されています。また、高齢化社会、少子化、経済格差も一層進み、子ども達は今の大人が体験していない未知なる未来世界へと歩み始めています。
しかし、次世代社会へと移行しようとする今も、「いじめ・不登校・問題行動・非行など」教育の課題は一向に収束されていないのが現状です。
その教育的課題を解決しうるスキルと能力を身につけ、さらに、次世代に向けた新学習指導要領を学び、新たな教師像を追求していくことを目標としますが、教師志望に限らず、誰もが必要となる家庭教育でも同等の子育て視点が大切となります。
【概要】
心と行動の理解と教育の視点
○「いじめ・不登校・問題行動・非行」の実践的に研究する。
○心の理論をベースに「問題行動とストレス」を研究し、教師力を追求する。
上記のようなテーマを視点に、ゼミ生自らがテーマを具体的に設定し、教師力・家庭教育力を高める基礎を追求します。

【方法】
研究テーマに沿った文献による情報の収集と整理、理論研修をすすめます。また、実際にフィールドワークや実地調査を行い、実践的な課題を追求します。また、グループ討議を行ったり、思考ツールを活用したりしながらより効果的な学びを目指していきます。
必要に応じて、外部講師を招くこともあります。

⑧到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	○	○	◎	○	○

ゼミ担当教員科目	関係する科目
教師論、教職実践演習	児童心理学、教育心理学、生徒指導論、 ストレスマネジメント教育等

テキスト

受講生と相談の上、適宜、指定します

参考書

受講生と相談の上、適宜、指定します

成績評価方法

欠席については理由を明確に示してください。
発表の内容、レポート、議論等を総合的に判断し、評価します

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
これまでの体験した学校生活と自身を振り返って 教育課題と研究の方向性を探る 文献の調査と熟読する 研究課題点を明確にする グループ討議等で深める 夏休み：ゼミ生の希望や必要に応じた学習を計画する	グループ討議 具体的な対応の検討 ２年生　ゼミ発表 ３年生　ゼミ発表　卒論のテーマ決定 ゼミ生の希望や必要に応じてすすめる

ゼミ名	山田良一第二ゼミナール（Seminar）	学部	人間科学部《教職課程》	募集学年	新２年生 若干名 新３年生 ０名	担当教員	山田良一

選考方法	面接
研究テーマ	新時代に輝く教育の創造（新しい学習指導と教授法）

ゼミナールの目標・概要・方法

【目標】
子ども達を取り巻く環境が大きく、また、急激に変容している。農耕社会から工業社会へ、工業社会から情報社会へ、そして、さらに、超スマート社会、いわゆる第五の社会へと突き進み、先端技術の社会や生活への導入が日々加速されています。また、高齢化社会、少子化、経済格差も一層進み、子ども達は今の大人が体験していない未知なる未来世界へと歩み始めています。
しかし、次世代社会へと移行しようとする今も、「いじめ・不登校・問題行動・非行など」教育の課題は一向に収束されていないのが現状です。
その教育的課題を解決しうるスキルと能力を身につけ、さらに、次世代に向けた新学習指導要領を学び、新たな教師像を追求していくことを目標としますが、教師志望に限らず、誰もが必要となる家庭教育でも同等の子育て視点が大切となります。
【概要】
新しい学習形態の開発と主体的な学びを進める学級経営の追求
○児童生徒が主体的、対話的な学習を通して深い学びへと導く授業の研究をすすめる。
○主体的学びが広がる学級経営をマネジメントできる教育力の研究をすすめる。
上記のようなテーマを視点に、ゼミ生自らがテーマを具体的に設定し、教師力・家庭教育力を高める基礎を追求します。

【方法】
新しい学習指導要領では「アクティブラーニング」を主体とする授業改革が進められます。そこで、研究方法を進めるに当たって、まずは「アクティブラーニング」そのものの理解を進め、自らが実践できるスキルを身につけます。その上で、各自の研究テーマに沿って情報のまとめ方として思考ツールを使ったり、グループで協議しながら多面的多角的思考を深めたり、自身の考えを発表し合ったりなどして、より深い研究を進めていきたいと考えています
また、必要に応じて外部講師を招くこともあります。

⑧到達目標

【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）

(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	○	◎	○	○

ゼミ担当教員科目	関係する科目
教師論、教職実践演習	研究したい教科（算数、社会、理科、ＡＩを含む）関係 学級経営等に関係する科目

テキスト

受講生と相談の上、適宜、指定します

参考書

受講生と相談の上、適宜、指定します

成績評価方法

欠席については理由を明確に示してください。
発表の内容、レポート、議論等を総合的に判断し、評価します

年間授業計画

（春学期）	（秋学期）
これまでの体験した授業や学級を振り返って 学習形態の理解と研究の方向性を探る 参考授業の資料を収集する グループ討議等で深める 夏休み：ゼミ生の希望や必要に応じた学習を計画する	具体的な学習プランを立案する 実践的な学級経営を立案する グループ討議等で理解を深める ２年生　ゼミ発表 ３年生　ゼミ発表　卒論のテーマ決定 ゼミ生の希望や必要に応じてすすめる